

聖徒の道

4
1998

末日聖徒イエス・キリスト教会



聖徒の道



表紙

表紙—「主はよみがえられた」デル・パーソン画
裏表紙—左から、「ゲツセマネのキリスト」ハインリッヒ・ホフマン画；「十字架へのはりつけ」カール・ヘンリック・ブロック画、国立歴史美術館の許可を得て掲載；「疑い深いトマス」カール・ヘンリック・ブロック画

こどものページ

「キリストと子供たち」デル・パーソン画

一般

- 2 大管長会メッセージ—「ごらんなさい。これはあなたの母です」
第一副管長トマス・S・モンソン
- 18 主の聖なる名を尊ぶ ロバート・L・ミレット
- 26 7つの雷の舌
- 32 ロシアにおける信仰の受け継ぎ ゲリー・ブラウニング
- 42 癒しへの旅

青少年

- 8 イエスの話 リチャード・M・ロムニー
- 16 救い主に焦点を当てた復活祭 リサ・M・グローバー

定期特別記事

- 1 読者からの便り
- 25 家庭訪問メッセージ— 秩序の家、神の家

こどものページ

- 2 友だちになろう— アルゼンチンのブエノスアイレスから
ウーゴ・ロベス ディエーン・ウォーカー
- 5 モルモン書物語— 『モルモン書』のやくそく
- 6 分かち合いの時間— 道がある シドニー・レイノルズ
- 8 「選べ、正義を」 シーラ・R・ウッダード
- 11 イースタークイズ
- 12 見て、学ぼう— 総大会の活動
- 14 ちいさなみんなのために— 一番のありがとう
サムエル・パルサイファー
まどにかざる絵 ロージー・セントローン



こどものページ、
14ページ参照

8ページ参照



本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の日本語版公式刊行物です。

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーグス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング
編集長:ジャック・H・ゴーズリンド
顧問:ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者

実務部長:ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター:ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹:マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐:R・バル・ジョンソン
編集副主幹:デビッド・ミッチェル、ティエーン・ウォーカー
編集補佐:ジェニファー・グリーン・ウッド
工程管理:メアリーアン・マーティンデール
出版補佐:ベス・デーリー

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスディレクター:M・M・カワサキ
アートディレクター:スコット・バン・カンペン
デザイナー:シエリー・クック
制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ
制作:レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、タッド・R・ピーターソン

予約購読スタッフ

ディレクター:ケイ・W・ブリッグス
配送部長:クリス・クリステンセン
マーケティング部長:ジョイス・ハンセン
●定期購読は、「『聖徒の道』 予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines April, 1998.
Japanese, 98984 300

April 1998 no. 4. SEITO NO MICHI (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. U.S.A. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both old and new address are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

すべての会員が入手できる機関誌

1996年12月号『デア・シュテルン』(ドイツ語版。「星」の意)の「読者からの便り」にロシア・ロストフ伝道部で伝道中のフェリックス・パンクラトフ長老からの手紙が掲載されていました。この手紙を読み、わたしの喜びを手紙でお伝えすにはいられなくなりました。多くの人々の祈りがかない、現在ロシアの人々は教会の機関誌を手にし、真理に対する証を機関誌から得ています。85歳の教会員であるわたしはその様子を知り、喜びを実感できるのは何と幸福なことでしょう。ロシアの人々がそのような祝福を得るのをわたしはずっと待ち望んできました。教会の機関誌は靈感をもたらし、また今ではすべての会員が手にすることができます。

スイス・ベルンステーキ、
フライブルクワード
マルガレーテ・グラウ



主の腕に抱かれて

しばらく前のことです。1997年4月号の『ディ・シュテルン』(オランダ語版。「星」の意)が届き、いつものように家事を終え、一息ついてから読み始めました。すると「こどものページ」の表紙に目が留まったのです。そこには幼い少女を抱かれるイエス・キリストが描かれていました。わたしはすでに成人して2児の母親となっていますが、その絵を見た瞬間、その少女になって救い主の腕の中で安らぎたいと思いました。

その日は一日中絵が頭の中から離れませんでした。自分の子供を腕に抱き愛を伝えたいと思いました。子供たち

が自分を信頼してくれていると分かったときはうれしく思いましたが、彼らが主を信頼していると知ったときにはさらに喜びを感じました。

寝る前祈っていると、一瞬、あたかも主の腕に抱かれているような感覚を覚え、心からの安らぎを感じることができました。

オランダ・ロッテルダムステーキ、
ドルドレヒト支部
アナリーセ・プレントベリス

心の変化

教会員となって3年以上たちます。ロシアの末日聖徒の多くの若者と同様、わたし自身も、自らの心をイエス・キリストの福音にささげるにつれて生活が変わりました。『リアホナ』(ロシア語版)を読むときに、助けと愛を感じられるので感謝しています。

ロシア・サンクトペテルブルグ南地方部、
アプトボ支部
カリーナ・ボドボズバ



救い主の愛

『リアホナ』(スペイン語版)の記事を読むのが大好きです。表紙の絵を見るのも大好きです。特に印象に残っているのは、1996年1月号の表紙で、マタイによる福音書第23章37節から39節を描写しているものです。とても気に入ったので、イエス・キリストがわたしたちをどれほど愛されているか考えながら、しばらくの間その絵を眺めていました。

ベネズエラ・エルティグレ地方部、
バリアグアン第2支部
ダメリス・ヘルナンデス・デ・モタ

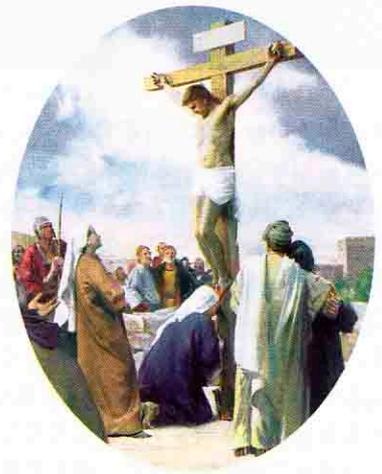


「ごらんなさい。 これはあなたの母です」

第一副管長
トーマス・S・モンソン

あ　　夏の日、わたしはフィリピンのアメリカ人戦没者記念墓地の静寂の中で、一人たたずんでいました。敬虔な^{けいけん}雰囲気、暑い熱帯の空気に立ち込めています。入念に手入れされた広大な芝生の墓地の真ん中には、数々の名前の刻まれた墓標が立っていました。その名前の大部分は、まだ若いうちに、戦いに命をささげた人々のものです。この人々の栄誉を記念して立てられた数々の墓標に刻まれた数多くの名前を一つ一つ読んでいくうちに、わたしの目には自然に涙があふれ、とめどなく^{ほお}頬を伝い始めました。わたしの目が涙でいっぱいになるにつれ、わたしの心は彼らを誇りに思う気持ちで圧倒されそうになりました。それは、自由というものの高い代償について深く考え、その自由を獲得するためにどれだけ多くの人々が戦争に召集され、高価な犠牲を払ってくれたかについて、しばし考えたからです。

やがて、わたしの思いは、果敢に戦い、雄々しく死んでいった人々のもとを離れ、悲しみに打ちひしがれた母親の心に向いていきました。この戦死者にはそれぞれ母親がおり、その母親は、かけがえのない息子の払った、何よりも貴い犠牲の知らせをその手に受け取ったのです。そのときの母親の悲しみの深さを、だれが推し測れるでしょうか。だれが母親の愛の深さを測ることが出来るでしょうか。母親の崇高な役割について、完全に理解できる人がいるでしょうか。神に^{かんべき}完璧な信頼を寄せつつ、母親は、その手を神の手にゆ



救い主が残酷な十字架上で苦しみながら下を御覧になると、母親と、その隣に御自身が愛した弟子の立っている姿が目に入ります。主は言われます。「『婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です。』それからこの弟子に言われた、『ごらんなさい。これはあなたの母です。』」



わたしたちには、その孤独の心の痛みが理解できないのでしょうか。母親の心からの望みが聞こえないのでしょうか。来る日も来る日も、老境にあってただ一人で、窓の外を眺めながら、訪ねてくれることのない愛する人の訪れを待ちわびているのです。

が涙を流すのを、このとき初めて見ました。わたしは今でもあのときの光景をはっきりと覚えています。視力のない両目からあふれた涙は、やがて小さな流れとなって、頬を伝い、そして、彼が自分の目で見たとことのない上着の襟に落ちたのです。当時まだ幼かったわたしは、なぜ大人たちが皆、黙っているのか、なぜあれほど多くのハンカチが目に留まったのか、不思議に思っていました。しかし、今ではよく分かります。皆、母親の思い出に浸っていたのです。老若男女を問わず、皆「わたしはあのすばらしき我が母を忘れまい」と心に誓っていたのではないのでしょうか。

数年前に、すでに老境に入っているある男性が、自分の家族歴史に関する経験について話すのを聞いたことがあります。彼とそのきょうだいに生を与えた母親も、夫に先立たれた女性としての暮らしを終え、永遠の世へ十分な報いを携えて旅立って行きました。子供たちはその家に集まり、大きなダイニングテーブルを囲みました。母親がこの世の大切なものを保管しておいた、小さな金属製の箱が、敬虔な思いで開けられました。形見が一つ一つテーブルの上に並べられます。ソルトレーク神殿の結婚証明書が出てきました。「これでお母さんはお父さんと一緒にいられるわ。」次に、子供たち一人一人がこ

の地上に来る舞台となった、そのささやかな家の権利書が出てきました。その家の評価額は、それを保管していた母親の価値に比べたら、取るに足りないほどささやかでした。

次にいかにも年代を思わせる黄ばんだ封筒が出てきました。その封筒を慎重に開けると、中から出てきた物は、手製のバレンタインカードでした。短い言葉が、いかにも子供っぽい字でこう書かれています。「お母さん、大好き。」母親はすでに亡くなってしまいましたが、大切に保管してきた物によって、母親はまた一つ教訓を与えたのです。その部屋は静まり返っていました。子供たちは皆それぞれに、「母を忘れまい」、それだけでなく「母の名を汚すまい」と誓っていたのです。

祝福された母親

さてここまで、「忘れられぬ母親」のことを考えてきましたから、今度は「祝福された母親」にも目を向けてみましょう。最も美しく、また敬虔な例の一つが、聖文の中に書かれています。

わたしたちの主に関する記述がある『新約聖書』の中で、心優しい主が嘆き悲しむナインのやもめに声をかけられたときの場面ほど感動的な「祝福された母親」の記録はありません。

「そののち、間もなく、ナインという町へおいでになったが、弟子たちや大ぜいの群衆も一緒に行った。

町の門に近づかれると、ちょうど、あるやもめにとってひとりむすこであった者が死んだので、葬りに出すところであった。大ぜいの町の人たちが、その母につきそっていた。

だね、死の陰の谷を歩みます。その結果、皆さんやわたしは、光の中に生まれ出ることができたのです。

わたしの口から出る最も聖なる言葉
心に浮かぶ最も貴い思い
わたしはその名をたたえるにはふさわしくない。
何にも増して気高いもの。
幼いとき、その愛に目覚め
今なお、その愛を慕う
敬虔に、その名を呼ぶ
祝福された母の名を。¹

これと同じ精神で、母親について考えてみましょう。4種類の母親が心に浮かびます。最初は、忘れられた母親。次は、忘れられぬ母親。3番目は、祝福された母親。最後は愛される母親です。

忘れられた母親

「忘れられた母親」は、ほとんどどこでも目にします。老人ホームは入居者であふれ、病院のベッドも満杯です。1日が過ぎ、また多くの場合、1週間が過ぎ、1か月が過ぎてても、そのような母親には訪ねて来る人がいません。わたしたちには、その孤独の心の痛みが理解できないのでしょうか。母親の心からの望みが聞こえないのでしょうか。来る日も来る日も、老境にあってただ一人で、窓の外を眺めながら、訪ねてくれることのない愛する人の訪れを、そして、配達されることのない手紙を、待ちわびているのです。決してたたかれることのないドアのノックの音に、また、決して鳴ることのない電話のベルの音に、そして、決して聞こえることのない声に、ひたすら耳を傾けているのです。そのような母親は、老人ホームの同じような仲間が、笑みを浮かべた息子を喜んで出迎え、訪ねて来た娘に抱き締められ、そして「おばあちゃん、元気？」という喜びにあふれた声を子供にかけてもらっているとき、一体どんな気持ちでいるのでしょうか。

ほかに、わたしたちが母親を忘れていたときがあります。わたしたちが何か過ちを犯すとき、あるいはまた、求められていることを十分に行わないとき、ほんとうの意味で、わたしたちは母親を忘れていたのです。

わたしは老人ホームの経営者と話をしたときのことを今でも覚えています。彼女は、わたしたちの立っている廊下から、静かな雰囲気のリビングルームに集まっている老齢の女性を何人か指差して、こう言いました。「あそこにいる人がハンセンさんです。毎週、日曜日の午後3時には、決まってお嬢さんが訪ねて来られます。ハンセンさんの隣がピークさん。毎週水曜日には、ニューヨ

ークにいる息子さんから手紙が届きますの。それを何度も読み返して、それからまるで宝物のように大事に取っておくんですよ。それに引き換え、あのキャロルさんは、家族からの電話も手紙も、訪問もないんです。家族のそんな仕打ちをじっと我慢しながら、『あの子たちは、みんな、とても忙しいんですよ』と言っています。よく聞く言葉ですが、だれもそれで納得しませんし、言い訳にもなりませんよ。』

気高い女性を「忘れられた母親」にしている人たちがいたら、その人たちは皆、反省する必要があります。

ソロモンはこう書いています。「あなたを生んだ父のいうことを聞き、年老いた母を軽んじてはならない。」²忘れられた母親を「忘れられぬ母親」にすることはできないのでしょうか。

忘れられぬ母親

人は、母親のことを思い起こすとき、間違った生き方を改め、良心の目指すところから従って歩み始めます。アメリカの南北戦争の時代にヒギンソン大佐という有名な軍人がいました。あるとき彼は、南北戦争のときの出来事で、勇気という点で最も印象に残っている出来事を教えてほしいと言われたことがあります。これに対して、自分の連隊には、だれからも好かれ、勇敢で気高く、日常生活に汚れた点も見られず、たいてい人間が染まるような悪習慣ともまったく無縁だった人物がいたと答えました。

ある晩、シャンパンパーティーと呼ばれる酒の出る食事会でのことです。多くの者が酒に酔っているさなか、だれかがふざけて、この青年に向かって乾杯の音頭を取るよう言ったのです。ヒギンソン大佐はそのときを思い出してこう言っています。「その青年は立ち上がりました。顔面はそうはくでしたが、まったく自制心を失っていませんでした。そして、大きな声でこう言ったのです。『皆さん、皆さんは自分で飲みたいものを持って乾杯してください。わたしは水で乾杯します。そして、こう言わせていただきます。『我らの母に乾杯！』』

するとたちまちのうちに、ほろ酔い気分の兵士たちが皆、奇妙な雰囲気包まれ始めたのです。彼らは黙って乾杯しました。笑う者も歌う者もなく、やがて一人づつ部屋を出て行きました。思い出のランプに火がともり始めたのです。「母」という言葉が、兵士たちの心の琴線に触れたのです。

わたしは子供のころに経験した、母の日の日曜学校をよく覚えています。わたしたちは母親一人一人に小さな鉢植えをプレゼントし、物思いにふけりながら、静かに座っていました。すると、盲目のメルビン・ワトソン兄弟がピアノのそばに立って、「あのすばらしき我が母」という曲を歌ってくれました。わたしは目の見えない人



母親に対する純粋な愛を行動で示すことのできる確実な方法が一つあります。それは、母親が忍耐強く教えてくれた真理に従って生きることです。

御方のおかげで、生き返ったあの死者は、皆、一体どこにいらっしゃるのでしょうか。

しかしながら、忠実な人々もわずかながら残っています。主が残酷な十字架上で苦しみながら下を御覧になると、母親と、その隣に御自分が愛した弟子の立っている姿が目に入ります。主は言われます。「『婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です。』それからこの弟子に言われた、『ごらんなさい。これはあなたの母です。』」⁷

この恐ろしい時を機に、時間はその動きを止め、地は震え、大なる山々は震え動きました。しかし、数々の歴史の記録にあるように、時を超え、時代を超えて、主の簡潔で神聖な言葉は響きわたっています。「ごらんなさい。これはあなたの母です。」

わたしたちがほんとうの意味であの優しい呼びかけに耳を傾け、心から喜んでその教えに従うなら、大勢の「忘れられた母親」たちの存在も永遠になくなることでしょう。「忘れられぬ母親」と「祝福された母親」と「愛される母親」が、世界のどこでも見られる日が訪れるでしょう。そのときになって初めて、初めの時と同じように、神がもう一度、御自身の手になる業をお調べになって、「それは、はなはだ良かった」⁸と言われる日が来るのです。

わたしたち一人一人がこの真理を大切に心にとどめておくことができますように。人は、母親を忘れていなが

ら、神を覚えていることなどできません。また、母親を覚えていながら、神を忘れることもできないのです。なぜでしょうか。神と母親という、この二人の神聖な存在は、創造と愛、犠牲と奉仕において、パートナーであり、一つなのです。□

注

1. ジョージ・グリフィス・フェザー “The Name of Mother” *Best-Loved Poems of the LDS People* 「母の名」『末日聖徒愛唱詩集』ジャック・M・リオン他による共同編集, 218
2. 箴言 23:22
3. ルカ 7:11-15
4. ジョイ・アリスン 『末日聖徒愛唱詩集』217-218
5. アルマ 56:45-48
6. アルマ 56:56
7. ヨハネ 19:26-27
8. 創世 1:31参照

ホームティーチャーへの提案

1. わたしたちが母親を愛するというのは、母親を覚えているとき、そして、言葉や行いによって母親を祝福し、愛するときです。
2. 主イエス・キリストは模範によって、母親にどうやって祝福をもたらし、愛することができるか、示してくださいました。
3. 「人は、母親を忘れていながら、神を覚えていることなどできません。また、母親を覚えていながら、神を忘れることもできないのです。」それはなぜでしょうか。

主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、『泣かないでいなさい』と言われた。

そして近寄って棺に手をかけられると、かついでいる者たちが立ち止まったので、『若者よ、さあ、起きなさい』と言われた。

すると、死人が起き上がって物を言い出した。イエスは彼をその母にお渡しになった。³

何という力、何という優しさ、何という哀れみを、わたしたちの主であり、模範である御方は表されたことでしょうか。わたしたちも、主の気高い模範に従いさえすれば、同じように人々に祝福をもたらすことができるのです。機会はどこにでもあります。必要なものは、哀れな境遇にいる人々を捜し出す目であり、打ち砕かれた心を持つ人々の沈黙の祈りを聞く耳であり、そして、哀れみにあふれた心です。それにより、わたしたちは目や口、耳でコミュニケーションを図るだけでなく、救い主の偉大な模範に従って、心と心を通じ合わせることができるようになるのです。そのとき初めて、世界中の母親が皆、「祝福された母親」になることでしょう。

愛される母親

最後に「愛される母親」について考えてみましょう。わたしが子供のころによく耳にしたこの「どの子がいちばん愛してた？」という詩は、今でも子供たちに愛唱されていますが、場所と時代を超えて当てはまる普遍的な内容を含んでいます。

『母さん大好き』と、小さなジョンが言いました。

でも、自分の仕事は忘れ、帽子を取ると庭に出て、ブランコ遊びに夢中です。

水くみ、まき運びはどこへやら。

『母さん大好き』と、赤いほっぺのネルが言いました。

『口では言えないくらい大好きよ。』

でも、一日中家の中でいたずらしたり、怒ったり。

ネルが外へ行くと、母さんはようやくほっと一息。

小さなファンが『母さん大好き』と言いました。

『今日は何でもお手伝いするわ。』

学校が休みだからうれしいの。』

揺りかごの赤ちゃんをあやして、静かに寝かせ、

それからそっとほうきを取りに行き、

床を掃いて部屋掃除。

忙しくても楽しい一日。

子供にできる精いっぱいのお手伝い。

『母さん大好きよ』と3人が

声をそろえておやすみ前のごあいさつ。

母さんはどの子がいちばん

自分を愛していると思ったことでしょう。⁴

母親に対する純粋な愛を行動で示すことのできる確実な方法が一つあります。それは、母親が忍耐強く教えてくれた真理に従って生きることです。そのような遠大な目標は、現代を生きるわたしたちにとって、決して目新しいものではありません。『モルモン書』に書かれた時代の中に、ヒラマンという名前の、勇敢で、善良な、気高い指導者の記録があります。このヒラマンは、2,000人の若者の先頭に立って、義の戦いの指揮を執った人物でした。ヒラマンはその若者たちの働きについて、次のように記録しています。

「わたしはこれまでこのような大いなる勇気を一度も見ることがありません。……彼らもわたしに、『父よ、まことに、神はわたしたちとともにいて、わたしたちが敗れることのないようにしてくださいます。ですから、出て行きましょう。……』』と言いました。

彼らはまだ一度も戦ったことがありませんでしたが、死を恐れませんでした。……彼らは母親から、疑わなければ神が救ってくださると教わっていたのです。

そして彼らは、わたしに母親たちの言葉を告げて、『わたしたちは、母たちがそれを知っていたことを疑いません』と言いました。⁵

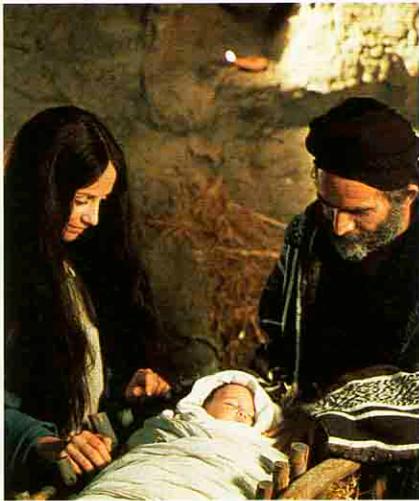
この戦いが終わったとき、ヒラマンは次のような記録を残しています。「ところがまことに、非常にうれしいことに、彼らの中で地に倒れた者は一人もいませんでした。彼らはまるで神の力を得たかのように戦いました。このように奇跡的な力で戦った人はこれまでに一人もいません。彼らは……大いなる力で……攻めかかり……ました。⁶

「奇跡的な力」、そして「大いなる力」とあります。母親の愛と、母親に対する愛とが一つとなって勝利へと導いたのです。

聖文にも歴史書にも、優しく、心豊かで、確信に満ちた「愛される母親」の記録が数多く見られます。しかし、その中でも秀逸と言える記録が一つあります。場面はエルサレム、時代は時の中間と呼ばれる時代です。集まっているのはローマの兵士たち。そのかぶとはカイザルへの忠誠を表し、盾にはカイザルの紋章、槍の穂先にはローマのわしが飾られています。またほかに、エルサレムの地で生まれ育った人たちが集まっています。静かな闇の中に、吸い込まれるように消えていく「十字架につけよ、彼を十字架につけよ」という荒々しい叫び声。

時が来ました。神の御子の地上における教導の業が、まさに今、劇的な結末を迎えようとしています。紛れもない孤独感。この御方のおかげで歩けるようになった、あの足の不自由な物乞いは一体どこにいますか。この御方のおかげで聞こえるようになった、あの耳の聞こえなかった男は、この御方のおかげで見えるようになった、あの目の見えなかった男は、この





イエスの話

リチャード・M・ロムニー

風景写真/リチャード・M・ロムニー、人物写真/スタッフおよび寄稿者、
『聖書』の各場面/ジェネシスプロジェクト社の厚意により掲載

イエス様の話、
聞かせて長い旅の途中あったこと
イエス様が会った人
イエス様の御言葉
(『子供の歌集』36)

イエスは、ほこりっぽい道を歩き、
また漁師とともに舟にお乗りになりました。会堂で聖文を読み、山腹で垂訓を述べ、宮から両替人を追い出されました。足の不自由な人を癒し、飢えた人に食物を与え、死者をよみがえらせられました。そして、イエスは最後に御自分の命をささげ、その後、再びよみがえられたのです。

イエスは生涯、御自分の民を教え、祝福し、癒しを施されました。また、当時の人々を教えながら、わたしたちをも教えておられます。イエス御自身が述べられた話と聖典に述べられているイエスについての話には、福音の原則が満ちみちています。

「イエス様の話聞かせて」という歌

左ページ——ベツレヘム付近の砂地の丘陵。上——救い主がお生まれになった夜に、羊飼いたちが自分の羊の番をしていたように、大いなる羊飼いは御自分の羊を見守られる。

には、救い主の教えに対する愛が述べられています。復活祭をお祝いするに当たって、皆さんにもう一度同じ愛を感じていただくために、これから数ページにわたって、全世界の青少年の何人かに、イエスに対する気持ちと、イエスの話から学んだ教えを分かち合っていたいただきます。

「ヨセフも……ガリラヤの町ナザレを出て、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

それは、すでに身重になっていたいなづけの妻マリヤと共に、登録をするためであった。

ところが、彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、

初子を産み、布にくるんで、^{かいぼ}飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。」(ルカ2:4-7)



「わたしはいつもイエスのことを思います。救い主についての^{あかし}証を得るためには、イエスを信じるように努力しなければなりません。

また、聖文を勉強することや断食、祈りによって、イエスを知るようにしな

ければなりません。わたしたちは救い主とその降誕について考えるとき、自分の生活が真理と幸福に満たされるように、救い主に向かって心を開くようにしなければならぬのです。」

エクアドル、グアヤキル
ダリア・イバラ

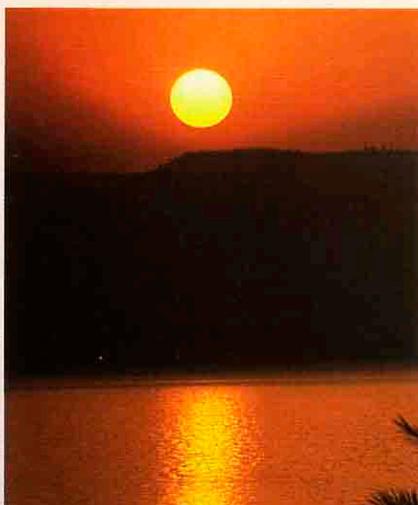
「さて、イエスがガリラヤの海べを歩いておられると、ふたりの兄弟、すなわち、ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレとが、海に網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。

イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」

すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。」(マタイ4:18-20)



「わたしは、伝道に出ることができるかどうか、伝道に出るべきかどうか、考えました。そして主に祈り、聖文を読みました。『新約聖書』で読んだすべてのことが、伝道に出るべきであると、わたしに告げるのです。天の御父は、聖文を通してわたしにこたえてくださいました。天の御



父はわたしが宣教師になることを望んでいらっしゃるので、天の御父の期待に背かないようにします。」

エルサルバドル、ケサルテペーケ
ロサナ・マガレータ・ガリアノ・サナブリア

「イエスはこの群衆を見て、山に登り、座につかされると、弟子たちがみもとに近寄ってきた。

そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて言われた。」(マタイ5:1-2)



「わたしは山上の垂訓が大好きです。山上の垂訓を読むといつも心が高められます。主の戒めを守れば天はわたしたちのものになると、

主が約束してくださっているからです。主は道であり、真理であり、光です。」

フィリピン、セブ
マリーチャ・サシング

「イエスは、わたしたちを霊的にも肉体的にも助けるために来てくださいました。イエスは数々の奇跡を行い、また神の御言葉を宣べ伝えられました。わたしの心は、イエスの御名を信

じる信仰とイエスの模範によって変わりました。イエス・キリストは、いつの時代にも、すべての教師の中の教師です。福音に従って生きる方法を教えてくださいましたからです。」

ベネズエラ、マトゥリン
エニスカ・バリ奥斯

「それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行くものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。

雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである。

また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができよう。

雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまう。そしてその倒れ方はひどいのである。」(マタイ7:24-27)

「イエス・キリストは、わたしたちが土台にできる唯一の確かな岩です。わたしは、その確かな土台の上に自己を築くように努めるならば、この世において平和を得、そして天におられるわたしの御父のもとに帰れることを知っています。」

スペイン、バルデベニャス
マリア・カマラ

「すると、激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。

ところが、イエス自身は、舳の方でまくらをして、眠っておられた。そこで、弟子たちはイエスをおこして、『先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか』と言った。

イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、『静まれ、黙れ』と言われると、風はやんで、大なぎになった。

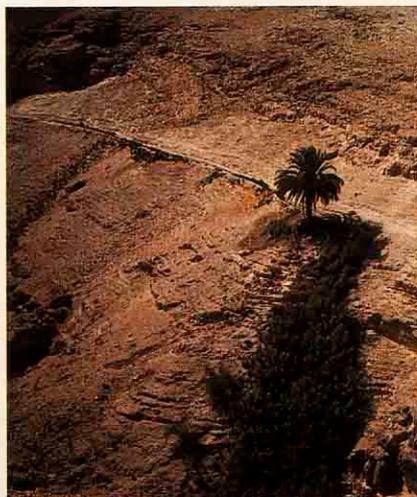
イエスは彼らに言われた、『なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか。』(マルコ4:37-40)



「わたしは、弟子たちがガリラヤの海にいて、イエスとその弟子たちとともにおられたときの話が大好きです。そのとき、嵐あらしが起こりましたが、

イエスは眠っておられました。弟子たちは心配になって、イエスを起こし、助けていただくこうとしました。イエスは弟子たちに、心配しないで安らかでいるように言われました。このことから、いつもイエスとともにいて

左ページ、左——イエスが御自分の弟子たちを集めて、現在わたしたちが山上の垂訓として大切にしている数々の原則と教義を弟子たちに教えられたときと同じように、太陽が、今もガリラヤ湖面に姿を映している。右——良きサマリア人が、エリコへ向かう寂しい道で強盗に襲われた人を助けたように、わたしたちは人生の荒涼とした道を歩んでいる人々を助けることができる。



安らかで、またイエスの導きを求めるようにしなければならないということが分かります。」

フィリピン、パシグ
シャーリー・ホープ・セバスチャン

「するとペテロが答えて言った、『主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください。』

イエスは、『おいでなさい』と言われたので、ペテロは舟からおり、水の上を歩いてイエスのところへ行った。

しかし、風を見て恐ろしくなり、そしておぼれかけたので、彼は叫んで、『主よ、お助けください』と言った。

イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかまえ〔られた。〕(マタイ14：28-31)



「ペテロはイエスのもとへ行こうとしたとき、最初は大丈夫でしたが、その後、沈み始めました。そこでイエスはペテロに、信仰が足りないと言われました。ほくは、この言葉に強く心を打たれました。ほくは生涯を過ごすのに、信仰がとても大切であることを知っています。信仰があれば多くのことを成し遂げられると知って

います。」
フィリピン、セブ
デニス・ダン・ヌーネツ

「イエスが答えて言われた、『ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中、強盗どもが彼を襲い、その着物をはぎ取り、傷を負わせ……逃げ去った。……

ところが、あるサマリア人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、

近寄ってきてその傷に……ほうたいをしてやり……宿屋に連れて行って介抱した。』(ルカ10：30、33-34)



「ほくは良いサマリア人のたとえが好きです。ユダヤ人とサマリア人が互いに相手をさげすみ合っていました。でも、このたとえの中でサマリア人は、近寄って行って、人種や背景がどうであろうとその人を助けたからです。そのサマリア人は、そうするのが正しいと分かっていたのでそれを行ったのです。ほくも、そのサマリア人と同じように、末日聖徒として自分もこれを行わなければならないと思っています。」
フィリピン、パシグ

レノン・パカード

「イエスは譬^{たとえ}で多くの事を語り、こう言われた、『見よ、種まきが種をまきに出て行った。

まいているうちに、道ばたに落ちた種があった。……

ほかの種は土の薄い石地に落ちた。……

ほかの種はいばらの地に落ちた。すると、いばらが伸びて、ふさいでしまった。

ほかの種は良い地に落ちて実を結び、あるものは100倍、あるものは60倍、あるものは30倍にもなった。……

また、いばらの中にまかれたものとは、御言^{みことば}を聞くが、世の心づかいと富の惑わしとが御言をふさぐので、実を結ばなくなる人のことである。』(マタイ13：3-5、7-8、22)



「わたしは学校でただ一人の教会員です。そして、級友たちはしばしば、わたしに悪いことをさせようとします。特に、わたしにカンニングをさせようとします。そこでわたしは、その誘いに負けないように、夜にいつも祈ります。わたしは、裁きの

右——舟が激しい嵐に見舞われたとき、弟子たちが主に助けを求めたように、わたしたちも、世にもてあそばれていると感じるとき、主に慰めと強さを求めることができる。右ページ——イエスはエルサレムの都で、貧しいながらも自分の持ち物のすべてをささげたやもめの模範を御覧になった。

日に小麦とともに集められて、天の御父とともに住めるようになりたいと願っています。」

フィリピン、セブ
レベッカ・ペレツ

「するとそのとき、その町で罪の女であったものが、パリサイ人の家で食卓に着いておられることを聞いて、香油が入れられている石膏のつぼを持ってきて、

泣きながら、イエスのうしろでその足もとに寄り、まず涙でイエスの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、そして、その足に接吻して、香油を塗った。

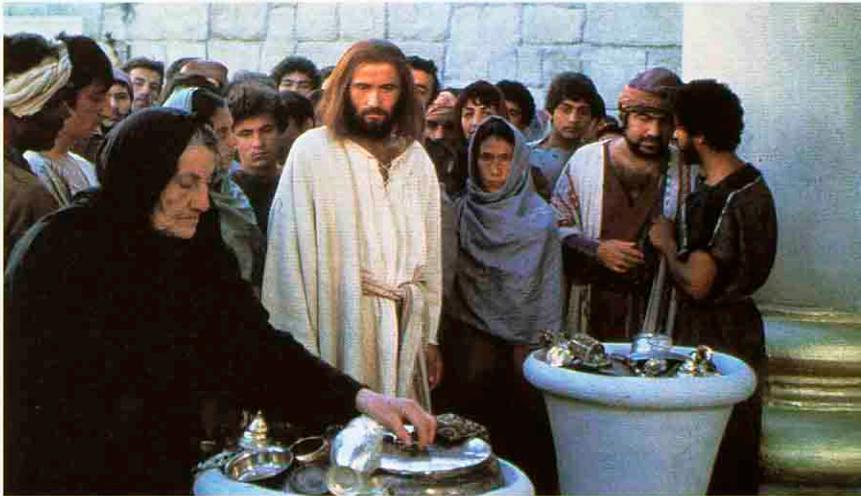
イエスを招いたパリサイ人がそれを見て、心の中で言った、『もしこの人が預言者であるなら、自分にさわっている女がだれだか、どんな女かわかるはずだ。それは罪の女なのだから。』

そこでイエスは彼にむかって言われた……。

『……この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない。』

そして女に、『あなたの罪はゆるされた』と言われた。」(ルカ7：37-40, 47-48)





「少し前に、わたしは小さな罪を犯しました。重大な罪ではありませんが、自分の軽率さに動揺しました。監督はわたしに、主がわたしの小さな過ちを救してくださったと断言してくれました。わたしの目に涙がこみ上げてきました。そして、主がわたしを愛してくださっているという安らぎを感じました。」

イタリア、パリ
レオナーダ・マンサロ

「またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。』

食事ののち、杯も同じ様にして言われた、『この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。』（ルカ22：19-20）



「聖餐を受けるとき、イエス・キリストが負われたひどい苦痛のことを思い出します。ぼくは、イエス・キリストの苦痛はほかのど

んな人の苦痛にも比べられないことを知っています。キリストが生きておられ、ぼくたちが信仰をもって求めるならば必ず祈りにこたえてくださることを知っています。主がぼくの光であられることも知っています。」

ポリビア、サンタクルース
ロドルフォ・アビナジ・バスケス・グーティアレス

「夕食の席から立ち上がって……それから水をたらいに入れて、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。……

こうして彼らの足を洗ってから、上着をつけ、ふたたび席にもどって、彼らに言われた、『わたしがあなたがたにしたことがわかるか。

あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである。

しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。

わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。』（ヨハネ13：4-5、12-15）



「イエス・キリストが、隣人を愛し、隣人に仕えるようにわたしたちに教えるためにこの世に来られたことを、また神聖な福音の律法を

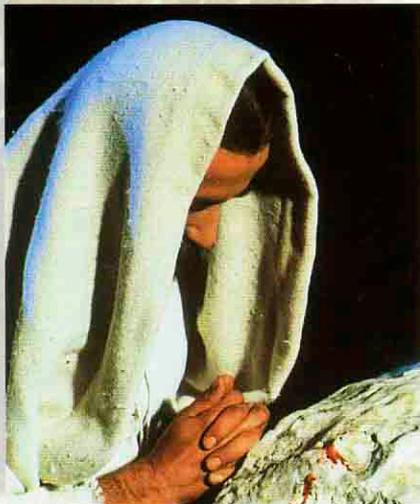
教えるために来られたことを、わたしは知っています。イエス・キリストが生きておられることと、わたしたちを愛してくださっていることを知っています。わたしたちは、イエス・キリストの教えと偉大な模範によって霊的に進歩できるのです。」

ベネズエラ、マトウリン
エリカ・エーゲス

「それから、イエスは彼らと一緒に、ゲツセマネという所へ行かれた。そして弟子たちに言われた、『わたしが向こうへ行って祈っている間、ここにすわっていなさい。』……

そして少し進んで行き、うつぶしになり、祈って言われた、『わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい。』（マタイ26：36、39）

「イエスは苦しみもだえて、ますます切



に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。」(ルカ22:44)



「わたしは生活する中で恐れを感じる時、また落胆している時、悲しい時、苦しい時、いつもイエス・キリストのことを考えます。イエス・キリストはわたしよりもっとひどく苦しまれたこと、それに、わたしを救うために苦しみを受けられたことを考えます。イエス・キリストがすべてを可能にしてくださったことを、わたしは知っています。これがあるので、わたしの苦しみは消え去ります。」
ベネズエラ、マラカイ
J・マーレト・アヤラ・T

「わたしは、イエス・キリストがわたしを愛してくださっていることを知っています。イエス・キリストは、ゲツセマネの園でわたしのために苦しまれたからです。イエス・キリストはわたしの救い主です。イエス・キリストは生きておられます。イエス・キリストの助けが必要なとき、特にそう感じます。わたしが独りぼっちだと思ふとき、イエス・キリストはいつもわたしを慰めてくださいます。」



スペイン、シューダードレアル
エステル・カナス・メリーノ

「彼らはイエスを十字架につけてから、くじを引いて、その着物を分け……

そしてその頭の上の方に、『これはユダヤ人の王イエス』と書いた罪状書きをかかげた。……

そして3時ごろに、イエスは大声で叫んで、『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』と言われた。それは『わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか』という意味である。……

イエスはもう一度大声で叫んで、ついに息をひきとられた。」(マタイ27:35, 37, 46, 50)

「わたしは救い主をととも愛しています。救い主の犠牲に深く感謝しています。救い主は十字架上で亡くなられたとき、わたしたちをどれほど愛しているかを示されたのです。そして、救い主は、御父のもとに帰る機会をわたしたちに与えてくださったのです。」

パナマ、パナマシティ
ジャネル・カバイロ

「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。」(ルカ24:5)

「この御使は女たちにむかって言った、『恐れることはない。あなたがたが十字架におかかりになったイエスを捜していることは、わたしにわかっているが、

もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。さあ、イエスが納められていた場所をごらん下さい。

そして、急いで行って、弟子たちにこう伝えなさい、『イエスは死人の中からよみがえられた。』』(マタイ28:5-7)

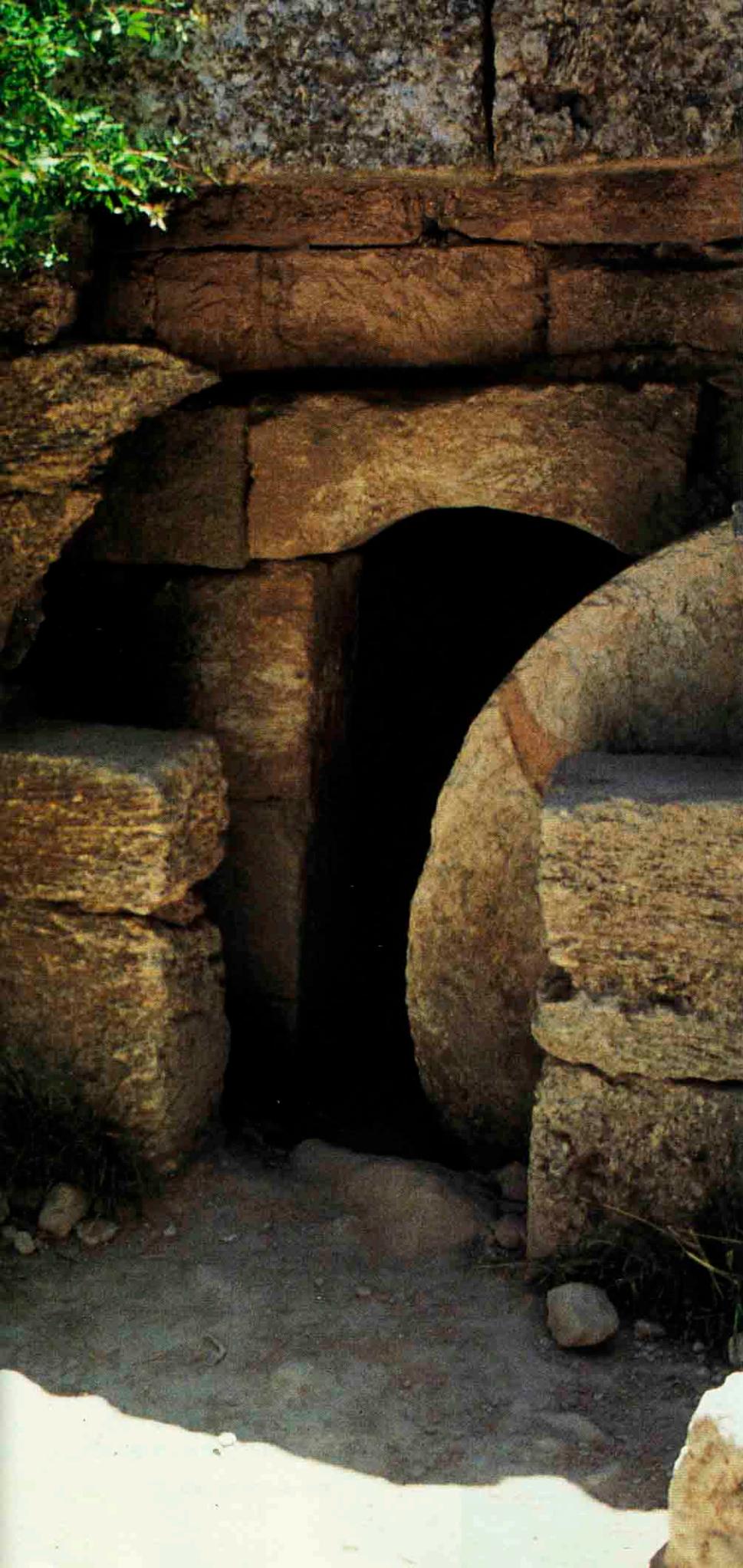


「救い主は、憐れみとより大なる命をわたしに与えてくださるために扉を開いてくださいました。わたしは復活を信じています。それは物語や象徴ではなく、わたしにとって現実のものなのです。」

フランス、ゴンチェス/ゴンドイレ
ティボー・クルーシー



「イエス・キリストは生きていらっしゃると思います。聖文を読むときや賛美歌を歌うときに、わたしはそれを感じることが出来ます。心の



左ページ、左——キリストはゲツセマネの園で御父の御心^{みこころ}に従い、わたしたちの罪を御自身に負われた。後にキリストは十字架上で御自分の命をささげられた。左——救い主の遺体は、栄光ある復活の日までの短期間、このような墓に納められていた。

中に深くそれを感じます。従順とイエス・キリストを信じる信仰によって、わたしは大きな祝福を受けてきましたし、これからも受けることを知っています。イエス・キリストがわたしのために行ってくださいましたすべてのこと、今も行ってくださっているすべてのことについて、わたしは感謝以上の気持ちを抱いています。」

アルゼンチン、ロサリオ
フラビーア・カスコー

わたしたちがイエスから学ぶことの中には、これから自分の生活で実践していくべき話や、自分の日記に記していくべきすばらしい話がたくさんあることでしょう。この復活祭のシーズンに皆さんにお勧めするのは、主イエス・キリストをお祝いの中心に据えることです。

そうするとき、皆さんは、イエスが生きておられ、皆さんを愛してくださっていることを知るようになるでしょう。また、従順と信仰によって、皆さんももう一つの話、すなわち、イエスの勝利の再臨に関する話に加わる備えができるのです。そして、御父の王国で場所を得るにふさわしい人々とともに生活するのです。□

救い主に焦点 復活祭

リサ・M・グローバー

復活祭は、伝統的な家族の行事などのある楽しい日です。同時にこの聖なる日は、世界史上最も神聖な宗教的出来事、つまりわたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの贖いと復活を記念する日です。復活祭を祝うに当たって、救い主に焦点を当てるための助けとなるアイデアを幾つか提案したいと思います。

■ 復活祭前の1か月は毎日聖文を読むよう決心しましょう。特にマタイによる福音書、マルコによる福音書、ルカによる福音書、ヨハネによる福音書および第三ニーファイに記されている救い主の伝道について読みましょう。

■ 贖いについての家庭の夕べのレッスンを準備し、復活祭の前の週にそのレッスンをしましょう。

■ あなたのワードや支部の監督か支部長、または音楽委員長の承認を得て、若い女性、若い男性、初等協会、あるいは日曜学校のクラスとともにふさわしい音楽を準備しましょう。賛美歌を学んだり、過去に発行された『聖徒の道』から、そのほかの音楽を探したりすることもできます。準備した音楽を復活祭の日曜日に聖餐会せいさんで発表しましょう。

■ 救い主の生涯、贖い、そして復活について、中央幹部が話された総大会の説教を読みましょう。これらの記事は、過去に発行された『聖徒の道』に掲載されています。

■ 復活祭の前の週は毎日、キリストがその日に行われたことについて読みま

写真
クレジット
・ダイヤモンド

を当てた

しょう(マタイ21-28章;マルコ11-16章;ルカ19-24章;ヨハ11-21章参照)。

■ キリストがもしここにいらっしやったらなさるであろうことを実行しましょう。奉仕する時間を持ちましょう。

■ 贖い^{あがな}がどのように自分の生活に影響を与えたかについてリストを作りましょう。そのリストを日記にはり、度々読み返しましょう。

■ 復活祭の朝、朝日を見ましょう。地球の美しさについて、そしてその創造主の犠牲について思いをはせましょう。

■ 復活祭の日曜日に家族で特別な証会^{あかしかい}か活動をししましょう。

■ 復活祭の朝に家族の一人一人に救い主の小さな絵を渡しましょう。裏にはメモか好きな聖句を書いておくとよいでしょう。『聖徒の道』の絵や、教会の配送センターから入手した絵を活用してください。

■ 聖餐式の間、心を込めて救い主と天父を礼拝するよう努めましょう。

■ 救い主とその贖いに対する自分の証を家族、ワードや支部の会員、教会員ではない友達と分かち合ひましょう。そして信じていることと行動が一致するようにしてください。

■ 救い主の贖いに関する聖句を暗記しましょう。次のような聖句はいかがでしょうか。ルカ22:44;ヨハネ6:51;ヨハネ10:17;ローマ6:9;1ペテロ2:21;1ニーファイ11:33;2ニーファイ2:7;モーサヤ26:23;アルマ11:42;モルモン7:5□

「デッセマネの睡におけるキリスト」ハインリッヒ・ホフマン画



主の聖なる名を尊ぶ

ロバート・L・ミレット

わたしたちが神聖な起源を有し、神聖な受け継ぎを持つ存在であることをほんとうに理解していれば、主の名をみだりに唱えることはなくなるでしょう。

つい先日、わたしは長男と一緒にプロ野球の試合を見に行きました。有名な選手たちを見つけては感動し、すばらしいプレーを目の当たりには胸を躍らせました。けれども一つだけ気になることがありました。それは一部のファンが口にしてた言葉でした。試合が始まって30分ほどたつと、試合の興奮が高まってきました。そして、ひいきのチームに勝ってほしいという思いから、わたしたちが座っていた席の後ろの方から神を汚す言葉が次から次へと怒濤のように押し寄せてきました。それからの3時間、わたしたちは粗野で不敬な言葉が飛び交う嵐に見舞われました。彼らは選手を罵倒するときにも、プレーに感嘆するときにも主の名を口にしました。試合が終わってホテルに戻ると、わたしは肉体的に疲れ果てただけでなく、心までもが汚されているのを感じました。それは不快な経験でした。

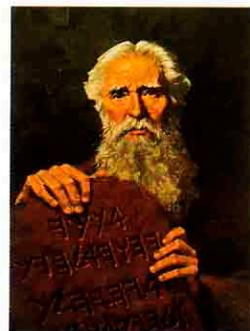
驚くべきことに、この世には、殺人や盗み、姦淫に決して手を染めることのない、高潔で善悪をわきまえた人々がいる一方で、深く考えることもなくみだりに神の聖なる名を口にしている人々があります。人間関係についてシナイ山で与えられた戒めを守ることには十分な注意を払っているのに、神の名の尊厳と神聖さについてこれほど無関心で

いられるのはどうしてでしょうか。この答えは、3番目に当たるこの戒めがどのような言葉を使って話すかということよりも、むしろわたしたちがどのように生活し、どのように人生をとらえるかということに関連した戒めであるということにあると思います。これは永遠にかかわる事柄をどのように理解するか、つまりわたしたちが聖なるものに対してどのように考え、また行動するかということに関連があります。

この戒めを破ることがどれほど重大なことを十分に理解するには、神の名を受けること、主の名によって話し、行い、祈ることが人々にとってどのような意味を持つかを理解しなければなりません。

主の名を受ける

アダムとエバの墮落は、救いの計画においてなくてはならない一つの段階でしたが、同時にわたしたちが生まれてくる世界を墮落した星の世界の状態にしてしまいました。わたしたちが地上で罪を犯すことによって受ける霊的な死は、神と神の家族から分離されることを意味します。贖罪によって神の家族の家長である神との和解を受けなければ、わたしたちは神の家族の一員であることを名乗る権利を失い、天の御父とともに永遠に生活する権利を失



信仰を持ち、悔い改めて、バプテスマを受け、聖霊の賜物を受けることによって再び生まれる人々は主の家族、つまり至高者の家族の一員として迎えられます。彼らはキリストの息子および娘として、自らに受けた新しく聖なる名前にふさわしく生活し、話すという義務を聖約によって受けています。



うこととなります。

霊的な死から解放されるには、死を超越する力を持っておられる神、すなわち正義が異議を申し立てることのできない御方の働きがどうしても必要でした。こうして、イエス・キリストは予任されたメシヤとして「彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源と」なされました（ヘブル5：9）。アビナダイは「神御自身が人の子らの中に降って来て、御自分の民を贖われる……わたしはあなたがたに言うが、これらの人々が御子の子孫なのである。すなわち、彼らは神の王国を受け継ぐ者である」と教えました（モーサヤ15：1, 11）。

このような意味から、イエス・キリストは救いの父と呼ばれます。信仰を持ち、悔い改めて、バプテスマを受け、聖霊の賜物を受けることによって再び生まれる人々は主の家族、つまり至高者の家族の一員として迎えられます。彼らはキリストの息子および娘として（モーサヤ5：7参照）、自らに受けた新しく聖なる名前にふさわしく生活し、話すという義務を聖約によって受けています。

主の名によって行う

6,000年近く前に一人の天使はアダムに対してこのように説明しています。「あなたが行うすべてのことを御子の御名によって行いなさい。また、悔い改めて、いつまでも御子の御名によって神に呼び求めなさい。」（モーセ5：8、下線付加）これはどのように行

動すべきかについてアダムとアダムのすべての子孫に与えられた戒めです。わたしたちはあらゆることを御子の名によって行わなければなりません。御子の名によって話し、行い、礼拝し、王国と命にかかわる働きをするのです。

福音が地上に存在した時代には必ず、イエス・キリストは御自身の神聖な権能を選ばれた僕たちに与えて、彼らが主の名によりこの権能を使って行う事柄を御心にかなうものとして認めてこられました。現代に永遠の福音が回復されたのも同じように、「すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語るため」です（教義と聖約1：20）。これは畏敬の念を覚える大きな責任です。わたしたちの言葉と行いが主の言葉と行いとなるためには、わたしたちが携えている祝福された御名を持つ御方と同じように考え、また話さなければなりません。

救い主は御父の名と御自身の持つ権能によって地上においでになり、御自分の神聖な召しを全うされました。救い主は病人を癒し、罪人を赦されました。これによって主は肉体的な病と霊的な病の両方に打ち勝つ力を持っていることを示されました（マタイ9：1-5参照）。イエスはエホバであり、エホバは神です。神は奇跡を成し遂げるためにほかの名前や力を必要とされません。これに対して、主の代理人は皆、イエス・キリストの名によるのでなければ行動することも働くこともできません（ピリピ2：9参照）。わたしたちは主の名を実際に受けていなければ、

ほんとうの意味で主に仕えることはできません。

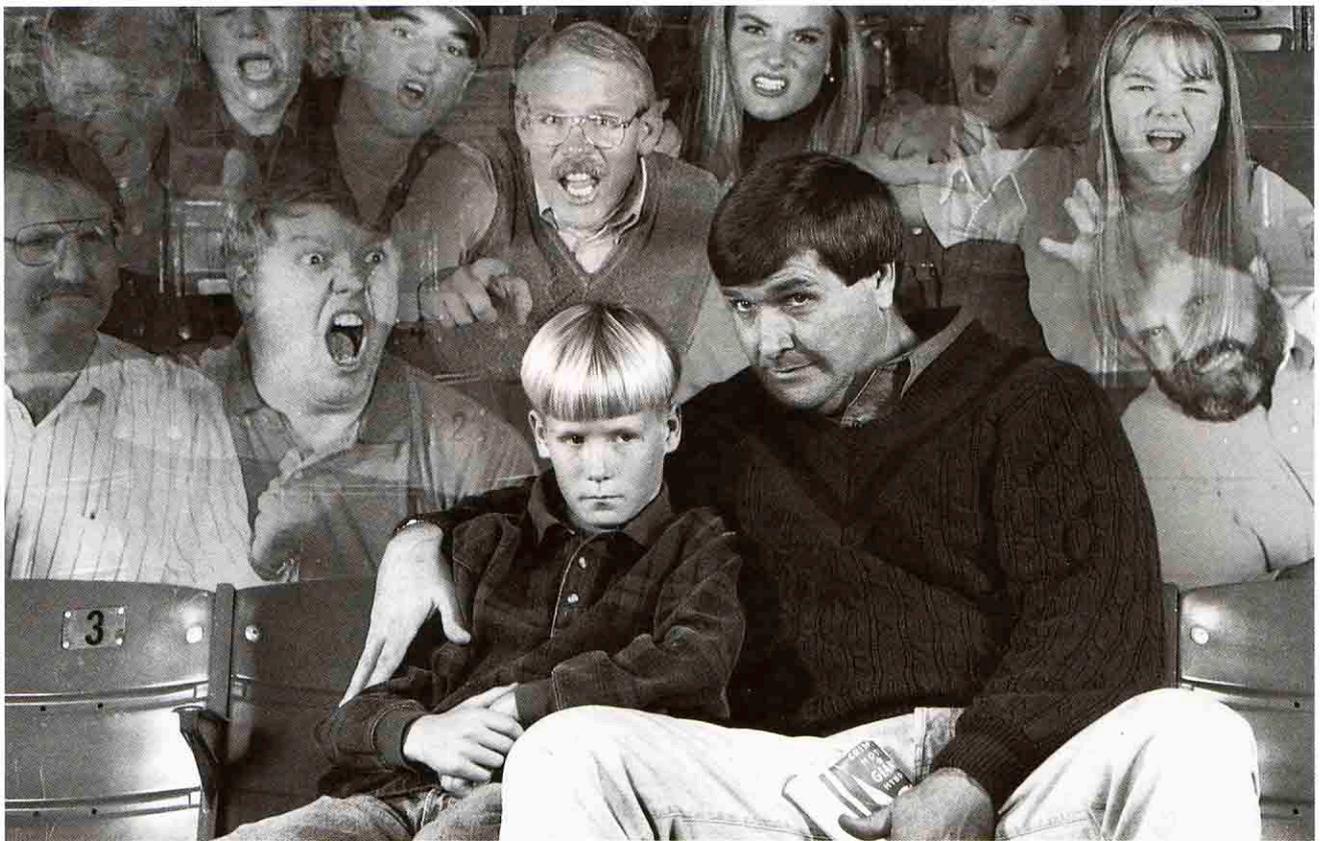
神の名をみだりに唱える

では、どのような行いが神の名をみだりに唱える罪となるのでしょうか。

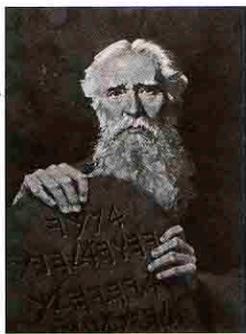
1. 神の子らが神を冒瀆する言葉、下品な言葉を使うとき、それは神の名をみだりに唱えることとなります。この戒めに反する行為としてほとんどの人が知っているのは、神の名をのろいの言葉として使うことです。神を冒瀆する（英語“profane”）という語の文字どおりの意味は「神殿の囲いの外へ出る」ということです。したがって、神の名を冒瀆するとは、聖なるものをその神聖な状態から、神聖でない、汚れた状態へ引きずり込むことです。これは実に、洞察に富んだ描写です。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように教えています。「古代イスラエルにおいては、〔主の名を冒瀆する行為は〕非常に重大な罪と考えられていました。……

この重い罰はずっと以前になくなりましたが、罪自体の重さは少しも変わっていません。」（「主の名をみだりに唱えてはならない」『聖徒の道』1988年1月号、49）

音楽、書物、テレビ、映画に見られる神を冒瀆する言葉、下品な言葉がますます増えていることは、現代がいかにも俗悪であるかを思い知らされるようです。俗悪とは未熟、粗暴あるいは不作法という意味です。神聖なものを在りきたりの何でもなしのもののように扱



写真/クレグ・ダイヤモンド；コンピューター作画/フレン・ルーク



神の子らが神を冒瀆する言葉、下品な言葉を使うとき、それは神の名をみだりに唱えることになります。この戒めに反する行為としてほとんどの人が知っているのは、神の名をのろいの言葉として使うことです。音楽、書物、テレビ、映画に見られる神を冒瀆する言葉、下品な言葉がますます増えていることは、現代がいかに俗悪であるかを思い知らされるようです。

うことです。薄情な人々が多いことと、人々が神聖なものを軽んじる世の風潮とは、あながち無関係とは言えないでしょう。現代社会に増えている残虐性、未熟さ、無感覚は、神を否定すること、神を汚すこと、神を無視することと直接的な結びつきがあると思われます。主を愛し、主の言葉を慈しんでいる人は、主に対する敬虔な思いがあふれる行動と言葉遣いをするはずで、これに対して、神を知らない人、礼拝や信仰を大切に考えていない人は聖さや神聖さということの意味を理解することができません。このような人は、話す言葉に抑制がないため、ためらうことなく神を冒瀆する言葉を口にします。

主は近代の啓示の中で次のように警告しておられます。「それゆえ、すべての人は、わたしの名をどのように口にするかを気をつけなさい。

見よ、まことに、わたしは言う。この罪の宣告を受ける多くの者がいる。彼らは主の名を使い、権能を持たずに

みだりにそれを使っている。……

上から来るものは神聖であり、それについては注意して、御霊の促しによって語るようにしなければならないことを覚えておきなさい。こうすれば、罪の宣告を受けることはな[い。]」(教義と聖約63：61-62, 64, 下線付加)

主は上から来られる御方であり、主の言葉も同様に上から来るものです(教義と聖約63：59参照)。わたしたちは心からの敬虔な思いをもって、主について話し、主の名を使わなければなりません。十分に考えることなく、軽率に主の聖なる名を用いるとき、それは不作法にまた俗悪な方法で主の名を使うことになるのです。言い換えれば、それはみだりに権能を持たずに主の名を用いているのです。

ダリン・H・オークス長老は次のように説明しています。「主の名を権能なくして用いたならば、それは主の名をむなしく使っていることにな[り]ます。父なる神や御子イエス・キリス

トの神聖な名を、^{とくしん}瀆神行為と呼ばれる行いに用いた場合がそうです。それは、主の名を恨みをもってののしったり、怒りをもって非難したり、日常会話の句読点のようにして用いたりしたときがそうです。」これに対して、オークス長老は次のように付け加えています。「敬虔な^{けいけん}気持ちで天の御父と御子のことを教えたり証したりするとき、天の御父や御子の名は権能をもって用いられます。祈りをするときや、神聖な儀式を執行するときもそうです。」(「敬虔さと清さ」『聖徒の道』1986年7月号, 52)。

2. 神の子らが誓詞と聖約を破るとき、それは神の名をみだりに唱えることとなります。古代のイスラエルに対して主はこのように言われました。「わたしの名により偽り誓って、あなたがたの神の名を汚してはならない。わたしは主である。」(レビ19:12) ある注釈者は3番目の戒めについてこのように記しています。「この禁止規定は偽証または偽りの誓いを指しており、神の名において誓詞によって結び固められた約束または契約を破ることを指している。神は偽りや背信行為に御自分の名が用いられることをお許しにならないだろう。神の名をみだりに、つまり軽々しくあるいは不用意に使うべきではない。」(J・R・デユメロウ, *A Commentary on the Holy Bible* 『聖書注解』67)

いにしへの時代に、誓詞は契約上の当事者間の信頼と誠実を確認し、事実関係の調査を通して証人の信頼性と誠実さを確認する手段となっていました。

法律上の手続きで用いられる誓詞は、聖なる言葉を述べ、神聖な儀式を行った後に、神の名によってそれを確定しました。このようにして交わされた誓詞を破ることは非常に重大な犯罪行為であって、処罰の対象とされました(エゼキエル17:12-19参照)。しかし、人々は次第に誓詞を乱用するようになりました。神聖でない方法で誓詞を立てたり、誓詞を破ったりすることを容認し始めました。

イエスは次のように述べて、弟子たちに大きな責任を課しておられます。

「いっさい誓ってはならない。天をさして誓うな。そこは神の御座であるから。また地をさして誓うな。そこは神の足台であるから。またエルサレムをさして誓うな。それは『大王の都』であるから。

また、自分の頭をさして誓うな。あなたは髪の毛一すじさえ、白くも黒くもすることができない。

あなたがたの言葉は、ただ、しかり、しかり、^{いん}否、否、であるべきだ。それ以上に出ることは、悪から来るのである。」(マタイ5:34-37) イエスは弟子たちに、彼らの語る言葉を義にかなった約束とするように教えられたのです。法律上の契約において、あるいは個人間の約束事において「はい」は必ず「はい」の意味であり、「いいえ」は必ず「いいえ」の意味でなければなりません。

聖約とはわたしたちと神との間で交わされ、両者に義務を課す約束です。福音の聖約と儀式はすべてイエス・キ

リストの名によって交わされ、執行されます。人類の救いのために、これ以外の名によってあるいはほかの権能によって行われるものはありません。したがって、主の名において交わされた聖約を意識的に破ると、それは主の名をみだりに唱えることになり、神聖かつ厳粛な義務を軽視し、意味のないものとして扱っていることとなります。神は侮られるような御方ではありません(ガラテヤ6:7参照)。神は御自分の聖なる儀式が侮られたり、軽々しく扱われたりするのを許してはおかれな

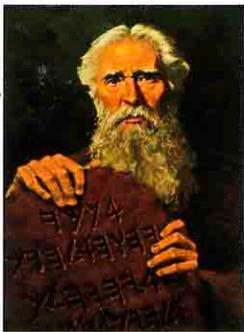
いでしよう。さらに、福音の聖約を交わした人々は神の王国を建設するという神聖な義務を負います。召しを拒んだり、義務を怠ったり、責任を果たさなかったりすると、それは主の名を誉れをもって引き受けることにはなりません。それは主の名をむなしくすることになります。主は末日に次のような警告を与えられました。「報復が地に住む者のうえに速やかに及ぶ。……」

最初はあなたがたの中の、わたしの名を知っていると公言しながらわたしを知らず、わたしの家の中でわたしを冒瀆した者の中に始まる……。(教義と聖約112:24, 26, 下線付加)

3. 神の子らが軽率かつ不敬な言葉を用いるとき、それは神の名をみだりに唱えることとなります。シナイ山で与えられた神の戒めは「神と神の属性について、軽薄かつ不敬な表現を用いるすべての言葉を禁じていることが明らかである。……深い敬虔の気持ちと



写真/スティーブ・バンダーソン；コンピュータ作画/バット・ガーバー



わたしたちが神の生ける宮になりたいと思うならば、わたしたち一人一人の聖なる宮に「聖きを主にささぐ」という言葉が刻まれていることを覚えて、考え、話し、行動しなければなりません。

純粋な礼拝の気持ちに伴わない祈りもすべて、ここで非難されていると考えて差し支えないであろう。」(Adam Clarke's Commentary on the Bible 『アダム・クラークの聖書注解』ラルフ・アールによる縮約版, 126)

数年前にわたしたちのワードの聖餐会で一人の青年が次のような言葉で話を始めました。「兄弟姉妹、今日皆さんのワードに出席できたことを感謝しています。人々の前でお話するのに最も優れた方法は幾つか冗談を言って、会衆の注意を話者に向けることだとわたしは教わってきました。」青年は幾つかのユーモアに富んだ物語を紹介しました。その中には聖餐会という場にふさわしくないものもありました。会衆は大声で笑いました。少なくともそうした人が何人かいました。笑わなかった人たちはこれからどのようなことになるのだろうかと心配していました。そして15分か20分が過ぎると、青年は言いました。「さて、このくら

いでお話を終えることにします。これらすべてのことをイエス・キリストの御名によってお話しします。アーメン。」

青年の話はおもしろおかしく、人々を楽しませるものでした。聖餐会以外の場所であれば楽しいものであったかもしれません。けれどもわたしたちは聖餐会という神聖な礼拝集会に出席していました。彼が話の最後に言った「イエス・キリストの御名によって」という言葉に違和感がありました。もちろんそれは長年の間に数え切れないほど聞いてきた言葉でした。しかしながら、その日、わたし自身がイエス・キリストの名によって話をし、祈りをささげていながら、必ずしも用いた御名についてよく考えないままに行っていたことがどれほどあったらうかと考えさせられました。わたし自身も、主が望んでおられなかったと思われるテーマを採り上げて話したことについて過去を振り返ってみました。まるでどこかの終着点に急いでたどり着く

ために、駆け込むようにして贖い主の名を言って祈りを終えた過去の経験について考えました。また、心をほかのことに向けながら、救い主の体と血の記念である聖餐を受けたときのことについて思い巡らしました。

この経験を通して、またその後何度も、わたしたちは神の名をみだりに唱える罪を犯すような場面にかかわりを持ってはならないことに気づかせられたのです。主の教会の会員であるわたしたちは、主の名によって語り、行うという責任について深刻に考え込むだけでなく、むしろ単純に会員としての務めであると考えて実行すればよいのです。

神聖な儀式に軽々しく、あるいはふさわしくない状態で参加すること、心と手が汚れているのに忠実であるかのようなふりをすることは、神の名をみだりに唱える罪に当たります。

福音に従って生活することからもたらされる喜びと満足感は秘密にされるべきものではありませんが、ジョセフ・スミスが教えているように「神に関する事柄はこの上なく大切であり、それらを見いだすには時間、経験、注意深い考察、熟慮、厳粛な思いを要します。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス編、137)。

主の名をほめたたえよ

わたしたちには誉れをもって、また義にかなって神の名を引き受ける特権があります。この特権を行使するなら

ば、主の光の中を歩むことができます。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」(教義と聖約50:24)これに対して、神の名を敬うことを聖約しておきながら、それを実行しないと、わたしたちの心は「不信仰のために……暗く」なります。そして、罰を受けなければなりません。「懲らしめと裁き」がわたしたちを待っているのです(教義と聖約84:54, 58参照)。

神の名によって話し行動するという召しは、神聖な責任です。この信任について厳粛にまた深く考える必要があります。わたしたちの言葉と行いが天の御父の言葉と行いになり得ることを心に留めていれば、わたしたちはもっと勤勉に福音を宣べ伝え、もっと熱心に証を述べることでしょう。わたしたちが神から与えられている責任には、次のような厳粛なただし書きが付いています。「さて、あなたがたは代理人であるので、主の用向きを受けている。そして、あなたがたが主の思いに従って行うことは何であろうと、主の業務である。」(教義と聖約64:29)これとは逆に、もしわたしたちが靈感を求めずに、話し、行い、祈るならば、人の見解や哲理を教義として教えるならば、霊的な機会を軽率にあるいは不用意に扱うとするならば、それは神の名をみだりに唱えることなのです。

スペンサー・W・キンボール大管長

はこのように勧告しています。「神を冒瀆することをやめるだけでは不十分である。わたしたちは主の名を自分の生活の中でかけがえのないものとする必要がある。わたしたちは、主の名を尊ぶときに、友人や隣人、あるいは自分の子供たちを決して混迷の中に置き去りにしたりはしないであろう。わたしたちがイエス・キリストに従う者であるとの確信を持つてではないか。」(『鉄の棒をしっかりとつかむ』『聖徒の道』1979年2月号、8)。

わたしたちはこの死すべき世において、神から与えられた生得権を忠実に全うする機会が与えられています。そのためには神の名を義にかなって受け、そして用いることが必要です。この世の機会と同時に、神の名をみだりに唱えることによって、わたしたちの神聖な受け継ぎを失うという危険性ははらんでいます。使徒パウロはコリント人に対して勧告しています。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。

もし人が、神の宮を破壊するならば、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」(1コリント3:16-17。6:19-20も参照)

わたしたちが神の生ける宮になりたいと思うならば、わたしたち一人一人の聖なる宮に「聖きを主にささぐ」という言葉が刻まれていることを覚えて、考え、話し、行動しなければなりません。□

秩序の家, 神の家

➤ の神権時代のはじめに主はその民に、「あなたがた自らを組織し……一つの家、すなわち……秩序の家、神の家を建て」るように指示されました（教義と聖約88：119）。秩序は主の業の特徴です。「わたしの家は秩序の家であり、混乱の家ではない……。」（教義と聖約132：8）

教会の秩序

主は、御自身が導かれる組織を通して、秩序ある方法でその民を治めておられ、主の民は互いに助け合っています。主の導きの下で、大管長会と十二使徒定員会は靈感された指導を与えています。このようにして完全な全能の神が、絶えずその子供たちを見守っておられるということほど大きな慰めがほかにあるでしょうか。ブリガム・ヤングはこのように説明しています。「この教会を導いているのは全能の主であって、あなたが義務を果たしていれば、主は決してあなたを迷わせられ

ないでしょう。指導者があなたを迷わせる危険については、何の心配もありません。家に帰ると、母の腕に抱かれて眠る赤ん坊のようにぐっすり眠ることができます。指導者があなたを誤らせようとしても、主が直ちに彼らを地上から一掃されるからです。」（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』153）

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように断言しています。「神が舵を取っておられます。決してそれを疑ってはなりません。……真理はこの教会にあります。権能はこの神権にあります。導く力は、教会管理のすべてのレベルで、この偉大な神権者たちにあります。」（『聖徒の道』1994年7月号, 61）

教会の組織を通して奉仕する

神権を通して主が治めておられるこの教会は、会員が互いに思いやるための組織立った方法を提供しています。扶助協会はそのような組織の重要な一部です。J・ルーベン・クラーク副管長は、扶助協会の会員は「重荷を背負った人々や意気消沈した人々を励まし、その手を取り、失意の人々の心から闇を払いのける」と説明しています

（*Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*, 『末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会メッセージ』ジェームズ・R・クラーク

編, 6：77）。

新しいワードに転入して来たばかりのある姉妹は、重い病気にかかり、2年近くの間病床に就くことになりました。新しいワードの姉妹たちが、扶助協会の組織を通して彼女の生活に祝福を与えてくれた様子を、彼女は次のように語っています。

「愛にあふれ、よく気がつく扶助協会の会長が、しばしばお見舞いに来てくれました。またほかの姉妹たちも毎日様子を見に来てくれました。わたしたちは心の思いを打ち明け、世間話をしたり、病気ゆえの恥ずかしかった経験を笑い飛ばしたりして、一緒にいることを楽しみました。ある姉妹は何も言わずにわたしの洗濯物を洗い、わたしの犬にえさと水をやり、彼女の孫たちをお見舞いによこしてくれました。また別の姉妹は、わたしが何も食べられないときに、おいしいカスタードクリームを作ってくれました。

病床中、わたしはめったに教会へ行けませんでした。ワードの家族の一員であるという気持ちを感じることができました。」（ジョアン・ジョリー, *Ensign* 『エンサイン』1994年, 9月号, 51—52）

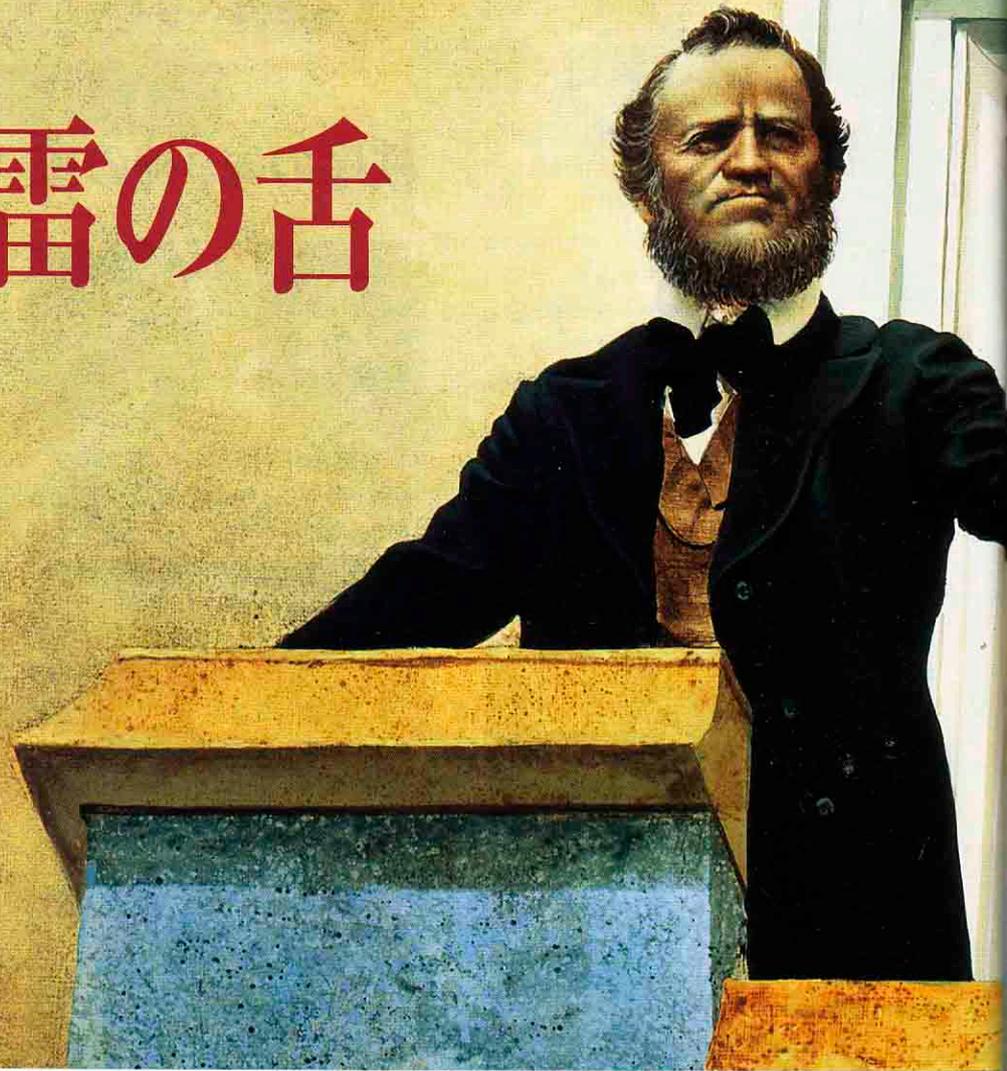
愛と秩序に満ちた方法で与えられるそのような奉仕は、まさに主の民の確かなしるしです。

●主が教会を導いておられることを知るの、わたしたちにとってなぜ大切でしょうか。

●教会の組織は、教会員にどのような祝福をもたらしているのでしょうか。□



7つの雷の舌



ブリガム・ヤング大管長は、イエス・キリストの福音の教義を大胆に教えました。それは、メルキゼデク神権定員会と扶助協会の新しい教科課程の中に受け継がれています。

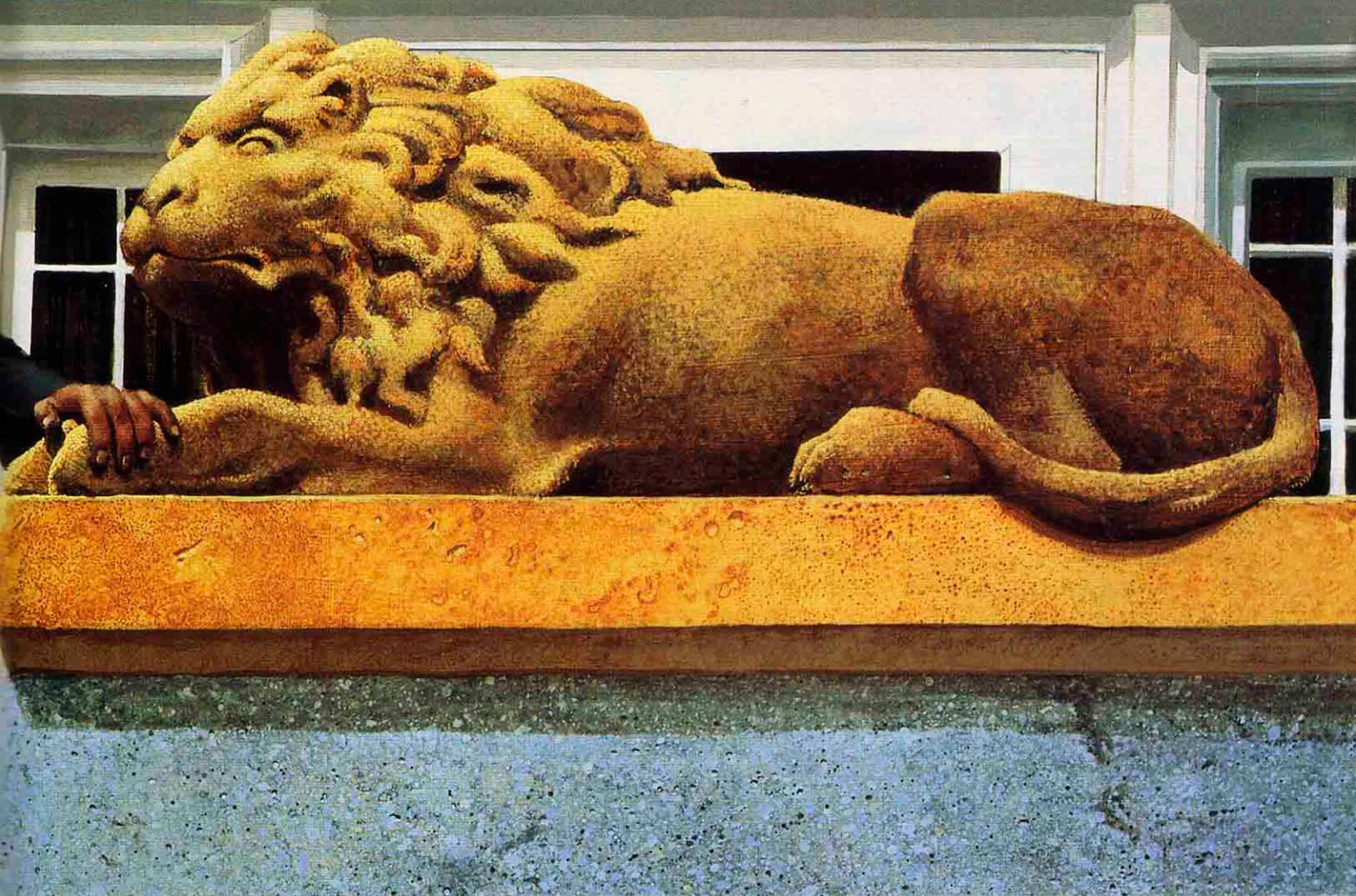
1877年1月1日、足がなえて立ち上がれず、ほかの人の助けを借りて部屋に連れて来られたブリガム・ヤングは、セントジョージ神殿の1階を奉獻するために集った聴衆を相手に説教をしました。預言者、聖見者、啓示者であるブリガム・ヤングは次のように宣言しました。「わたしたちは地上のだれ一人として受けていない特

権に浴しています。……わたしはこのことに思いをはせると、7つの雷が火炎の舌をもって人々を眠りから覚まさせてくれたらと思うほどです。」（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』327）

ヤング大管長は、多くの人々に「7つの雷……の舌」で悔い改めを叫びました。彼が「主のライオン」という名で呼ばれるのも、なるほどとうなずけます。その教え方は劇的で、単刀直入かつ力強いものでした。ヤング大管長は、豊かな表現力の持ち主でした。しかし、彼の教えが奥深いのは、何と云っても、その口を通して宣言される教義が明瞭で力に満ちあふれていたからです。

ヤング大管長が、その召しの期間に

教えた教会員は、^{こんにち}今日の教会員とほとんど変わりありません。彼は改宗者で構成される教会で教えました。改宗者の多くは海外からの移住者でした。神の真理に飢え渇く人々の数は激増の一途をたどっていましたが、ヤング大管長は、そのような人々を教え、シオンへと導き、^{みわざ}御業に従事させました。「神の王国の中に座が得られるように、自分の人生を送る気持ちがあるでしょうか。それとも横になって眠りに入り、地獄へ行くような生活をするのでしょうか」とヤング大管長は当時の教会員に質問を投げかけました（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』351）。ヤング大管長は不動の信仰の持ち主でした。「わたしたちにとっては神の王



「ブリガム・ヤングとライオン」ジェームズ・C・クリステンセン画、教会歴史美術博物館の厚意により掲載。

国がすべてであり、そのほかの事柄はどうでもよいことです。わたしたちはこの王国を守っていきます。努め励みながら死んでいく覚悟もあります。」（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』357）

教科課程の変更に関する概略

1月から導入されたメルキゼデク神権定員会と扶助協会における新しい教科課程は、大管長会と十二使徒定員会の指導の下に開発されました。その中で、毎月第1日曜日に、メルキゼデク神権者と扶助協会の姉妹たちは、それぞれの指導者から自分たちの義務に関する指導を受けると規定されています。第2および第3日曜日には、どちら

の組織も新しい教材としてこの記事の後半で触れるブリガム・ヤングの教えを研究します。第4日曜日には、大管長会が指定するテーマを研究し、第5日曜日には、地元の神権指導者が選んだテーマを研究するか、それまでに総大会やステーク大会のために実施できなかったレッスンの補講を行うこともできます。新しい教科課程の全体を把握したい場合は、「神権定員会と扶助協会における教科課程の大きな変更」を参照してください（『聖徒の道』1997年12月号、26-32）。

ヤング大管長の教え

『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』は、教会の過去の大管長の言

葉に焦点を当てた一連のテキストの第1巻です。全部で48ある章の中で、ヤング大管長は現代の世の中にも当てはまり、なおかつ普遍的な問題について論じています。各章は、ヤング大管長の言葉が記された「ブリガム・ヤングの教え」とヤング大管長の教えを実生活に応用するために役立つ質問が記された「研究のための提案」の二つの部分に分かれています。この書物は個人にとって優れた資料になるようにとの意図で作られました。すべての末日聖徒の家庭にあって、福音の教義を扱った家庭蔵書に有益な1冊として加えてください。この新しい書物は、第2および第3日曜日に、扶助協会やメルキゼデク神権者の集会のためのテキスト

としても用います。メルキゼデク神権者と扶助協会の姉妹たちは、この書物から、同じ時間帯に、同じ内容のレッスンを学ぶこととなります。

「第2および第3日曜日のレッスンはどのように教えたらよいのでしょうか」と尋ねる人がいるかもしれません。このテキストは、以前のレッスン用テキストとはかなり大きく違ってきます。また生徒は、これまで以上にレッスンへの参画を期待されます。教師による講義調のレッスンではなく、クラス討論に重きが置かれます。クラスの生徒が予習をし、テキストを持って教会に来るようになるために、教師からどのような動機づけが与えられるのでしょうか。ヤング大管長の言葉から逸脱することのないように、またテキスト以外の資料を用いる際は、それによってヤング大管長の言葉を曲解しないために教師は何ができるのでしょうか。クラスの生徒が教えられている原則について積極的に発言するようになるためにはどうすればいいのでしょうか。どのような方法を用いればよいのでしょうか。

主の御霊を保つ

ヤング大管長はこう教えています。「大いなる者から小さき者に至るまで、人の子らに求められているすべての義務について優先順位を付けるとしたら、わたしは第一の最も大切な義務として、天から地、言い換えれば神から人の心に通じる道が開かれるまで、主なる神に願い求め続けることを挙げます。」（『歴代大管長の教え——プリガム・ヤング』46）

では、どのようにすればいいのでしょうか。「努力を怠らず、主の御霊が永遠の炎のように皆さんの内に宿るようになるまで、主に御霊を祈り求めてください。主のともしびを皆さんの内面にともしてください。そうすれば、万事が好都合となります。」（『歴代大管長の教え——プリガム・ヤング』351）

「永遠の炎」、「主のともしび」、「7つの雷……の舌」、ヤング大管長の言葉は、視覚的で、力に満ちあふれています。福音の教義を具体的に例を挙げて説明してくれます。例えば、もし祈る気分でなければ、そうなるまで祈りなさい、とヤング大管長は聖徒たちに教えています。「兄弟たちはやって来て、わたしにこう言います。『プリガム兄弟、祈りたいという気持ちが一かけらもないような場合でも祈らなければならないのでしょうか。』……わたしが信じている教えは、あなたに祈る義務があると教えています。祈りの時が来ると、……ひざを折って床につけるの〔です。〕……わたしは『ひざを折って床につけなさい』と申し上げたい。」（『歴代大管長の教え——プリガム・ヤング』47）

ヤング大管長はきつこう言うでしょう。「教師がわたしたちの内にあふれるほどの福音の教義を教えてくれるのに、わたしたちが受け身的な態度で教室にただ座っているだけということがないように」と。わたしたちは積極的な態度でこれらの永遠の真理を学び、御霊がわたしたちとともにあるよう祈らなければなりません。

プリガム・ヤングは御霊の声を認識

ジョセフ・スミスはプリガム・ヤングの夢枕に現れ、こう語った。「皆さんに謙遜で忠実であるように、主の御霊を保つように言ってください。それが皆さんを正しい道へと導くのです。細い静かな声を退けてしまうことのないように注意してください。細い静かな声は何をすべきか、またどこへ行くべきかを教えてくれます。王国の実を授けてくれるのです。」

することの大切さを思い知らされる経験をしました。預言者ジョセフ・スミスの死後少しして、ヤング大管長はある夢を見ました。その夢の中で、ヤング大管長は預言者ジョセフ・スミスの訪れを受け、指示を与えられたのです。「ジョセフはわたしたちの方に歩み寄ると、熱意のある、しかし心楽しそうにまなざしで次のように言ったのです。『皆さんに謙遜で忠実であるように、主の御霊を保つように言ってください。それが皆さんを正しい道へと導くのです。細い静かな声を退けてしまうことのないように注意してください。細い静かな声は何をすべきか、またどこへ行くべきかを教えてくれます。王国の実を授けてくれるのです。』」（『歴代大管長の教え——プリガム・ヤング』43）

メルキゼデク神権定員会や大祭司グループ、また扶助協会が福音の教義を学ぶとき、世界中のどのクラスでも御霊から教えを受けることができます。夫と妻がクラス内での討論から学んだ新しい物の見方をお互いに分ち合い、家族に教えるとき、同じように御



「靈界からブリガム・ヤングを訪れるジョセフ・スミス」クラーク・ケリー・ブライス画

靈から教えることができます。わたしたち一人一人の生活においても、祈りの気持ちで学ぶならば同じことが経験できます。十二使徒定員会会員のダリン・H・オークス長老は、次のように語っています。「わたしはすべての教会員に約束したいと思えます。皆さんはこれらの教えを読むときに、この偉大な預言者が教えた福音の原則の真実性と、また福音の原則が持つ美しさと価値を豊かに学ぶことができるだけでなく、精神をも活気づけられることでしょう。これらの原則には大きな力があります。」（『聖徒の道』1997年12月号、31）

わたしたちは本を開き、心を開くならば、ヤング大管長の教えを愛するよ

うになるはずでず。ヤング大管長の教えが、主イエス・キリストの教えであると分かるはずでず。なぜなら、「わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである」からでず（教義と聖約1：38）。ヤング大管長の言葉は、イザヤやベテロ、ジョセフ・スミスと同じ力と靈感をわたしたちに与えてくれます。

個人として、また「福音が求めているように、互いに分かち合うよう」（教義と聖約88：123）準備している教師を通じて、ヤング大管長の言葉を学ぶ必要があります。わたしたちは、キリストの言葉をよく味わい（これほどの得た表現はありません）、真理や靈的な達成感に飢え渴く靈に栄養を与

える機会にあずかっているのです。

ヤング大管長の言葉は真実でず。神の御靈は、わたしたちの心を動かし、その言葉を理解させるべく待ち構えているのです。その言葉は、心を開きさえすれば、わたしたちの心の中に「もう少し頑張ってみよう」「もう少し熱心に研究し、瞑想し、祈ってみよう」「ヤング大管長の約束を受けるにふさわしい人間になろう」という意欲をはぐくんでくれます。「皆さんが知る限りの範囲内、自分の持つ最高の光と理解に従った生活をし、天の父なる神の栄光をたたえるなら、神の王国で永遠の命が得られると約束します。」（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』390）

教師にできること

✕ ルキゼデク神権定員会と扶助協会の新しい教科課程に添って準備し、提示する方法をここに幾つか紹介します。ここに紹介する方法によって、教室で話し合いやレッスンをを行うときに聖霊の導きを受けられるでしょう。

1. 教える生徒の必要を満たすレッスンを準備できるように断食し、導きを求めて祈る。話し合われている教義について、自分の意見と思いを分かち合い、証を述べる。

2. 早めに準備を始める。導きを求めて祈る。参考資料と「研究のための提案」を読む。助けとなる聖句や質問、物語や個人的な経験について考えておく。

3. レッスンや話し合いの中で何を達成すべきか

決定する。日々の生活、また伴侶や家族との関係において、原則をどのように応用するか、その方法に話し合いの焦点が当たるよう計画する。レッスンの補足のために、必要に応じて、生徒に特別な割り当てを与える。

4. 生徒が聖霊の促しに対して心を開き、祈りを込めてテキストを予習し、自分たちの意見や思いを分かち合う準備をしてレッスンに参画するようチャレンジする。

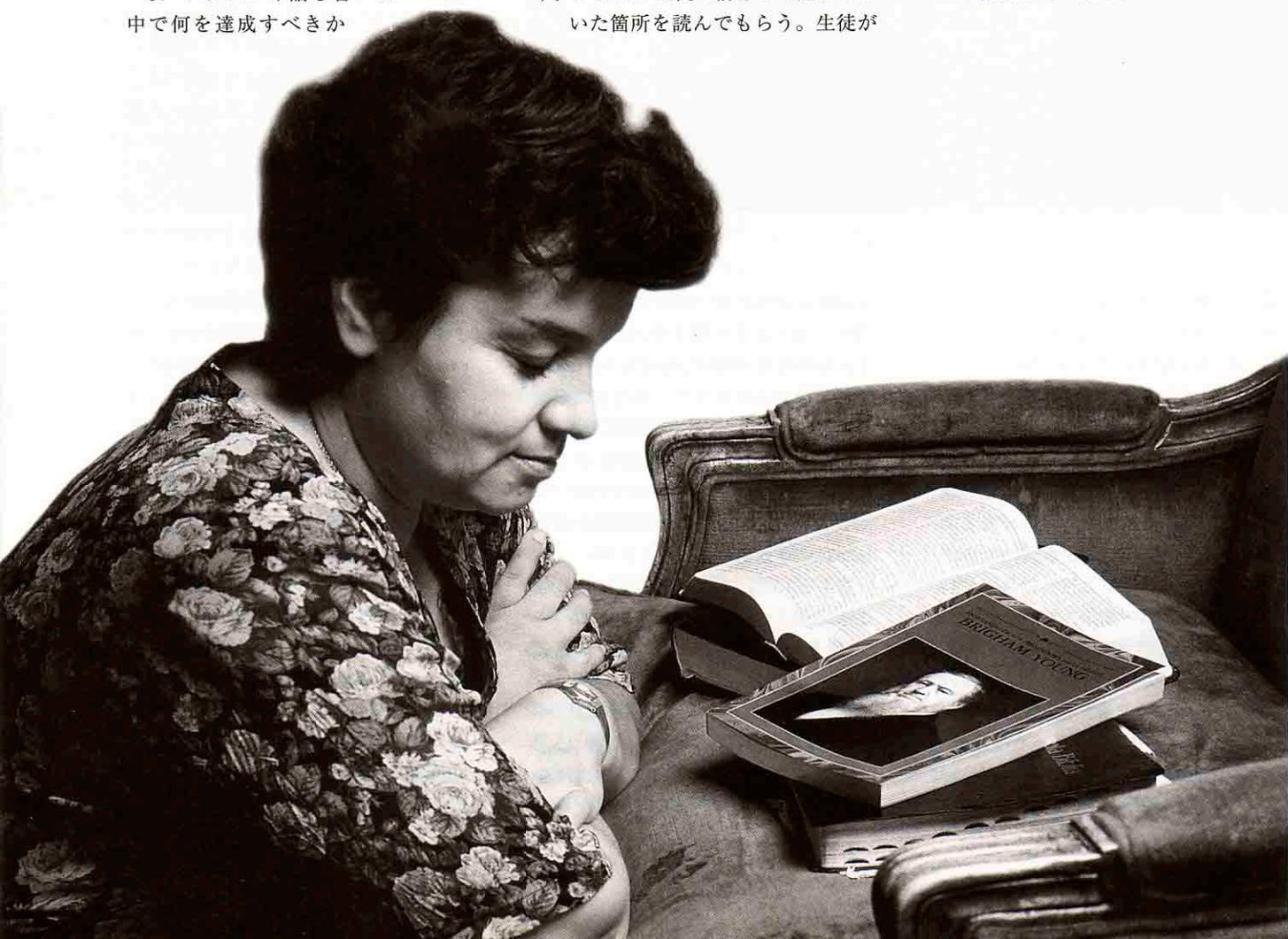
5. テキストからの引用文、適切な実物教材や物語、絵を用いて話し合いの導入とする。

6. テキストから、その日のレッスンの中心となる原則について話し合う。クラスの生徒に前もって選んでおいた箇所を読んでもらう。生徒が

日々の生活の中で教えを応用するように促す質問をする。生徒が自分の考えや、適切な経験、証を分かち合えるよう雰囲気作りをする。

7. 採り上げている原則が真実であり、また実生活において大きな価値を持っていることについて証する。クラスの生徒にもそうするように促す。

教え方についてほかにもアイデアが必要な場合、『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』の「序」の中にある「教師への指示」や『教師——その大いなる召し』にもう一度目を通してください。教師のための特別な指示は、『メルキゼデク神権定員会教授用資料』や『扶助協会指導者教授用資料』の中にも記されています。



指導者にできること

メ ルキゼデク神権定員会指導者やグループリーダー、また扶助協会会長は、質の高いレッスンを会員に提供する責任があります。新しい教科課程に添って有益なレッスンをするためのアイデアを幾つか紹介しましょう。

第1日曜日

- 『メルキゼデク神権定員会教授用資料』や『扶助協会指導者教授用資料』の中に記されている提案を研究する。
- 以下の義務について会員に分かりやすく教える。
 - 伝道活動を行う。
 - 自分自身とほかの人々の物質的な福利に心を配る。
 - 会員を霊的に完全な者とする。

— 死者のための業に働く。

- 与えられた時間を利用して、ともに話し合い、計画を立て、報告を提出し、祈り、歌い、聖文を読み、神権者をフォローする。

第2および第3日曜日

- 『歴代大管長の教え—プリガム・ヤング』に記されている原則や教義に焦点を当て、会員が日々の生活でそれらを応用できるよう助ける。
- 質の高いレッスンを以下の方法により維持する。
 - レッスンが、講義調にならず話し合いの時間となるようにする。
 - クラスの生徒が、ほかの人と話し合うにふさわしい霊的な経験を分かち合うよう励ます。

— レッスンに出る前に生徒がテキストを読んで予習しておくよう励ます。

— 聖霊の導きを求めてともに祈る。

第4日曜日

- 『わたしたちの時代のための教え—1998年度』で大管長会が指示しているテーマや資料について研究し、話し合うように指導し、支援する。
- 生徒が祈りを込めて各テーマを研究するよう励ます。

第5日曜日

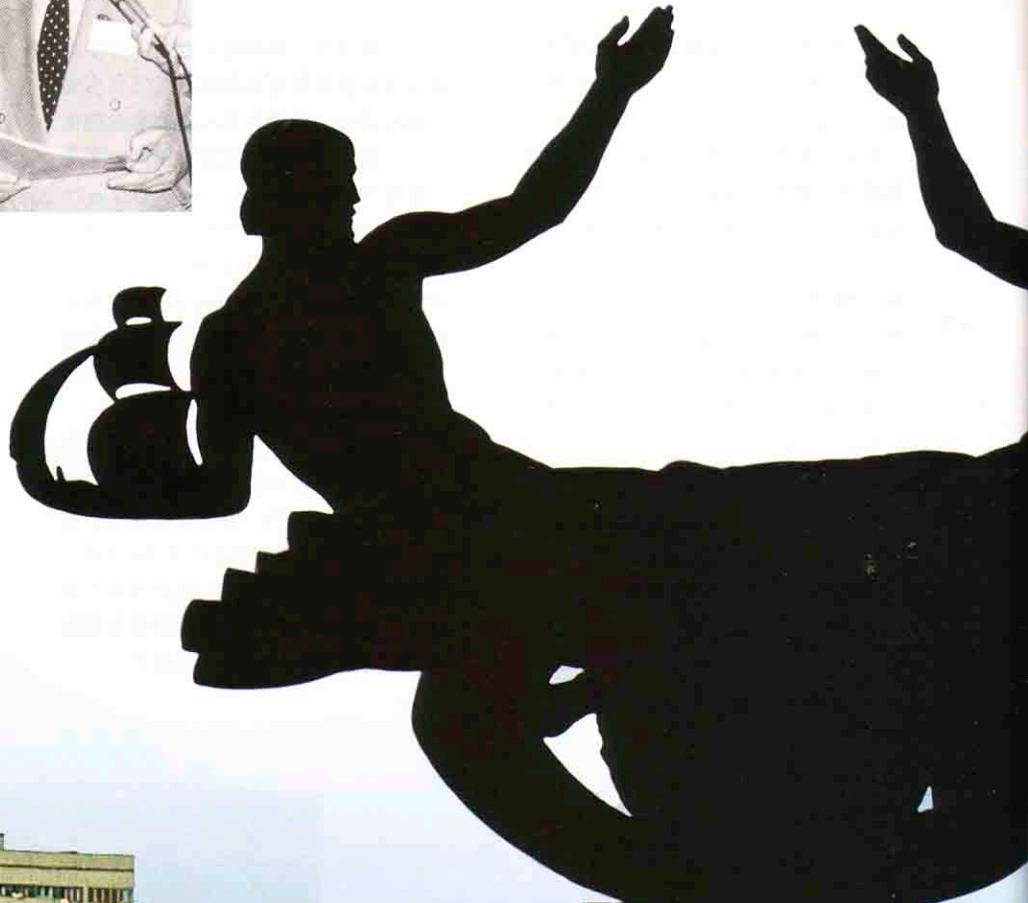
- 地元の神権指導者の決定に従ってレッスンを計画し、指示を与える。□





写真/「チャーチニュース」(Church News)の厚意により掲載

ロシア国内において、末日聖徒イエス・キリスト教会を正式に承認する声明を発表するロシア共和国アレクサンドル・ルツコイ副大統領（右）。会場には十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老（中央）とフィンランド・ヘルシンキ東伝道部のゲリー・L・ブラウニング部長が同席した。



サンクトペテルブルグ郊外



ロシアにおける 信仰の受け継ぎ

回復されたイエス・キリストの福音に喜びを見いだした
ロシアの末日聖徒たち

ゲリー・ブラウニング

末日聖徒イエス・キリスト教会がロシアの人々の生活に祝福をもたらし始めたのは、少なくとも1895年までさかのぼります。その年、ヨハン・リンデロフとアルマ・リンデロフ夫妻が Санктペテルブルグでバプテスマを受けました。その数年前、リンデロフ兄弟は生まれ故郷フィンランドで、彼の母親が宣教師から教えを聞き、バプテスマを受けたときに、福音を耳にしています。その後、熟練した金細工師であるヨハンと妻のアルマはロシアに移住しました。16年後、リンデロフ夫妻がスカンジナビア伝道部の部長にあてた手紙にこたえて、オーガスト・ホグランド長老がロシアに送られました。そして二

人は1895年6月、 Санктペテルブルグのネバ河でバプテスマを受けたのです。

教会に入ってから、リンデロフ夫妻は時折宣教師の訪問を受けました。1903年、十二使徒定員会のフランシス・M・ライマン長老がロシアの二つの地、 Санктペテルブルグとモスクワで奉獻の祈りをささげましたが、そのときまでに、リンデロフ夫妻の子供のうち二人がバプテスマを受けていました。多くの人々が、リンデロフ家族はロシアに福音を伝えるうえで際立った役割を担うだろうと感じていました。1917年のロシア(ボルシェビキ)革命が起らなかったなら、その期待は裏切られることなく実現していたことでしょう。



1918年、富裕なリンドロフ家の財産を略奪するというあからさまな意図の下、家族は労働収容所に投獄され、家は壊され、財産は没収されました。7人の子供のうち、生存が確認されたのは息子一人と娘一人だけでした。娘二人は家を追われた後に亡くなったことが分かっていますが、ほかの3人の子供たちの消息はいまだ不明です。1

外国に住むロシア人たちは次々に教会に入りました。アンドレ・アナスタシオンもその一人で、1917年にイギリスで改宗した彼は、後に『モルモン書』をロシア語に翻訳しました。しかしロシア国内においては、1990年に宗教法が改正されるまで、教会は公式に認められませんでした。

宗教の自由化への歩みは遅々として進みませんでした。最初の明かな兆候が1988年に訪れました。ロシアにおけるキリスト教布教1,000年の記念する式典が政府によって許可されたのです。宗教の自由への扉が開くにつれ、70年の長きに及ぶ国家的な無宗教主義

にもかかわらず、多くのロシア人が信仰の受け継ぎを保ち続けていたことが明らかになってきました。今日、多くの人が霊的な養いを求めて何世紀も続くロシア正教会に戻りつつあります。また、末日聖徒イエス・キリスト教会を含むほかのキリスト教の新しい信仰を探し求める人々もいます。

1989年10月、デニス・B・ノイエンシュバンダー（当時のオーストリア・ウィーン東伝道部の部長、現在は七十人）とステイブン・R・ミーチャム（当時のフィンランド・ヘルシンキ伝道部の部長）の二人がソビエト連邦に福音をもたらすための権能を与えられました。数か月後、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老が福音を宣べ伝える地としてエストニアを正式に奉献し、レニングラード（現在のサンクトペテルブルグ）では感謝の祈りをささげ、エストニアとロシアの人々に天の恵みが注がれるように願い求めました。1990年7月の時点で、ロシアの教会員数は156人を数えました。

ロシアの求道者や改宗者たちの鋭気をくじくような障害が、彼らを待ち受けていました。中でも最大の障害となったのは、ほかの教会への加入は、美しい建物と荘厳な礼拝行事に象徴されるロシア正教に対する裏切りであると



写真／トム・ロジャースの厚意により提供



上——現在のセミノフ家族、下——スウェーデン、ストックホルム神殿にて、神殿長夫妻とともに。セミノフ地方部長は、ブイボルクに建設されたロシア初の末日聖徒の教会堂（下）を奉献した。



写真ノグリー・ブラウニングの厚意により掲載。

いう世間一般の認識でした。

ロシア正教会とは対照的に、末日聖徒とその求道者は、学校や図書館、その他の施設など、日曜日の3時間、借りることのできる質素な場所で集い

ました。ロシア語に翻訳された教会関連の書物はほとんどなく、無報酬で働く指導者たちもまだ経験不足でした。知恵の言葉と同様、^{じほうぶん} 什分の一や純潔の律法も、多くの人にとってほんとうに大きなチャレンジとなる場合がありました。福音を受け入れるには、信仰と勇気が必要でした。

セミノフ家族

荘厳な反面、個人に焦点を当てることのない宗教行事に慣れた多くのロシアの求道者たちは、儀式よりも個人の行いと霊的成長を重視するこの教会の簡素な礼拝行事に共感を覚えました。

「イコン（訳注——ギリシャ教会で祭るキリスト・聖母・殉教者などの画像）のない教会など考えもしませんでした。逆に台所やシャワー、体育館やオルガンのある大きな部屋、そしてたくさんの教室がある教会も想像が付きませんでした。」アンドレイ・セミノフは初めて集ったフィンランドでの集会を振り返って語ります。



アンドレイは、フィンランドに程近いロシアの都市、バイボルクで医者として働き始めて間もなく、末日聖徒に出会いました。1989年の夏、アンドレイはフィンランド人の末日聖徒であるアイモ・ヤクとネレイ・ヤク夫妻とともにカヌーで旅をしました。キャンプファイヤーを囲んで神や信仰について話すうち、アンドレイは心に何かを感じ始めました。それまで彼は、人生の目的や悪の意味、また死後の世界の存在について考え、悩んでいたのです。アンドレイはヤク夫妻からフィンランドのラップランドにある教会の集いに誘われ、そこで専任宣教師に出会いました。

「わたしは唯物論者としての信念を引き続き貫こうとしましたが、永遠に関する疑問には相変わらず悩まされました。」アンドレイは、宣教師から福音を学んだことについて手紙でこう記しています。「後に読んだアルマ書には種についての記述があります。わたしの心に種がまかれたのは宣教師と出会ったその時でした〔アルマ32：28-48参照〕。わたしはラップランドから、心にはこの『良い種』を、旅行かばんには『モルモン書』を入れて持ち帰りました。」

アンドレイがラップランドを再び訪れた際、彼の信仰は宣教師たちから養われました。このときの訪問について彼はこのように記しています。「わたしの心の中に残っていた、外国の教会ではないかという偏見や疑念は消え去りました。」

バイボルクに戻った彼は『モルモン書』を研究しました。「このようなものは人間の考えでは造り出せないと感じました。ジョセフ・スミスを受けた教育やその知的能力など、ジョセフ本人に関する知識はほとんどありませんでしたが、そのような知識はまったく必要ありませんでした。これらの言葉が人によらず神によるものだと分かったからです。」

1990年2月、アンドレイは15人のレニングラードの聖徒たちとともに大会に出席しました。「わたしはずっと考えていました。これらの人々なしに、また、祈ったり聖文を読んだりするとき心に覚える興奮と背中を震わす気持ちなしに、これからの人生を送れるのだろうか。ユーシ・ケンバイネン兄弟〔副伝道部長〕が大会の後わたしのそばに来て『あなたはバプテスマを受ける準備ができていますか、どう思われますか』と言ったとき、すべての疑いは消え去りました。考える暇もなく、わたしの口から言葉が飛び出して、自分がこう答えているのが聞こえました。『はい、もちろん準備できています。』」そしてその日、彼はバプテスマを受けました。

1か月後、アンドレイは長老に聖任され、支部長として召されました。それから間もなく、彼は妻のマリナにバプテスマを施しました。

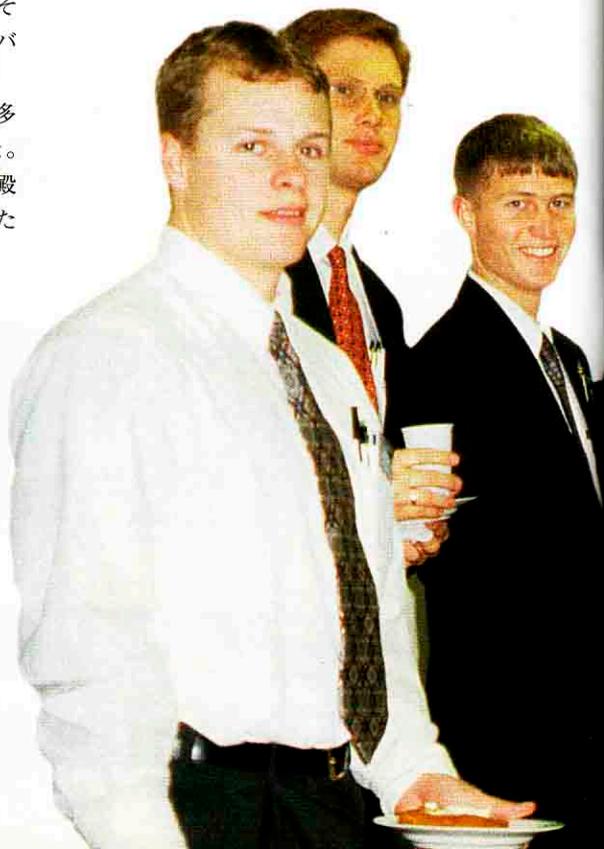
二人の人生に訪れた数々の変化は多くの祝福と機会をもたらしました。「スウェーデンのストックホルム神殿で永遠の結び固めを受けてから、わた

したちの人生に特別な喜びがもたらされました」と、セミノフ支部長は書き記しています。「この2年半の間、ロシアから神殿訪問に行くすべてのグループとともに、わたしはこの神殿を訪れています。そして、兄弟姉妹が永遠の世界に入る備えができるよう努力してきました。」

セミノフ兄弟は、支部長として卓越した働きをしました。また、バイボルク地方部の初代部長としても働きました。1996年5月4日、当時ヨーロッパ東地域会長会会長の任にあったノイエンシュバンダー長老の指示の下、アンドレイ・セミノフ地方部長はロシア初の末日聖徒の教会堂を奉献しました。

エフィモフ家族

ピアチェスラフ・エフィモフの父親が第二次世界大戦での負傷が原因でこの世を去った後、彼の母親は息子の物心両面の必要を満たすために懸命に働き、息子の心は次第に神の愛で満たされていきました。ピアチェスラフは母親の負担を少しでも軽くしようと、15歳のときレニングラードの工場で働き始めました。また、教育を続けるために、夜間学校に通いました。そのよう





な忙しさにもかかわらず、ピアチェスラフは時間を見つけては霊的な事柄を求め続けました。

『『科学と宗教』(Science and Religion)という雑誌を読んでいたら、『聖書』の中の一節が記されていました。わたしは心から神の知識を得たいと願っていました。雑誌には宗教に対する批判が書かれていましたが、わたしはそこに『聖書』の真実を見いだしたのでです。』

1971年、妻ガリーナと結婚後、ピアチェスラフは霊的な事柄に関する自分の気持ちをガリーナの家族とは話さないようにしていました。「妻の家族の中には、神について話す人はだれもいませんでした」と彼は当時を振り返ります。

二人の娘、タマラが5歳になったとき、タマラとガリーナはロシア正教会で洗礼を受けました。「礼拝行事に出席し始めましたが……いつも、神はわたしたちの祈りを聞いておられない、わたしたちに気づいておられないという気持ちがしていました」と、ピアチェスラフは記しています。「わたしたちはいつも肩を落として帰宅し、テーブルに着いてウォッカを飲んで心



開拓者の手押し車の複製の横に立つロシア・エカテリンブルグ伝道部ピアチェスラフ・エフィモフ部長とガリーナ夫人(上)。スウェーデン・ストックホルム神殿にて(左)。エフィモフ部長管理の下で働く専任宣教師とともに(下)。

写真/ゲリー・ブラウニングの厚意により掲載。





写真/ヤコフ・ヤコビッチ・ベトロフ

温めていました。』

1990年の春、タマラが友達の家で専任宣教師と会いました。最初、ピアチエスラフは娘に教える宣教師たちを無視していました。「こんな若い二人から神について何を学べるというのかと思っていましたから。……しかし、それ以降のレッスンで自分の疑問に対する答えが与えられ、また最も重要なことでしたが、神はわたしたち一人一人を愛しておられると理解できたのです。わたしたちは神の子供であり、神はわたしたちに救い主として神の御子、イエス・キリストを送ってくださったのです。」

やがて、エフィモフ家族の生活は大きく変わりました。「それまでは同じ家に住みながらも、それぞれ別の事柄



オレック・バザルスキー兄弟とニーナ夫人（上）と息子のアレキサンダー（左），下——皇帝の大宮殿のあるペトルドボレツ（サンクトペテルブルグ郊外に位置する）。

写真/ゲリー・ブラウニングの厚意により掲載



に没頭し、一緒に過ごす時間はほとんどありませんでした」と、ピアチエスラフは書いています。「日々の生活の煩い事が、わたしたちを引き離してしまっただけです。わたしたちは、10年から12年ぶりに、もっと多くの時間をともに過ごすようになり、『聖書』と『モルモン書』を読み始めました。3か月の間祈りの答えを待ち、バプテスマを受ける決心をしました。そして1990年6月9日、わたしたちは家族でバプテスマを受け、末日聖徒イエス・キリスト教会に入ったのです。」

1995年7月、エフィモフ兄弟はロシア・エカテリンブルグ伝道部の部長として召され、エフィモフ家族は専任で福音の喜びを分かち合う業を始めました。

バサルスキー家族

ニーナ・バサルスカヤはボロネジ（モスクワの南方400キロに位置する都市）に住み、英語の教師として働いています。彼女は若いころ神について学びましたが、40歳になるまで教会に集ったり『聖書』を読んだりすることはありませんでした。

彼女の夫、オレックは物理学者で「まったくの無神論者でした」と彼女は語ります。「彼は最初、わたしの信仰や祈りをおもしろがっていました。」

「1985年は、霊的な面でわたしの人生に大きな変化をもたらされた年でした。KGB（訳注——旧ソ連の秘密警察）を怖れたり、職場で嫌な思いをしたりせずに、自由に教会に行けるようになったのです。……そして、1991年

9月、わたしはモスクワ近郊のズビョーズドヌイゴロドクで開かれた国際言語学会議に初めて出席しました。」

会議の間、ニーナはあるアメリカ人教授から受けた最近のロシアの宗教事情に関する質問に答えなければならぬと強く感じました。宗教について自由に話せることに対する感謝の念に満ちた彼女の率直な発言は、同席していた多くの人々を感動させました。質問をしたブリガム・ヤング大学のロバート・W・ブレア博士もその一人でした。二人はすぐに親しくなり、ニーナは彼をボロネジに招待しました。

1992年の春、ブレア兄弟はニーナとオレックを訪問し、二人とともに正教会の復活祭の礼拝に出席しました。「わたしはこの行事を心待ちにしてい



ましたが、その礼拝に何の感動も覚えませんでした。……わたしはすっかり気落ちし、きっと自分の罪のために贖いについて何も感じられないのだと強く思い、家路に就きました。」

そして1992年の夏、ブリガム・ヤング大学の学生たちが英語を教えるためにやって来ました。ニーナは1度彼らの日曜日の集会に出席し、そこで感じた愛と温かさに心動かされました。

「わたしも彼らのようになりたいと思い、息子のアレキサンダーにも彼らと一緒にいてほしいと思いました。彼らは……それまで知っていたどの人とも異なっていました。」

彼女は最初、新しい末日聖徒の友人たちが模範によって示してくれる原則に従って生活しながらも、正教会の會員のままでいるのは可能だろうと思っ

セルゲイ・レリューヒン、イリーナ・レリューヒン夫妻と娘のマリナ。

ていました。しかし、すぐにそれは無理だと分かりました。それまでの信仰を持ち続けるか、それとも自分が目標とする人々の群れに加わるかという選択の狭間に立って、引き裂かれるような思いでした。

「二つの選択を前にして、わたしの心には平安が一瞬たりともありませんでした。ずっと考えながら、モルモンへの道を選べば、先祖の信仰を裏切ることになり、神はこの背教を決してお許しにはならないだろうと思っていました。わたしは神に祈り求め、そして答えを受けました。

ある日……川岸に座って水面を眺めながら、自分の取るべき道についてずっと思いを巡らせていました。そのとき、だれも裏切ることにはならない、たださらに成長し、いっそう深く信じられるようになるだろう、という確かな声を聞いたのです。

この声を聞いたときの気持ちを表現

するのは難しいのですが、強いて言えば、驚き、安堵感、幸福といった気持ちでした。……そして1992年12月15日、学生たちがアメリカに帰国する前日、わたしはバプテスマを受けました。

わたしの生活は一変しました。以前よりも平静で、寛容で、忍耐強くなりました。家族の中の問題は次第になくなっていきました。わたしは生まれて初めて、『静かな幸福』という言葉の意味を悟りました。それはいわば、自分自身との調和であり、心の平安です。その1年を通して、信仰は育つものだと確信しました。1年前には疑っていた事柄が、真実で正しいと思えるようになったのです。

夫に最初に影響を与えたのが、わたしや息子の模範であったのか、学生たち、あるいは伝道部の部長や宣教師との交流であったのかは分かりませんが、彼は1993年9月から教会に定期的に出席するようになり、……1994



年1月15日、バプテスマを受けました。

バサルスカヤ姉妹はバプテスマを受けた後、扶助協会の会長など数多くの責任を果たしてきました。彼女の夫はポロネジ支部の支部長になり、息子のアレキサンダーはラトビアのリガ伝道部で宣教師として働きました。

レリューヒン家族

多くのロシア人が科学的物質主義だけでは幸福になり得ないと考える一方、宗教的な真理の探求をためらう人々もいます。しかし、多くの人が教会の強調する永遠の進歩、つまり、霊と精神が絶えず進歩するという教えに好意的な反応を示します。

セルゲイ・レリューヒンもその一人でした。セルゲイの妻イリーナは祖母と暮らしたわずかな期間に、正教会で洗礼を受けていました。1990年、二人の娘マリナが正教会の洗礼を受けるかどうか尋ねられ、セルゲイは宗教の大切さについて考えるようになりました。

「わたしは多くの宗教書を読み始めました。……わたしが理解した重要な点は、信者にとって教会は本人の人生の基礎となるということでした。宗教的な生活を送るための力が自分の中に存在すると確信したわたしは、洗礼を受ける決心をしました。」

セルゲイとマリナは1990年11月、正教会で洗礼を受けました。しかし、二人はその後も、霊的な飢えを感じ続けていました。1992年6月、ウクライナのドネツクに出張したとき、セルゲイは数人の末日聖徒に会いました。彼らの信仰に興味を持った彼は日曜日の集會に招待されましたが、そのときは出席できませんでした。しかし4か月後、

機会は再び訪れました。

「仕事から家に帰る途中、わたしは町の大通りを歩いていました」とセルゲイは当時を振り返ります。「前の方にリュックサックを背負った二人の若者が見えました。わたしは急ぎ足で彼らの横を通り過ぎ、青信号まで来ました。急いで渡ることもできたのですが、何か不思議な気持ちにとらわれて渡らずにいました。」

その二人の若者がわたしに追いついて来て、町のある通りへの道筋を尋ねてきました。目的地の通りまで一緒に行くことを伝え、10分ほどともに歩いて行く間、宣教師たちから彼らの教会について聞きました。別れ際に、わたしのアパートで会う約束をしました。」

数日後、レリューヒン家族は宣教師とともにモスクワの南東675キロに位置するサラトフの教会で開かれた集會に初めて出席しました。「わたしたちはその集會の雰囲気が大変気に入りました。」セルゲイは語ります。「集会后、祈りたいという気持ちが心にわき、宣教師たちが2度目のレッスンで我が家を訪れたとき、わたしは祈りました。」

レッスンをすべて終えた後、家族は1992年11月にバプテスマを受けました。彼らは福音を速く学び、いきいきと奉仕し、喜びをもってほかの人々をフェロシップしました。

「主の教会で主に仕える機会を通し、わたしたちは霊的に成長できます。」サラトフの初代支部長となったレリューヒン支部長は語ります。「ほかの聖徒たちが成長できるよう努めるとき、自分自身も大きく成長しているのを感じます。」

家族のバプテスマによって彼らは自

信と幸福を得ましたが、^{しんせき}親戚の中には懸念を抱く人もいました。「バプテスマの後、親戚からの誤解や、時には非難を受けることもありました」と、レリューヒン支部長は当時を振り返ります。「でも、わたしたちは耐えていけると確信していました。完全な理解を得るにはまだかなりの時間を要しますが、親戚の反応は以前よりずっと寛容になってきました。」

レリューヒン家族は1995年3月、スウェーデンのストックホルム神殿で結び固めを受けました。現在、レリューヒン兄弟はサラトフ地方部の部長として責任を果たしています。

預言の成就

1843年6月、預言者ジョセフ・スミスは十二使徒定員会の一員であるオーソン・ハイド長老とジョージ・A・アダムズ兄弟を「広大なロシア帝国」への最初の宣教師として任命しました。任命の言葉の中で、預言者はロシアについて「末日における神の王国の発展と建設に関して、幾つか最も重要な事柄とかかわっている国」³と語りました。ハイド長老とアダムズ兄弟はその使命を果たすことはできませんでしたが、^{こんにち}今日のロシアの末日聖徒たちは、その預言の成就に向けた礎を築いているのです。□

注

1. ゲリー・ブラウニング、*Russia and the Restored Gospel* 『ロシアと回復された福音』7-12参照
2. 以上の引用は、ロシアの会員から筆者に寄せられた手紙による。
3. *History of The Church* 『教会歴史』6:41



癒しへの旅



子供のときに虐待を体験した教会員たちが、癒しへの旅の道筋で、イエス・キリストの福音を通して助けを受けた体験を分かち合う。それぞれの旅に共通しているのは、祈りを通して得られる力、また従順が生み出す力、イエス・キリストの愛による希望、思いやり深い神権指導者をはじめとする様々な人々の導きである。

わたしは子供のころに、肉体的、精神的、性的な虐待を経験しました。しかし、今では自分を虐待の犠牲者と考えることはありません。わたしは、怒りや憎しみ、復讐心みくしゅうなどで自分をだめにする必要はまったくないと心に決めてきました。救い主は、過去にわたしが経験したことを御存じです。それに対する裁きや罰については、主の手にゆだねてきました。

「自分の身に起こったことで裁かれるのではなく、それによって自分の人生を自らどう変えたかで裁かれるということが分かりました。自分の身に起きたことに対して、わたしが責められることはありません。過去を変えることはできません。それでも、これから先の生活を変えることはできます。わたしは救い主いすに癒しをいただく道を選びました。そして自分の学んだことを子供たちに教えています。わたしの人生への取り組み方は、子供や孫そして将来の世代へと影響を与えていくことでしょう。」

最近、教会の機関誌が、子供のころに虐待を受けたことのある読者から、その癒しへの旅の道筋で、イエス・キリストの福音を通して助けを受けた体験談を募集しま

した。そして、上記の例のように、各人各様の数々の体験談が寄せられました。しかし、どの体験にも共通する要素があります。それは、祈りを通して得られる力、また従順が生み出す力、イエス・キリストの愛による希望です。これらの永遠の真理は、思いやり深い神権指導者の導き、適格なセラピストからの勧告と相まって、癒しへの旅を確かなものとしてくれます。

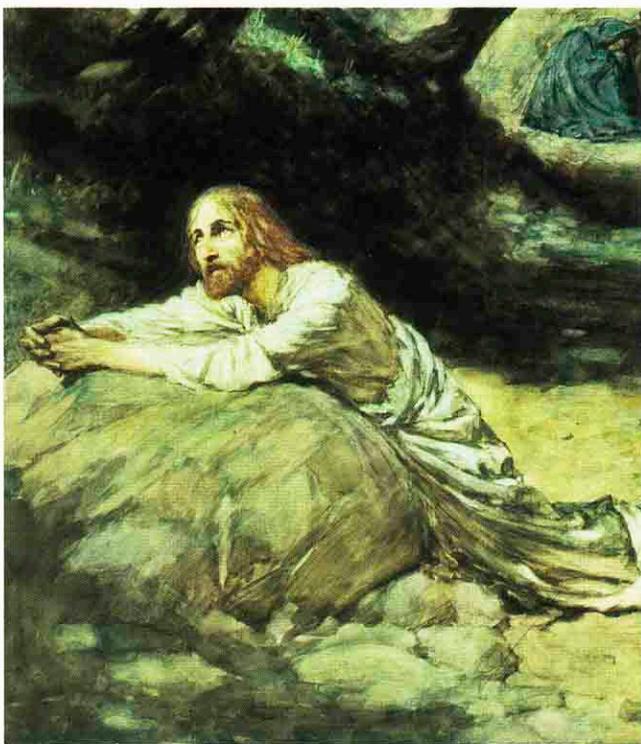
「わたしの恵みはあなたに対して十分である」

幼児期の虐待がもたらす結果は、性的なものであれ、また肉体的なものであれ、精神的なものであれ、どれもその人の心に深い傷を与えます。体験談を寄せてくれた人々が、大人へと成長する過程で経験した苦しみには、やはり共通したものがあります。それは、恐れ、怒り、不信感、失望、自尊心の喪失などです。心を打ちのめす重苦しい感情が、彼らの人生のすべての面に影響を与えました。

ある会員は次のように述べています。「わたし自身の癒しへの道には、虐待の結果による様々な個人的問題に

どう対処するかということが含まれています。そういう自分の弱さと闘うのは、苦しいことであり、時には恐ろしく感じることもさえます。しかし主は『わたしの恵みはあなたに対して十分である』と断言していらっしゃいます(2コリント12:9)。本来の自分を取り戻すためのこの道を歩み続けるかぎり、主はわたしを助けてくださいます。わたしは主の恵みに対する感謝の思いを新たにしています。わたしには贖いあがなが必要です。救い主に心の底から感謝しています。』

心を引き裂かれ、深い傷を負っている人々が、苦しみ



「ゲツセマネのキリスト」ウィリアム・ヘンリー・マーゲットソン画

心を引き裂かれ、深い傷を負っている人々が、苦しみの中に一人置き去りにされているのではないということに気づいていく癒しいやしのプロセスにおいて、確かに、贖いあがなは重要な役割を果たします。

の中に一人置き去りにされているのではないということに気づいていく癒しいやしのプロセスにおいて、確かに、贖いあがなは重要な役割を果たします。救い主は、彼らが平安を見いだせるように道を備えてくださいました。

ある女性はこう書いています。「1995年10月の総大会で、ジェフリー・R・ホランド長老は、聖餐式せいさんしきの間に主を覚えることについて話してくれました。ホランド長老は、救い主が降誕されたときのみすぼらしい環境、その生涯にあった様々な場面を思い起こすようにと提案しました。そしてその十字架の刑を心の中に覚えることについても話しました。そして、こう言いました。『よろよろしたり、つまずいたりすると、主はそばに来られ、わたしたちを支え、力を与えてくださいます。そして、最終的にはわたしたちを救ってくださいます。そのために主は御自分の命をささげてくださったのです。』(「わたしを記念するため、このように行いなさい」『聖徒の道』1996年1月号, 74)

わたしは、イエス・キリストが世の人々の罪の代価を支払うために、その命をささげてくださったことは理解していました。しかし、わたしたちのだれもがこの世で耐えなければならない苦しみ、虐待、心痛のために命をささげてくださったことを理解していなかったのです。それらの体験の多くは、自分ではどうすることもできないひどい環境の中で罪なき被害者として味わうものです。

わたしは大会が終わると急いで家へ帰り、救い主が受けられた十字架の刑のこの点について聖文を調べました。そしてすばらしい聖句を見つけたのです。『人の価値が神の目に大なるものであることを覚えておきなさい。

見よ、主なるあなたがたの贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるように、主はすべての人の苦を引き受けた。』(教義と聖約18:10-11) イエス・キリストは、人々の罪のためだけに苦しみを受けられたのではなく、人々の心の痛み、悲しみをも引き受けられたのです。そのメッセージはわたしの心に強く迫りました。救い主は虐待を受けてきた人々のためにも苦しみをお受けになったのです。その日から、わたしの癒しが始まり



愛と希望と喜びを感じたいと苦悶している人々にとって、祈りは大きな助けとなります。

ました。」

祈り——「失うものは何也没有せん」

一度贖いの力を理解すると、愛に満ちた天の御父への信頼がさらに深まり、それが癒しへの大きな要素となります。しかし、この御父への信頼は簡単に得られるとは限りません。

ある読者はこう記しています。「子供のときに受けたいろいろな苦しみが原因で、わたしにとって、神様との間に密接な関係を持ちたいと望むのは、とても難しいことでした。遠くから神様を礼拝している方が、はるかに楽でした。わたしは、神様は自分のような人間のことは知りたいとも思っておられないと考えていました。わたしは様々な恐ろしい体験をしていく中で、すべてにおいて完全な神様は、わたしの真実の姿を忌み嫌われるに違いないと思込んでいました。」

しかしへりくだって天の御父の助けと愛と導きを求めるのは、欠くことのできない重要なことです。十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老はこのように励ましています。「選択の自由を用いてそうするならば、神の御力による助けが得られます。」（「忌まわしい虐待の傷を癒やす」『聖徒の道』1992年7月号、36）

助けを求めて祈る人は、慰めと導きを見いだすことができます。ある男性はこう回想しています。「わたしは祈ることから始めました。わたしには失うものは何也没有ませんでした。それはほんとうに初めての祈りでした。

長い時間、心を込めて、そして度々祈るようになりました。苦しみが和らげられるように祈りました。祈りに対する答えによく耳を傾けました。そして天の御父はわたしに語りかけてくださいました。わたしは答えや慰めを願い求めました。そして主はそれを聞いてくださいました。人生で初めて、わたしは本気で福音の原則を生活の中に取り入れました。そして、その結果が出たのです。」

愛と希望と喜びを感じたいと苦悶している人々にとって、祈りは大きな助けとなります。次のように話してくれた人がいます。「わたしは祈りを通して、神様に信頼する気持ちを強めていきました。それはつらい苦しみの中にいるわたしを助けてくれました。自分はほんとうに神様の子供なんだということを理解すると、罪悪感、失意、自分を卑下する思いが消えていきました。わたしは天の御父の愛を感じました。そして心から助けを求めて祈ると、聖霊の慰めが与えられました。」

「わたしの言葉を試し」

祈りを介したコミュニケーションが確立すると、主の御霊によって、癒しのプロセスの次の段階への導きを受けることができます。そのための努力は、多くの場合、苦しく困難なものではありますが、永遠の真理と愛の原則に基づいたものです。そして、一度にすべてが達成される必要はありません。

ある読者は癒しのプロセスを歩み続けることの難しさ、そしてその必要性についてこう述べています。「わたしはある12月の寒い夜、主を信じ、神権の祝福と聖文を通して主の勧告を受けるまでは、成長できないと気づきました。わたしの情緒的また霊的な面における健康は、永遠の成長と同様、そのことにかかっていたのです。わたしは天の御父に頼らなければならなかったのです。」

人はどのようにして霊的な事柄を信じるようになるのでしょうか。それはこの世的な体験とはまったく異なるものです。わたしは長い間祈り、涙した後に、アルマ書第32章27節の中にその答えを見つけました。『しかし見よ、もしあなたがたが目を覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとす

るならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。わたしの言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。』

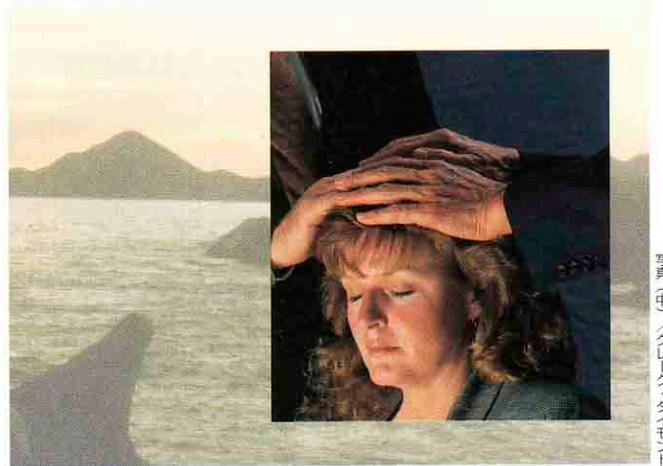
この言葉を読んだとき、思わず泣きだしてしまいました。わたしは望みを持っていました。そして、それを育てていくときに、この聖句の約束どおりに、アルマの言葉の一部分を受け入れることができるようになったのです。ひざまずいて祈るときに、主がわたしの『石の心を取り去って、肉の心を与え』てくださるのを感じました(エゼキエル11:19)。その後の何か月かに、わたしは自分の内面の変化を感じることができました。』

御霊に従う

癒しを求めて苦闘している人は、神権指導者に相談するよう導かれる場合もあります。また友人を信頼するようという靈感を受ける人もいます。御霊が教会の集会への出席や神殿参入の大切さを心に強く刻むこともあります。日々聖文を学ぶことが、安定をもたらし(いかり) 霊感の源となります。必要な場合には、祈りの気持ちで癒しへの旅を助けてくれるカウンセラーやセラピストを見いだせるよう、御霊が助けてくれることも少なくありません。

ある読者はこう話しています。「わたしは自分の癒しに最も必要な賜物(たまもの)を受けよう備えられていた神権指導者たちのもとに導かれました。彼らはわたしの話を聞き、わたしが助けを求めたときには、ほんとうに驚いた様子をしていることが多かったのですが、皆が御霊の声に耳を傾け、御霊の導きによって語り、その役割を果たしてくれました。』

ある姉妹は扶助協会の活動にさらによく参加するよう灵感を受けました。そこで彼女は、まさに自分が必要としているものを見いだしました。こう書いています。「わたしにとって扶助協会は、自助グループ(訳注——精神的・情緒的な障害を持つ人々の社会復帰を助けるための療法を行うグループ。同じような虐待を経験した人々が集って、各自の体験を分かち合ったり、互いに励まし支え合ったりする)で受けられるすべてのものに加えて、末日聖徒との交わり、また天の御父がわたしにお



神権の祝福と祝福師の祝福も、心に慰めを与えてくれるすばらしい源です。

望みの目標や友情がもたらす祝福も得られる場所です。わたしは、積極的に扶助協会に参加しました。そこで得られた様々な機会に感謝しています。』

ある女性は「教会の集会にいつも出席することが絶対に必要であると理解しました。祈ることに抵抗がある場合は、教会への出席を考えることさえできないように思います。でも、聖餐(せいさん)を受けると、聖霊(せいれい)を感じるができます。わたしの子供たちも、敬虔(けいけん)にすることを学び、霊的な雰囲気を感じました。継続することが非常に大切です。それは親しい人間関係と子供たちへの良い影響を与えてくれました。』

神殿への参入を強調する人もいます。「わたしの場合、癒しへの旅のほとんどは、神殿の中で成し遂げられました。わたしたちが住んでいる所から神殿へ行くには12時間かかります。でも、自分で行かなければならないのを理解したときに、そのための道は備えられました。あの神聖な建物の中以上に、救い主の愛を強く感じた所はほかにありません。またその旅のときほど、喜びの涙を流したことはありませんし、心に安らぎを感じたこともありません。わたしは、その間ずっと救い主が歩みを共にしてくださったのを知っています。』

神権の祝福と祝福師の祝福も、心に慰めを与えてくれるすばらしい源です。ある会員は次のように書いています。「つらくてどうしようもないとき、わたしはいつも希望の言葉と、祝福師の祝福の中に書かれている、喜びに満たされた人生についての言葉を導きとしてきまし

た。自分と同じような悲しい経験をしている人たちにもこのような祝福が注がれるように、と神にしばしば祈ってきました。わたしはいつか幸せになれるという希望をもって、約束された祝福をひたすら信じました。そして主が約束の祝福をわたしの人生の中で実現してくださるのを目の当たりにしたとき、証が強まりました。」

主の御霊は、癒しのための助けを自分以外の源に求めるようわたしたちを導くほかに、謙遜で正直な人が癒しの源を自分自身の内に見いだせるようにも導いてくれます。

次のように回想している姉妹がいます。「わたしは、『今は前に進む時だ』と告げる、御霊の促しを感じました。どのような虐待を耐えた人の言葉にせよ、虐待の事実そのものを完全に忘れてしまったというようなことは、わたしには信じられません。でも、怒りと苦しみを除き去れるということは信じています。それができると、過去のつらい記憶の印象が弱くなり、力がわいてきて、後ろ向きな思いに取って代わるようになります。初めのうちは、つらい思いに負けないように頑張るだけで精いっぱいでしたが、今は、福音への証が深く根を下ろしているの、人生を楽しめるまでになっています。」

傷つけた人を赦すようにとの戒め

癒しへの旅を歩んでいく中で、自分を傷つけた人を赦すという避けて通ることのできない問題が生じます。多くの場合、「赦しなさい」とこの戒めは（教義と聖約64：10参照）簡単にはできないと思えるものです。しかし、この永遠の原則は、永続的な安らぎをもたらしてくれるのです。

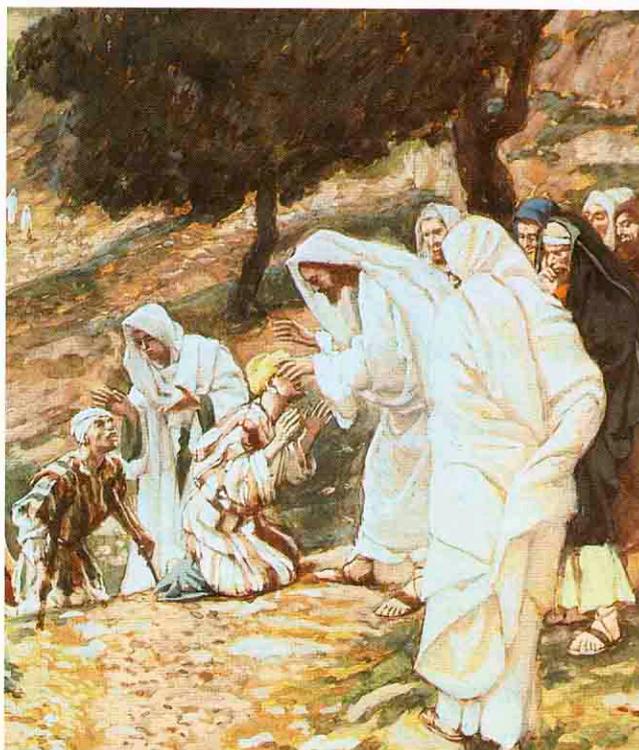
ある女性はこう言っています。「自分を傷つけた人だけでなく、自分自身をも赦す必要があります。赦しは、虐待そのものを大目に見るということではありません。虐待した人々を責めたり、裁いたり、あるいは復讐をしたりする必要はありません。わたしは、そういったものはすべて主にゆだねています。そして、自分を強くするために赦しの原則を用いてきました。」

次のように話している人もいます。「その苦しみにとらわれていると、いつまでも虐待から逃れられないと分

かりました。赦しとは、自分を傷つけた人に対して寛容にするとか、その行為のひどさを軽く考えるということではありません。しかし、赦しはわたしの重荷を軽くし、キリストの御心になつたことなのです。

「あなたがたの父の子」

リチャード・G・スコット長老は次のように証しています。「癒しに通じる最も確実で、効果的な近道は生活の中でイエス・キリストの教えを实践することで〔す。〕」（「癒し」『聖徒の道』1994年7月号，9）今回自分の体験



「足の不自由な人と目の見えない人を癒されるイエス」ジェームズ・ジャーク・ジョセフ・ティン画

リチャード・G・スコット長老は次のように証しています。「癒しに通じる最も確実で、効果的な近道は生活の中でイエス・キリストの教えを实践することで〔す。〕」

を分かち合ってくれた人々も、この点において考えが一致しています。従順と信仰とを通して、答えを見いだし、希望を感じることができたという経験が、繰り返し述べられています。

ある女性は教会が示す指針についてこう話しています。「教会が説く指針は、わたしを支える力でした。その戒めに従うとき、わたしの生活は改善されました。教会は真理と正義の確かな基です。」

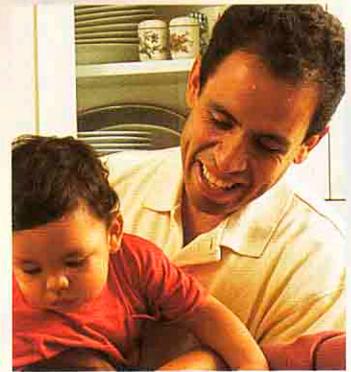
第三ニーマイ第12章44節から45節が特に好きだという女性もいました。「しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの敵を愛し、あなたがたをのろう者を祝福し、あなたがたを憎む者に善をなし、あなたがたを不当に扱い迫害する者のために祈りなさい。

こうして、天におられるあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも善い者の上にも太陽を昇らせてくださるからである。」

彼女はこう付け加えています。「この聖句の言葉は、自分は肉親からは愛されなかったが、その代わり、天の御父からは愛されているのだということを理解する助けとなりました。この関係は、わたしが御父に従い、自分を傷つけた人たちを赦そうと努力すればするほど、もっと強くなっていきます。」

雄々しい霊

虐待が常態となっている環境の中に生まれた子供たちに関する質問に対して、ファミリーセラピストであり社会学教授であるカールフレッド・ブローデリックは次のように答えています。「わたしは教会の様々な召し、またファミリーセラピストとしての体験から、一つ確信していることがあります。神は破滅的な家系に対して、そのような傾向を断ち切る雄々しい霊を立て、悪しき流れを変えようとされる場合があるということです。そのような環境の子供は、何の罪もないのに暴力、無関心、搾取などの犠牲となり、苦しみを受けることがあります。神の恵みによって、その中のだれかが、それらの毒をなくす力を見いだし、悪習が子孫に伝えられるのを断つのです。彼らの前の世代には破壊的な苦しみがありますが、その後には清く汚れない世代が続いていきます。その



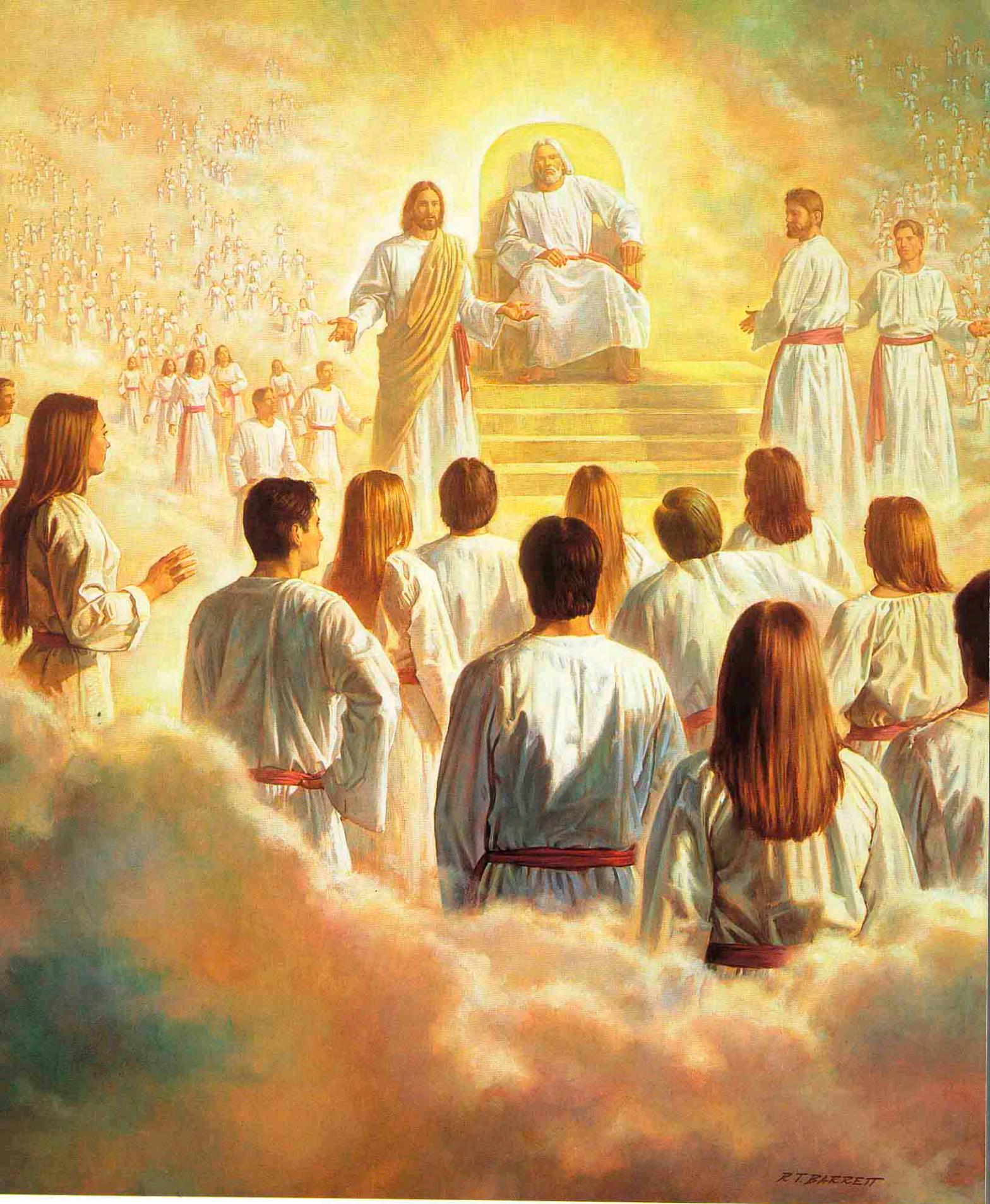
聖徒たちはイエス・キリストを通して希望と癒しを見いだし、夜がどれほど長くても、夜明けは必ず訪れることを見いだしているのです。

子孫は、彼らを祝福された人と呼ぶことでしょう。」(“I Have a Question” *Ensign* 「質疑応答」『エンサイン』1986年8月号, 38)

癒しへの旅の体験を分かち合ってくれたこれらの雄々しい末日聖徒は、虐待の流れを断ち切る決意をしています。イエス・キリストの福音と、その贖いの犠牲を通して、彼らは癒しと成長に必要な導き、愛、希望を見いだしています。

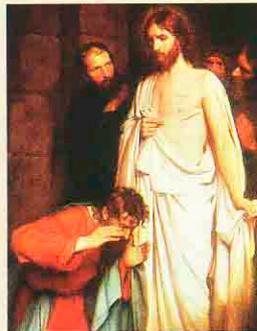
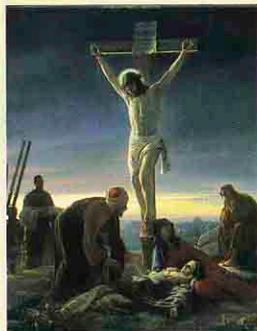
ある男性はこう書いています。「道は長いですが、しかし、わたしはこれまで確かに成長してきました。自分の人生に見通しができて、とても心が弾んでいます。毎日聖文を読み、家族の祈りをしています。子供時代に性的虐待で受けた心の傷を克服し、乗り越えられることを知っています。わたしがその生き証人です。」

こう書いている人もいます。「福音は、わたしの錨(いかり)です。福音以外にわたしの心に不変の喜びを与えてくれるものはありません。福音は、どのように生き、どのように赦すべきかを教えてくれました。わたしは、主イエス・キリストによらずには、希望と癒しを見いだすことはできない、と学びました。福音がなければ、様々な苦しみが教えた良きものを学び取る選択はできませんでした。寄せ来る嵐(あらし)の雲がどれほど暗く、夜がどれほど長くても、夜明けは必ず訪れます。そして朝になれば必ず喜びがあるのです。」(詩篇30:5参照) □



ロバート・T・バレット画

「また、主は言われた。『わたしはだれを遣わそうか。』すると、一人が人の子のように答えた。『わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。』
また、別の者が答えて言った。『わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。』そこで、主は言われた。『わたしは最初の者を遣わそう。』(アブラハム3:27)



「見よ、主なるあなたがたの贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるように、主はすべての人の苦を引き受けた。☪ そして、悔い改めを条件として、すべての人を自分のもとに導くことができるように、主は再び死者の中からよみがえったのである。☪ 人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか。」（教義と聖約18：11-13）



1997年に実施された ヒンクレー大管長の旅行



1997年10月に太平洋地域を訪問の際、会員たちとあいさつを交わすゴードン・B・ヒンクレー大管長。
写真/ゲリー・アバント；『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載

チャーチ・ニュース

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は教会の大管長として支持されてからしばらくして、次のように述べている。「わたしは自分の力の及ぶかぎり、国の内外を問わず、人々を訪ねて、感謝の言葉を述べ、励ましを与え、信仰を築き、教え、そして人々の証に自分の証を加え、それと同時にその人々から力を頂くつもりです。……わたしは自分にできるかぎり、頑張^{あかし}って前進し続けるつもりです。」(「栄えあるイースターの朝に」『聖徒の道』1996年7月号、75)。

ヒンクレー大管長にとって1997年は例年にたがわず多忙な1年だった。3大陸と海の島々を歴訪している。大管長が訪れたユタ州以外の地域は以下のとおりである。

1月—フロリダ州ジャクソンビル；パナマ、パナマシティ；コスタリカ、サンホセ；ニカラグア、マナグア；ホンジュラス、サンペドロスーラ；エルサルバドル、サンサルバドル；グアテマラ、グアテマラシティ

2月—カリフォルニア州バームスプリングス

3月—カリフォルニア州グレンデール；テネシー州ノックスビル；カリフォルニア州サンタクララ

4月—イリノイ州ノーブー；ネブラスカ州オマハ；ネバダ州エルコー；メリーランド州カレッジパーク

5月—ワイオミング州サンランチ；ニュージーランド、ハミルトン；オーストラリア、メルボルン、アデレード、パース、シドニー、ブリスベン

6月—メキシコ、コロニア・フアレス

7月—ワイオミング州シンプソンズホロー

8月—ウルグアイ、モンテビデオ；パラグアイ、アスンシオン；エクアドル、グアヤキル、キト；ベネズエラ、バレンシア

9月—コロラド州デンバー；ニューメキシコ州アルブカーキ；アリゾナ州ウィンドウロック、メサ；ワイオミング州エバンストン

10月—ハワイ州ライエ；サモア、サバイ、アピア；アメリカ領サモア、パゴパゴ；トンガ、ヌクアロファ、ババウ；フィジー、スバ；タヒチ、パペーテ

11月—メキシコ、メキシコシティ、プエブラ、ワーハカ、ビヤエルモサー、メリダ；ベリーズ、

ベリーズシティ；メキシコ、カンクーン；ジョージア州アトランタ
12月—ユタ州外の訪問はなし



メキシコシティで聖徒たちに別れを告げる
ヒンクレー大管長。
写真/ジョン・L・ハート：
『チャーチニュース』の厚意により掲載

メキシコ、ベリーズ、アメリカ 合衆国の聖徒たちを訪れた ヒンクレー大管長

1997年の暮れ、訪問と説教の日程が一向に減る気配を見せない中、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は以下のスケジュールをこなした。メキシコおよびベリーズの7都市における会員たちの訪問、ジョージア州アトランタ神殿において改修されたバプテスマフォントの再奉獻、ユタ州立大学およびブリガム・ヤング大学における学生たちへの説教、ソルトレーク・シティーにおけるモルモン大隊記念碑の再奉獻、ソルトレーク・シティーにおける150年記念授賞晩餐会における講演。

メキシコシティ

ヒンクレー大管長は11月8日から13日までメキシコおよびベリーズを訪れた。土曜日の夕べと日曜日の午前中には、メキシコシティの巨大スポーツアリーナ「パラシオ・デ・ロス・デボル

テス」に集まった約4万2,000人の会員たちを前にして説教を行った。大管長の全旅程に同行したマージョリー夫人、十二使徒定員会会員のL・トム・ペリー長老とバーバラ夫人は全員が様々な集会で話の責任を果たしている。また大管長のメキシコ滞在時には、メキシコ南地域会長会会長であり七十人のカール・B・ブラット長老およびカレン・アン夫人、同地域会長会副会長であり七十人のリチャード・E・ターレー・シニア長老とジーン夫人、地域幹部七十人のオクタビオ・テノリオ長老とロサ・エルバ夫人が同行した。



白いハンカチを振ってヒンクレー大管長との別れを惜しむメキシコシティの会員たち。
写真/ジョン・L・ハート：
『チャーチニュース』の厚意により掲載

メキシコシティにおいて大管長は「わたしたちがこの地を訪れているのは、皆さんが教会に導いた人々が信仰を強めて、皆さんがあずかっている祝福を受けるにふさわしい者となるよう助けるために、教会として彼らに関心を示すことが目的です」と語った。「皆さんは人々に教え、バプテスマを施すだけでなく、彼らを教会に定着させ、強めるという偉大な御業に携わっています。わたしたちはメキシコの全教会を挙げて、そうした皆さんを支援することを固く決意しています。ここ



ヒンクレー大管長の説教を聞くためにメキシコシティに集まった数万人の教会員。
写真/ジョン・L・ハート；『チャーチニュース』の厚意により掲載

に集まっているすべての教会員に対してわたしは次のことをお伝えしたいと思います。それは、皆さんとわたしには大きな責任があるということです。すなわち、バプテスマを受けて教会に入った人々に手を差し伸べて彼らの友達になり、彼らが教会に慣れるように助け、そして皆さんのように強く、立派な教会員になるよう手助けすることです。」

メキシコ、プエブラ

11月9日日曜日の晩、メキシコ南部のプエブラへ移動したヒンクレー大管長は、集まった約1万2,000人の会員たちを前にして説教を行った。会場の前列に席を占めていた専任宣教師に向かって大管長は次のように述べている。「皆さんは忠実な会員たちを教会に招き入れる働きの一部を行っているにすぎません。……わたしたち教会員は全員で協力して、皆さんの改宗者が忠実で揺らぐことのない教会員となるようお手伝いする決意を固めています。」



メキシコのプエブラでヒンクレー大管長の言葉に耳を傾けた約1万2,000人の会員たち。
写真/ジョン・L・ハート：
『チャーチニュース』の厚意により掲載

メキシコ、ワーハーカ

ヒンクレー大管長が次に訪問したのはメキシコのワーハーカであった。11月10日月曜日、大管長は約4,000人の会員たちに向かって説教を行った。同日の午後には、トゥストラグティエレスで会員たちに話す予定が当初組まれていたが、天候不良のため現地の飛行場が閉鎖されてしまった。大管長の説教を聞こうとトゥストラグティエレスに集まっていた会員たちは大いに落胆した。しかし、ヒンクレー大管長は電話であいさつの言葉を贈った。

「皆さんが住んでいるこの美しい国メキシコではすばらしい出来事が起きています」とヒンクレー大管長はワーハーカの会員たちに向かって語っている。

「過去100年間にわたって、福音は人々の生活に大きな影響力を及ぼしてきました。かつてのわたしたちは数も少なく力のない民でしかありませんでした。人々からは疑いの目で見られ、政府に冷遇された時期もありました。ところが、今や状況は一変しています。現在のわたしたちはこの地で社会的に高い評価を得ています。……何とすばらしい出来事でしょう。皆さんは現在世界中で1,000万人に上る聖徒たちの家族の一員です。そして、メキシコにはそのうち80万人が住んでいます。全教会員のほぼ10分の1がこの国に住んでいるのです。わたしたちは力ある会員の集まりとなりました。」

メキシコ、ビヤエルモサー

「このすばらしい会場に集まることのできたことを感謝しています。」11月11日火曜日、メキシコのビヤエルモサーに集まった5,000人以上の会員たちに向かってヒンクレー大管長は語り始めた。「わたしたちは先ほどタバスコ州知事とお会いしました。わたしたちがこの会場に集まることのできたのは知事の厚意によるものです。知事の配慮に感謝の気持ちを表したいと思います。さらに、わたしたちはロスピノ



ヒンクレー大管長と会見する
メキシコのエルネスト・セディジョ大統領。

写真/ジョン・L・ハート；
「チャーチニュース」の厚意により掲載

スの私邸においてメキシコの〔エルネスト・〕セディジョ大統領と非常に友好的な会談ができました。」

ヒンクレー大管長はその会見において、額に入れられた家族に関する宣言と教会に関する書物をセディジョ大統領に贈呈した。「セディジョ大統領に対して深い感銘を覚えました」とヒンクレー大管長は語る。「彼は非常に有能で、友好的、しかも大変に礼儀を重んじる方です。教会についてもある程度御存じです。」

ビヤエルモサーで壇上に立ったヒンクレー大管長は次のように語った。「わたしたちには現代の預言者を通して啓示された神の御言葉という真理があります。わたしたちはほかの人々が持っていないものを与えられました。しかしながら、多く与えられる者には多くのことが求められます。神はわたしたちに、隣人を愛することによって神に対する愛を示すように求めておられます。わたしたちが神の息子または娘であると教えている民は、世界中を探してもほかに見つけられません。皆さんにとってそれはどのような意味を持つでしょうか。それは皆さんの中に神の性質が秘められていることを意味します。皆さんの中にそのような性質があるならば、その神性と相反するような行動はできないはずです。わたしたちは一人一人が生ける神の子供であることを決して忘れないでください。」

メキシコ、メリダ

11月12日水曜日、ヒンクレー大管長

はメキシコ、メリダのポリフォーラムに集まったおよそ8,000人の教会員を前に説教を行った。同日、集会の前に訪れたチチュエントザのマヤ遺跡に触れて、大管長は次のように述べている。「わたしはその地に住んでいた偉大な民について思いをはせました。彼らの先祖はかつてイエス・キリストの福音に従っていたために平安を得ていました。しかし、彼らはその福音から離れてしまいました。そうした彼らの身に降りかかった出来事は悲惨なものでした。何千、何万と死んでいく自分の民の姿を目にし、一人残されて悲しみの叫び声を上げた預言者モルモン^の偉大な言葉をわたしは思い浮かべました。

『おお、美しい者たちよ、あなたがたはどうして主の道から離れてしまったのか。おお、美しい者たちよ、あなたがたは両腕を広げて立ってあなたがたを受け入れようとしておられた、あのイエスをどうして拒んだのか。……

おお、あなたがたは、この大きな滅亡が及ぶ前に悔い改めておけばよかったものを。しかし見よ、あなたがたはもう去ってしまった。御父は、まことに天の永遠の御父は、あなたがたの状態を御存じであ〔る。〕』〔モルモン6：17, 22〕

わたしは今日の午前中、チチュエントザを訪れ、その地で行われていた恐ろしい人身ごくう^の話を聞きながら、これらの言葉について考えていました。人々の誤った礼拝のために、長年にわたって無数の命が奪われました。わたしは父祖リーハイの心情に思いをはせました。リーハイはきっと自分の邪悪な子孫を見下ろして嘆き悲しんだことでしょう。」

メリダに滞在中、ヒンクレー大管長は新聞記者とのインタビューに応じている。「カトリック教会とはどのような関係にあるのですか」という記者の質問に対して、ヒンクレー大管長は次のように答えた。「わたしたちはカトリック教会やプロテスタント教会、そして世の中で善を行おうとしているすべての人々と非常に良い関係を築いています。わたしたちと彼らとの間には

論争や討論を戦わせる場はありません。彼らに反対することも戦いを挑むこともありません。それどころか、互いの仲は良い関係です。わたしたちは疑問の余地のない明確な福音を教えています。その福音が第一に挙げる偉大な原則はこれです。『わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。』（信仰簡条1:1）

ベリーズ、ベリーズシティ

11月13日、ベリーズを訪問したヒンクレー大管長は、同国を訪れた最初の管長となった。ベリーズはメキシコとグアテマラに挟まれた人口わずか21万5,000人の小さな国である。伝道活動は1980年に開始し、現在では約2,000人の教会員が3地方部13支部に所属している。ベリーズ滞在中のヒンクレー大管長には中央アメリカ地域会長会第一副会長で地域幹部七十人のフリオ・E・アルバド長老が同行した。大学の体育館で開かれた集会には約1,200人の教会員が出席して大管長の言葉に耳を傾けた。

「この集会に出席している父親と母親の皆さんは回復された福音を通して、皆さんの子供たちがどのような存在であるかを理解するようになりました」とヒンクレー大管長は述べている。



ベリーズで会員たちと歓談するヒンクレー大管長。

写真/ジョン・L・ハート

【チャーチニュース】の厚意により掲載

「彼らも神の息子であり娘です。彼らは神の子供です。光と真理の中ではなく、まればなりません。……回復された福音は夫婦の関係について教えています。夫婦は歩みを共にします。妻が夫の後について歩くではありません。伴侶として一緒に歩くのです。」

メキシコ、カンクーン

ヒンクレー大管長のメキシコ訪問において、最後の目的地となったのはカンクーンであった。カンクーンではステーキセンターに約2,000人の教会員が集まって大管長の言葉に耳を傾けた。「わたしの祝福と愛を皆さんに残して行きます。そして再び申し上げます。『また逢う日まで 神よ、共に在ませ』」とヒンクレー大管長は語った。「その時がいつ来るかは分かりません。けれども、今晚皆さんはゴードン・B・ヒンクレーが、永遠の父なる神が生きておられ、祈りにこたえてくださり、イエスがわたしたちの贖い主であり、救い主であられ、そしてわたしたちが携わっている業は御父と御子の業であることを知っている」と述べたことを決して忘れないようにしてください。」

アトランタ神殿

バプテスマフォントの再奉獻

ヒンクレー大管長は11月14日金曜日、メキシコからの帰途、ジョージア州アトランタ神殿に立ち寄り、より多くの教会員が身代わりのバプテスマに参加できるように一部を拡張した神殿のバプテスマフォントの再奉獻を行った。ヒンクレー大管長は1983年6月にアトランタ神殿を最初に奉獻した際、神殿のバプテスマフォントは将来拡張されることになるだろうと述べている。バプテスマフォントの再奉獻には地元の37のステーキから会長夫妻が出席した。アトランタ神殿では、アラバマ州、フロリダ州、ジョージア州、ケンタッキー州、ルイジアナ州、ミシシッピ州、ノースカロライナ州、サウスカロライナ州、テネシー州の全域または一部地域に住む教会員たちのために儀式が執行されている。

ユタ州立大学および ブリガム・ヤング大学における 礼拝集会

10月21日、ヒンクレー大管長はユタ州ローガンのユタ州立大学スペクトラム（講堂）に集まった末日聖徒の学生に向かって説教を行った。大管長は4つの基本的な義務について述べている。すなわち、個人の職業、家族、教会、自身に対する義務である。教会の奉仕に対する義務に関して、大管長は次のように語った。「教会をあなたの愛する友としてください。また、あなたの偉大な伴侶としてください。奉仕の召しがどの場所であっても召しを果たし、求められることを行ってください。あなたがたはあらゆる責任を果たすことを通して、力を増し加えられるのです。」

自身に対する義務については次のように語った。「主が子らのために定められた幸福を得るための偉大な計画について瞑想し、深く考え、感嘆する時間が必要です。……わたしはあるとき、デビッド・O・マッケイ大管長が十二使徒定員会の兄弟たちに向かって次のように語ったのを耳にしたことがあります。『兄弟の皆さん、わたしたちは瞑想に十分な時間を費やしていません。』わたしも心からそう思います。わたしたちの生活は極度に忙しくなっています。わたしたちは次から次へと駆け回り、深く考えることもなくただつかの間の目標を追いかけていたずらに時を過ごしています。わたしたちには自己を内省し、自らを向上するために時間を取ることが必要です。」

ヒンクレー大管長は11月4日、プロボのブリガム・ヤング大学キャンパスに集まった約2万3,000人の学生に向かって次のように語った。「わたしは皆さんが聖文の構成などといった知識以上のものを得ていることを願っています。皆さんが救い主の足跡を歩み、悩み苦しむ人々に手を差し伸べ、心から忠実に教会の奉仕の業を行い、愛と献身の精神をもって隣人に仕えるという大きな望みを持っていることを願って

います。]

「ブリガム・ヤング大学における経験」に関して、ヒンクレー大管長は次のように述べた。「皆さんと信仰の異なる人々に対して寛容と尊敬の気持ちを抱くことをこの大学で学んでください。イエス・キリストの福音は、人に対し偏見を持つようには決して導きません。また、独り善がりな考え、傲慢な態度を持つように導くことも決してありません。イエス・キリストの福音は兄弟愛、友情、他人に対する感謝の気持ち、尊敬と親切と愛へと人々を導くのです。」

モルモン大隊記念碑の再奉獻

「一般的に言って、わたしたちはモルモン大隊についてあまりよく知らないと思います。」11月1日土曜日、ソルトレーク・シティのユタ州庁の敷地

内にあるモルモン大隊記念碑の再奉獻に出席したヒンクレー大管長は語った。「皆さんは彼らが未開拓の広大なやぶの中を進軍したことを知っています。しかし知っているのはそれだけです。わたしが考えるに、1856年の手車隊が遭遇した苦難を除けば、モルモン大隊はほかのいかなる開拓者隊よりも大きな苦しみを経験しました。モルモン大隊はわたしたちに多くの教訓を残しています。わたしは彼らが残した教訓を心から大切にしています。」



ユタ州庁の敷地内にあるモルモン大隊記念碑の再奉獻に出席したヒンクレー大管長。
写真/マット・リーアー

1927年に奉獻され、この度改修されたモルモン大隊記念碑は、高さが9メートルあり、大隊の兵士をかたどったブロンズ像が据えられている。□

地域訓練集会の焦点は家族と改宗者

「わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。」(「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1996年6月号、10-11)

家族の大切さ、そして新たに改宗した人々を福音の活動のぬくもりの中にとどめることの必要性。最近十二使徒定員会の管理の下、世界各地で開催された地域訓練集会で強調されたのは、この2点であった。

10、11、12月にわたって開催された地域訓練集会では、「遣わされ」た(教義と聖約107:35)十二使徒定員会会員が2,400人以上のステーク会長、318人の伝道部長、51人の神殿長、652人の地方部長を指導した。また彼らは七十人第三、四、五定員会に属する137人の地域幹部七十人のために定員会集会を開き、また伝道部長セミナーも開催し

た。訪れた国は、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、アメリカの28か国に及ぶ。

集会の「カリキュラム」は1995年に出された家族に関する宣言と1990年代に出された大管長会からの重要な通達である。

改宗者一人一人を教会の活動の中で定着させる訓練の大切さについて、M・ラッセル・バラード長老はこう語る。

「ゴードン・B・ヒンクレー大管長の話聞いたことのある人はだれでもお分かりだと思いますが、大管長は教会に加入した人々をわたしたちが全力を尽くして定着させるよう、深く望んでいます。改宗者を一人失うことは、わたしたちにとって多大な損失です。」

バラード長老は集会の中で、ステーク会長と伝道部長がさらに密接に働くようになり、伝道活動に関してステーク会長にさらに多くの責任が与えられるようになったことを説明している。

バラード長老はこう語った。「ステーク会長は改宗のすべてのプロセスで、宣教師と手を取り合って働くよう

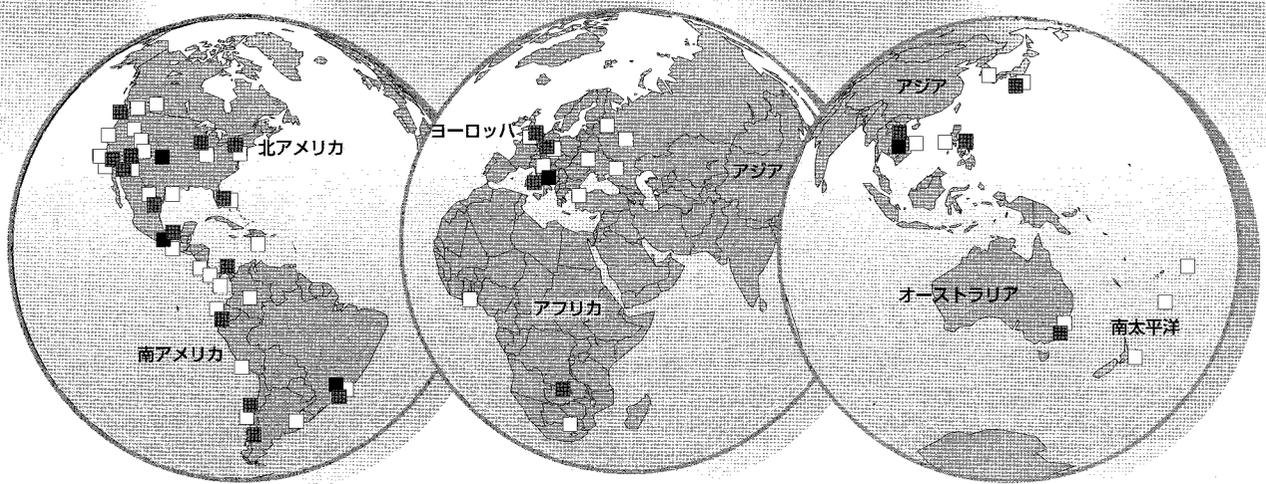
になります。これは非常に楽しみなことです。」

彼によれば、改宗者の定着に重要な役割を果たすのがワードならびにステーク評議会である。すべての改宗者の定着のために「評議会のメンバー全員で総力を挙げる」のである。

「もしも教会のすべての扶助協会が与えられた責任を果たして、教会に加入した新しい姉妹一人一人が愛され、責任を受け、友人の助けを得て養われ、活発に教会に集えるよう、それぞれの姉妹を見守るならば、また、若い女性会長が若い女性一人一人に、そして若い男性会長が若い男性一人一人に対し同様に行うならば、大きな進歩を遂げることができます。」

教会にあまり活発でない子供が一人も出ないよう、初等協会会長が組織を挙げて子供たちを養い育てたかどうかのようなことが起きるでしょうか。

ステークならびにワード評議会は、新たに改宗した人々の定着と教会にあまり活発でない会員の活発化のうえで



世界規模の訓練集會を指導する十二使徒定員會會員

□ 地域訓練集會
 ■ 伝道部長セミナー
 ■ 七十人定員集會

地図/クレーグ・ホリオーク
 「チャーチニュース」
 (Church News)
 の厚意により掲載

非常に大切な役割を果たします。」

バラード長老によれば、以上のメッセージは地域訓練集會において大いなる熱意をもって受け入れられたとのことである。「伝道部長とステーキ会長はこれまでも良い友達でした。しかしこれからはともに、改宗者一人一人が友達を見つけ、責任を受け、神の善い言葉で養われるように見届けなければなりません。」

ステーキ会長も伝道部長も、この事柄を監督やワード伝道主任に、また専任宣教師に教え、可能なかぎり力を合わせて働くことを約束してくださいました。彼らは完全な一致と協力の下に一つのチームとして働き、教会に加入した人々が教会から得られる祝福を残らず享受できるように、そして教会から遠ざかることがないように見守るのです。」

バラード長老はこの努力は必ず実を結ぶと考えている。「大管長が民に何かを行うように呼びかけるとき、わたしたちがその呼びかけに従って自分の分を果たせば、主は祝福を与えてくださり、最後には大きな成功を得られるのです。わたしはそう信じています。」

天の御父がその子らにバプテスマを受けるよう望んでおられることは疑いのないところですが、御父は彼らが神殿の祝福も受けられるように望んでおられます。しかし彼らが十分なフェロウシップを受けて教会に活発でなければ、それは不可能です。」

教会は過去に、訓練の目的ですべてのステーキ会長を10月総大会に招待し

ていたが、それが中止となった1988年から、地域訓練集會は開催されるようになった。現在、十二使徒定員会の會員が約6時間に及ぶ集會を各地域の中心地で開き、「現時点で急を要する事柄」について地元の指導者と話し合う。ほかの中央幹部もしばしば十二使徒定員會會員に随行して、この訓練集會に出席する。

教会本部の指導者によれば、この年のテーマは最近の総大会やそのほかの場所でピンクレー大管長が懸念を表明した事柄をフォローアップする形で選ばれたという。

「今回の意図は、これまで出された基本的な文書を一まとめにして前面に出し、その内容を強調することでした。」一人の指導者はそう語る。

「今回の訓練はかなり統一の取れたものでした。目指したのは、集會の中でそれらの文書を一字一句読んで出席者と内容について話し合い、全員が同じ理解のレベルに到達すること、そして一致のレベルにおいて地元の指導者たちが十二使徒定員會の水準に肩を並べられるようになることです。それを十二使徒定員會の會員が見届けるわけです。」

アーカンソー州フォートスミスステーキのロバート・W・ポマービル会長は、十二使徒定員會のジョセフ・B・ワースリン長老から指導を受けた一人である。

「わたしたちは今までよりも多くの事柄に取り組むようになりました。ワースリン長老から家族に関する宣言にもっと関心を払うように指導を受けた

からです。」電話でのインタビューに彼はそう答えた。「必要なのは會員の方々に確実に理解していただくことです。1998年1月を皮切りに6か月間、高等評議員にこのテーマで話をしてもらうことにしています。わたしたちは毎回の高等評議会で家族に関する宣言について訓練を行っています。彼らが毎月新しい資料を使って話ができるようにするためです。宣言には9つの段落がありますが、どれを取っても聖餐會全体をカバーできるような内容です。」

彼によれば、地元の指導者は今、このメッセージを一般會員に伝えるために全力を尽くしていると言う。「使徒の皆さんと同じぐらい努力しているかと聞かれると、はいとは言えませんが、でも努力しているとは思っています。」

ポマービルステーキ会長は過去6年にわたって地域訓練集會に出席してきたが、どれも啓発に富んだ内容だったと言う。「どの話も何に焦点を当てるべきかを的確に教えてくれるものでした。焦点を当てると言ってもなかなかできないことがあります。何かしたいが方法が分からない。しかし、この訓練は非常に前向きなことを教えてくれます。」

ニュージーランド、テンプルビューステーキのポール・オズボーン会長は太平洋地域の訓練集會に出席し、ボイド・K・バックナー十二使徒定員會會長代理から指導を受けた。電話でのインタビューに彼はこう答えてくれた。

「わたしたちは家族を再び教育するように教えられました。それで、神権

指導者に同じ指導をしようと思っています。

そして、安息日をよりよく活用したいと思っています。もっと子供と過ごせるように、集会スケジュールを再調整しました。今は、すべてが家族の大切さという点に集約されています。』

訓練集会の第2のテーマは、改宗者の教会活動への定着である。

集会の中でステーク会長に、地元の伝道部長を援助する権能が与えると発表された。自分のステークへの専任宣教師の派遣数ならびに派遣するユニットを伝道部長に進言することができるようになった。

十二使徒定員会の会員はまた、会員・宣教師調整評議会という新しい評議会の活動についても紹介した。この評議会は、1997年6月13日付けの大管長会からの手紙により承認されたものである。

この評議会は地域会長会の指示の下で働く地域幹部七十人の指導により、複数のステークが合同で一つの単位となって開かれるもので、地元の専任伝道部長とステーク会長が参加する。評議会では専任宣教師とステーク宣教師、教会員の働きを調整するとともに、ほかの重要な事柄についても話し合う。

評議会の規模は該当する地区内のステーク数により異なる。この評議会については地域訓練集会でも指導が行われた。また、ステークやワードでの評議会が効果的なものになる方法についても訓練が行われている。

伝道の基本方針についても強調された。1991年6月に大管長会と十二使徒定員会からステーク会長、伝道部長、地方部長、監督、支部長あてに出された、『福音を宣べ伝える際に考慮すべき基本事項』という手紙に記された内容である。

この5ページ（日本語は3ページ）にわたる手紙は、改宗と定着、活発化の間にバランスを保つことを強調している。伝道活動のこれら3つの分野は、同等に強調されなければならない。そしてこれらは、伝道活動を評価する際の基準になる。

「新会員を助ける」、これは大管長会が1997年5月15日付けで送付した手紙のタイトルで、聖餐会で読み上げるよう指示された。この手紙は、すべての新会員が「友情と責任と、福音の研究を通して与えられる霊の養い」を必要としていることを指摘している。

こう述べられている。「この御業はすべての人々のためのものです。すべ

ての会員に対して、この働きを支援してくださるようお願いいたします。皆さんが新しい会員に対して友情を示すことがぜひとも必要です。これに対して皆さん自身が責任を感じる事が求められています。』

オズボーン会長によれば、指導者たちは専任宣教師と改宗者を支援し、改宗者の定着に積極的にかかわるように指導を受けた。

「わたしたちはこのプログラムを実行に移し、ステークならびにワード評議会が従来よりもはるかに効果的なものとなるように、また、監督がさらに密接にかかわるようにしたいと思っています。」

もうすでに変えている事柄もあります。自分や家族の生活の見直しをするように皆さんに言いました。また、ふさわしい生活をし、もっと聖文に親しむようにお願いしています。』

彼は地域訓練集会への出席はすばらしい特権だと言う。「使徒としての権能を持つ方が来られて指導をしてくださるのですから、驚くべきことです。非常に強く感化されます。』□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1997年12月13日付けの記事から掲載。

新たに召された宣教師訓練センター所長

大管長会はこのほど、世界中の17か所の宣教師訓練センターのうち、8か所の訓練センターの所長を新たに召した。新所長とその夫人は1月12日から16日まで、ユタ州プロボの宣教師訓練センターで訓練を受け、その後2年間の任務に就いている。

日本宣教師訓練センターの所長には土田勝兄弟が召された。夫人の土田準子姉妹も同行する。

土田勝兄弟(60)は愛知県名古屋市中で土田照太郎と鶴飼すずの間に生まれた。準子夫人(旧姓若松)との間に4人の子供がいる。名古屋ステーク名東北ワード所属。これまで札幌伝道部の

土田所長ご夫妻



部長、副伝道部長、ステーク会長、地方部長、支部長、ワード伝道主任、日曜学校教師を歴任。三菱重工株式会社で事務技術職に従事した後、教会教育部で地区指導主事およびインスティテュート・ディレクターを務めた。

土田姉妹は愛知県名古屋市で若松頼と山田まさ子の間に生まれた。これまでワードならびにステーク扶助協会副会長、ステーク若い女性会長、セミナー教師、日曜学校ならびに扶助協会教師を歴任し、伝道部長に召された土田兄弟とともに札幌で奉仕した。□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により1997年12月13日付けの記事から掲載。

奉献された東京北ステーク坂戸ワード教会堂

祈りと感謝をもって すべてのことを行う

東京北ステーク坂戸ワード

三浦信一

1997年の東京北ステーク坂戸ワードのテーマ聖句は「祈りと感謝をもってすべてのことを行〔う〕」でした（教義と聖約46：7）。会員たちはこの聖句のとおり祈りと感謝をもって1年間頑張ってきました。その結果、御霊が豊かに注がれ多くの祝福を得ることができました。中でも、昨年の暮れに教会堂が建設され奉献された喜びと主への感謝の気持ちはほんとうに言葉では言い尽くすことができません。主の深い愛と導きに心から感謝しています。

新しい教会堂の奉献式は昨年12月28日に、アジア北地域会長会第一副会長のケンドリック長老をお迎えして執り行われました。御霊に満ちたすばらしい式に、152人も教会員が出席しました。ケンドリック長老の御霊あふれる奉献の祈りに涙する会員も多く見受けられました。そのような会員たちの姿を見て、改めて感謝の気持ちがこみ上げてくるのを感じました。

そもそも、川越ワードから坂戸支部が分割されたのは1995年9月のことです。しばらくは川越ワードの建物で集会が開かれましたが、東武東上線若葉駅の近くに以前学習塾として使用されていた建物を借りることになり、2年4か月の間そこで集会を行いました。2階は3つの部屋の壁をすべて取り払って礼拝堂の広いスペースを確保しました。建築士の方の話では多人数が一方に偏ると床が抜けるかもしれないということで、支部大会のときなどはひやひやしながら会を行ったものでした。

分割当初、聖餐会の出席は80人から90人くらいでしたが、徐々に増えて多いときには120人から130人にもなり、建物は次第に手狭になってきました。日曜日には各クラスのレッスンですべての部屋が埋まり足りないほどでした。



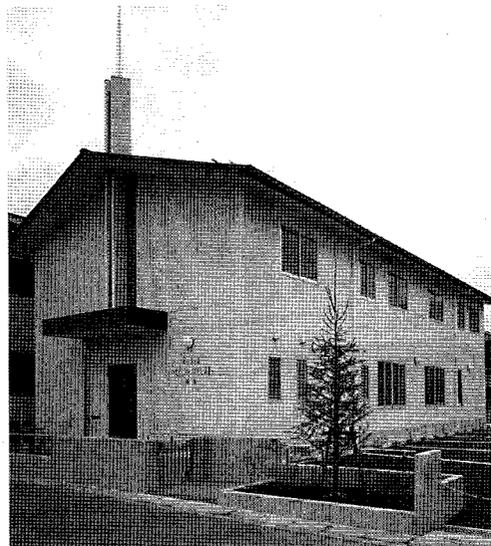
奉献式に集まった坂戸ワードの会員たち。

会員と面接をするのさえ部屋の確保が大変なこともありました。時にはワゴン車の中で初等協会のレッスンが行われましたが、子供たちにとっては車中でのレッスンはかえって冒険的で楽しそうでした。窓からのぞかせる明るい子供たちの笑顔は今でも忘れられません。

そのような2年4か月の思い出を会員一人一人が心に刻みつつ新しい希望を胸に若葉の教会を後にしました

新しい教会堂で迎えた1998年は「信仰と希望、慈愛を必ず持つように」（アルマ7：24）というテーマの下に、「家族を強める」という目標をワードとして掲げました。新しい教会堂というすばらしい祝福の下で、真実の福音を心から喜び、楽しみ、家族を整え坂戸の地に御霊が大きく前進するように皆で力を合わせて頑張っていく心積もりです。わたし自身未熟な者ではありますが、祈りと感謝の気持ちを忘れずに日々努力していきたいと思っています。

この教会は確かにイエス・キリストを頭とする教会であり、真実の福音がある教会であることを心から証します。（みうら・しんいち 監督）



新しく建設された坂戸ワード教会堂

東京北ステーク 坂戸ワード

所在地 〒350-0235
坂戸市三光町34-3
電話 0492-83-6218
竣工日 1997年12月13日
敷地面積 971.9平方メートル
建築面積 177.6平方メートル
延床面積 352.8平方メートル

「ソルトレイク市をご存じですか？」

長野地方部オープンハウス

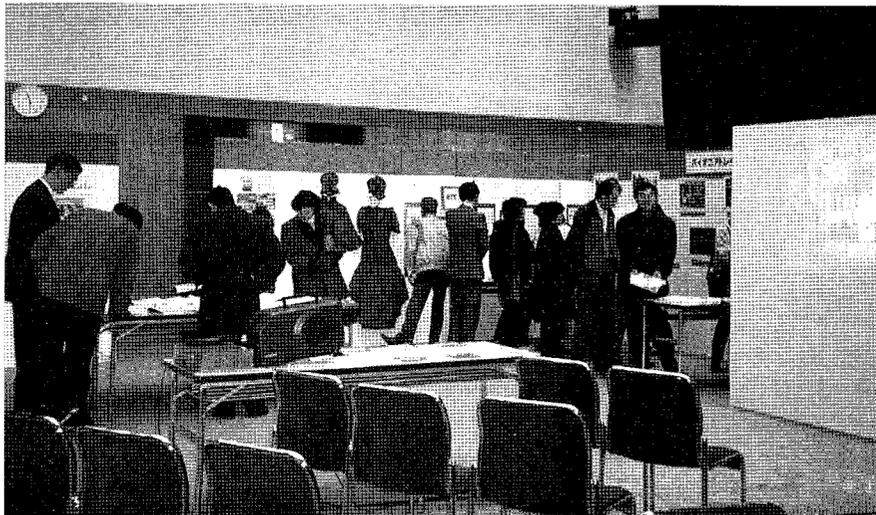
長野オリンピックに合わせた効果的な広報活動によって教会への理解が深まる

以下3つの長野発記事は長野地方部広報ディレクターを務める武井昇次兄弟（長野地方部長野支部）のレポートに基づいたものです。

第18回オリンピック冬季競技大会（長野オリンピック）が開かれた長野市の教会員たちは、大会期間中の2月17日から21日まで、公共の会場を借り切ってオープンハウスを開きました。「ソルトレイク市をご存じですか？」とのタイトルを掲げ、長野の次の冬季オリンピック開催地であるソルトレイク・シティーの紹介を通して、教会について知ってもらおうという催しでした。

そのきっかけとなったのは、以前、宣教師に何げなくもらった『チャーチニュース』(Church News)1996年8月3日付けの記事でした。そこにはアトランタオリンピックを訪れた人々のために教会の展示会が開かれたことが詳しく紹介されていました。わたしは地方部広報ディレクターとして、またそれ以前に教会員として、長野オリンピックという機会にどのようにかわれるかを模索していました。その「何かをしなければ」との思いに対する答えがここにあると感じました。おりしも長野オリンピック開催まで2年を切ったところ、これはいいぞ！ とばかりに早速、宣教師に記事を翻訳してもらって自分なりの構想を頭に描きつつ、地方部長とも連絡を取りみんなで具体的な案を練り始めました。

『チャーチニュース』のアトランタでの写真には、教会を前面に出して紹介している様子がありましたが、わたしたちが考えたのは、次期冬季オリ



ピック開催地としてソルトレイク・シティーをメインに紹介することでした。ところが調べていくと、アメリカは法律で政教分離が徹底しており、ソルトレイク冬季オリンピック組織委員会(SLOC)でも、教会の名前で主催する展示会に資料提供などの協力はできないことが分かりました。しかしまたまた来日されていたSLOCスタッフのステレット兄弟と、米国西部5州政府観光局日本地区代表の星野修兄弟を通じ、ユタ州政府商務省観光局が後援を約束してくれることになりました。1月末には写真、ポスターなど約百枚のパネルを始め、ビデオ、パンフレットなどの資料が無償で届けられました。ソルトレイクの四季の風景や神殿、記念碑、またユタに本拠を置くNBAのユタ・ジャズなど、人々の生活、歴史、観光を紹介する準備が整いました。

次の問題は会場の確保です。わたしは長野市でいちばん知名度の高い会場を考え、県民文化会館を選びました。しかし準備期間を入れて6日間、250人収容のホールを借り切るといのは大変にお金と体力を要することだと実感しました。

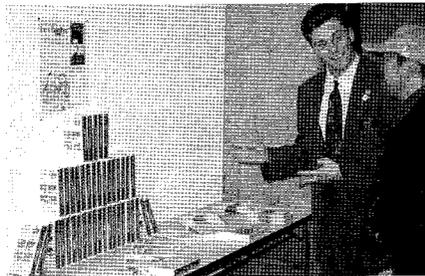
開催前日、ホールで準備していると、きから50人ほどの来場者がありまし

た。また翌日からはテレビ信州(日本テレビ系)、FMぜんこうじ、信濃毎日新聞(全県版)、長野市民新聞、デゼレト・ニュース(Deseret News, 2月28日付)、有線放送の取材などもあり、日増しに来場者が増えていきました。幸いなことに有名な会場なので何もなくても人が集まってくれましたし、中には別のホールの出演者で休憩時間に来てくださった方もいました。宣教師の献身的な働きと、時間を作って協力していただいた会員の働きもあって最終的な来場者は延べ約600人にも上りました。訪れた方の中には、昨年NHKの番組を見て「モルモン・パイオニア・トレイル」に参加した関口家族を知っている人も多く、「講演会はいつあるの」と何人もの人に尋ねられ返答に困る場面もありました。また予想以上に来場者が多く、ユタ州観光局からのパンフレットが4日目には底をついてしまいました。

後に関係者から聞いた話では、実はSLOCの方でもこのような展示会を企画していたのだそうです。しかし諸事情があって果たせなかったため、わたしたちのような民間レベルでソルトレイク・シティーを紹介できたことは、社会的にも意義の深いことだったとの言葉を頂きました。

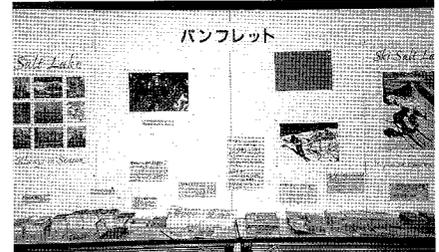


また良かったことは、アンケートを通じて来場者の声をたくさん聞く機会があったことです。皆さんが名前だけでしか知らなかったユタ州やソルトレーク・シティーを身近に感じてくださったことが分かりました。また回答してくださった方の中から希望に応じて『レッツ・ファミリング』ビデオ75本、『モルモン書』7冊をプレゼントするこ



とができました。家庭の夕べや英会話クラスに興味を示された方もかなりあり、アンケートに連絡先を明記して下さって宣教師が直接訪問できるお宅も45軒に上るなど、大きな成果が上がったオープンハウスでした。ほんとうに神様はわたしたちにすばらしいチャンスをプレゼントしてくださいました。

この展示は長野市での日程を終えた後、ソルトレーク・シティーの姉妹都市である長野県松本市に移動、松本支部の会員によって2月23日から26日まで公開されました。4日間の来場者が約200人を数え、『レッツ・ファミリング』ビデオを65本贈呈するなど、ここでも反響を呼びました。(レポーター：武井昇次、支部伝道主任)



4日でなくなってしまったパンフレットのコーナー。それぞれの解説文は、英会話にいられている方々の協力によって書かれた。

雪原に現れた大西部のロマン

長野オリンピック閉会式にフリガム・ヤング大学の学生たちが出演

2月22日、閉幕を迎えた長野オリンピックの閉会式会場が、ひととき大西部の風に包まれました。

この日、長野南運動公園では16日間の熱戦の最後を締めくくる閉会式が華やかに行われました。冬季五輪旗が長野市の塚田^{つかだ}佐^さ市長からIOCのサマランチ会長に返還され、2002年の次期開催地ソルトレーク・シティーのディーディー・コラディーニ市長へと引き継がれました。五輪開催都市初の女性市長であるコラディーニさんは五輪旗を大きく振り笑顔で大観衆にこたえていました。

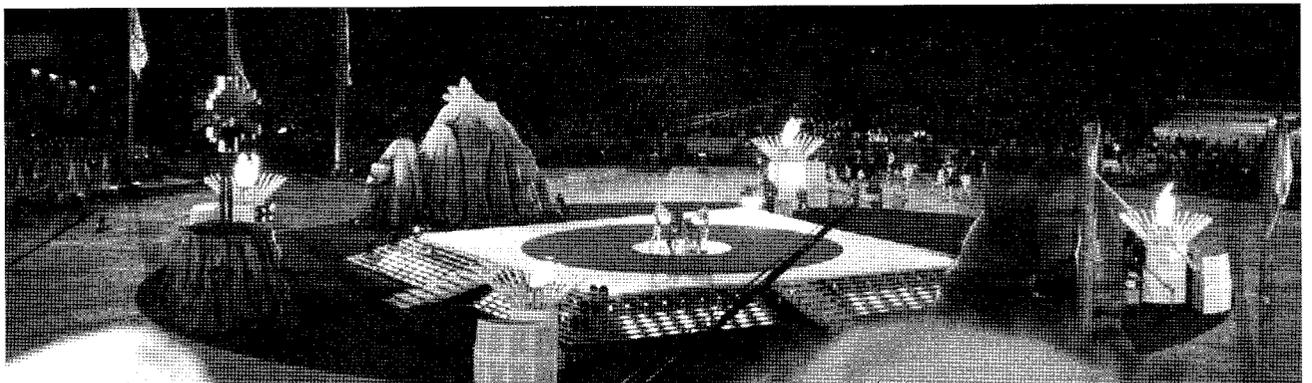
続いて舞台では、ソルトレークオリンピックのイメージを表現するプレゼ

ンテーションが始まりました。ロッキー山脈とユタの岩山を表す舞台装置の中、山と雪の精、砂漠と砂の精を表す6人のダンサーによるモダンバレエが披露されます。同時に力強い音楽が響き、馬にまたがる開拓時代の男たちに先導された駅馬車がさっそうと登場して会場を駆け巡りました。観客は突然出現した大西部の意外性と迫力に歓声を上げました。わたしの後ろに座っていた女性たちは「すごすぎる！」と口々に叫んでいました。馬上の彼らは、投げ縄や帽子を振ってのあいさつなどさりげないアクションにもアメリカらしい明るさを感じさせました。夕刻からの式典で観客席もかなりの冷え込み

が感じられましたが、ひととき寒さを忘れるようなさわやかな印象を残しました。

最後にはダンサーたちの優雅で滑らかなダンスがソルトレーク大会のマークを形作ってフィナーレを飾り、スタジアムの大型映像装置に「2002年、ソルトレークシティでまたお会いしましょう」の文字が浮かび上がりました。

ソルトレーク・シティーの使節として登場した彼らは、ブリガム・ヤング大学の学生を中心とした総勢約50人のメンバー。駅馬車や馬もすべてアメリカから太平洋を渡って輸送してきたということです。(レポーター：武井昇次)



十二使徒定員会ロバート・D・ヘイルズ長老特別ファイヤサイド

長野地方部では2月15日、ソルトレーク冬季オリンピック組織委員会の末日聖徒イエス・キリスト教会代表として長野を訪問されていた十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老を松本支部にお迎えして特別集會が行われました。

この日ヘイルズ長老は、この世を超えて家族が存在することの意味からバプテスマを受けることの意味、さらに光ある所にひかりは存在しないことなど、様々な教えを分かりやすく説かれました。



た。集まった235人の会員たちは熱心に耳を傾けていました。

その後、青少年、独身会員と宣教師とのファイヤサイドに臨まれ、80人ほどの若人に囲まれたヘイルズ長老は、質疑応答形式で話されました。前回の総大会で建設計画が発表された新しいタバナクルに関する話や、伝道に出ることの大切さ、教会の真の成長には3世代がかかることなど様々な興味深い話題を、くつろいだ雰囲気の中でお話しになりました。(レポーター：武井昇次)

……わたしの証……

ほんとうの幸福へ、主の御霊により導かれ

東京ステーキ三鷹ワード
京面久孝

同じように弁護士を目指す夏枝姉妹と出会ったのは、3年前の冬でした。吉祥寺の司法試験研究所で一緒に学ぶうちに親しくなり、交際をするようになりました。それから数か月たって彼女に結婚を申し込みました。「結婚するなら、わたしは教会員と結婚したいので」とあっさり断られました。それなら末日聖徒イエス・キリスト教会のことを勉強しようと思い立ち、『モルモン書』を読むようになりました。とはいえ、忙しさにかまけてじっくり読む時間をなかなか取れませんでした。お互いが歩み寄ることでわたしたちはさらに親しくなりました。

ところが、教会員ではないわたしとつきあっている姉妹を心配した彼女の親友が、わたしと姉妹を教会に呼んでいろいろと話してくれました。そして、その姉妹からぜひ日曜日の集會に参加するようにと勧められました。あまり気が進みませんでした。しかし、当時世間を騒がせていたほかの宗教のこともあり、もし彼女がおかしな宗教に

属していたらやめさせなければと思ひ日曜の聖餐会せいさんに行ってみることにしました。

教会へ足を一歩踏み入れた途端「しまった！」という思いがよぎりました。予想に反してとても雰囲気が良かったからです。ともすれば共感を覚えそうになる自分に気づき「自分も導かれてしまう」と感じ焦あかしりました。

また、聖餐会での証を聞いて、皆がまじめに福音を学び、忠実に歩んでいることを感じました。わたしは、姉妹がおかしな宗教に入っているのではないことを確認し安心しました。しかし、わたし自身は、一日中ゆっくり勉強に没頭できる日曜日に教会に行き、大好きなお酒を飲まず、という生活はできそうにもないと思いました。ただ、結婚しても彼女が日曜日に教会に行つて宗教を続けるのはかまわないと思ひました。

そうして、数か月が過ぎたころ、研究所の年に1度の恒例であるソフトボール大会が開かれることになりました。姉妹は野球のプロを助っ人に連れて行くからとはりきっていましたが、その助っ人というのが実はアメリカのプロ野球チームに在籍している教会の

宣教師でした。後で聞くと、わたしに突然教会のレッスンを受けてほしいと言つても拒否されるだろうと思ひ、自分の知り合いの宣教師がわたしの住む三鷹地区に転任して友達になれるように何度も祈つていたというのです。彼女の祈りは確かに聞き届けられました。なぜなら、わたしはその野球の上手なクリステンセン長老ととてもいい友達になったからです。そして、結婚するなら彼女の生活の基盤となつておくことをよく知つておく必要があると思ひ、自分からレッスンを受けることをお願いしたのです。

ソフトボール大会の後で、教会員のご家族の家庭の夕べに参加しました。この家庭の夕べはとても楽しい経験でした。何より、招待して下さつたご家族の姿に感激しました。素直な子供たちと、心から愛し合う夫婦。その家族の交わる光景をととてもほほえましく思ひました。家庭の夕べの間中、心に安らぎがありました。このときはまだ、教会員になる気持ちはまったくなかったのですが、自分も結婚したらこの家庭の夕べをぜひやりたいと思ひました。

そんな気持ちを感じながらもわたし

はバプテスマの勧めを断りました。祈りや断食も勧められるままに行っていました。ただ形式的にやっていたにすぎません。わたしにとって、福音はただ彼女の生活を理解するために必要なものだったのです。そして、やがて司法試験の日が近づいて勉強が忙しくなるにつれて教会から足が遠のいてきました。

神様からの声

姉妹とは相変わらず研究所で一緒に勉強していました。勉強を終えるのはたいい夜の10時ぐらいになることが多く、毎日自転車で吉祥寺から多摩霊園近くの彼女の自宅まで送るのが日課でした。彼女を無事に家まで送り届けて自分が家に帰って床に就けるのは夜中の2時ぐらいでした。そのため、睡眠時間も4時間ほどに減り体力の限界を感じていました。そして、「彼女のためにこんなに時間を使って、試験は大丈夫なんだろうか。自分の将来は大丈夫なんだろうか」と不安に思うようになりました。そんなある日、いつものように彼女を送り、帰り道の坂を自転車でゆっくり登っているときに、「大丈夫ですよ」という声が聞こえたように思いました。わたしは「ん？」と思い自転車をこぐ足を緩めると、もう一度はっきりと「大丈夫ですよ」と言う声を感じました。しばらくその声が耳に焼きついて離れませんでした。「一体、何が大丈夫なんだ」と考えていると、それは自分は試験のことを心配し、彼女のために時間を使うことを負担に思っているけれど、試験は大丈

夫だから時間を取られることを負担に思わないようにということだと感じました。そして、この声はひょっとして神様からの声ではないかと思いました。そして、この経験を通して神様はほんとうに生きておられることが心で分かりました。それから、相変わらず忙しい日々が続いていましたが、わたしの心は少しづつ神様に向き日曜日に一人でも教会に行くようになりました。もしこれが真実なら従わなければならないと思うようになっていたのです。しかし、10年間1日も欠かさずに飲んできたお酒を、自分からは進んで飲まなくても勧められると断ることができませんでしたし、教会に入ることは、自分の両親を含め生活のすべてを捨てて違う世界に行かなければならないことのような気がしてなかなか踏み切ることができませんでした。そのようなときに、姉妹の親友が神殿で結婚することになり、気が進まないながら東京神殿へ行くことになりました。わたしは、式の間ロビーでずっと待っていました。神殿の中では特に何も考えませんでした。帰り道でふと自分はここで結婚するという気持ちがわいてきました。そして、頭には姉妹と二人で写真を撮られている姿が浮かんでいました。

教会に出入りするようになって一年がたち、福音は真実であることに気づき始めていたわたしは、福音に基づいた生活をするのがほんとうの幸福ではないか、とこのとき強く感じました。ただ、教会でよく話す独身会員には若い世代の方が多く、30歳をとうに過ぎ

ているわたしが教会に入るのは遅いという気後れがありましたが、60歳や70歳を過ぎて改宗した兄弟たちの話をワードの聖餐会で聞いたり、『聖徒の道』で読んだりして随分勇気づけられました。そして、教会に入ることは別の世界に行くことではなく、ただ福音を土台とした生活を築くということでも心配は要らないことが分かり、神殿結婚をしたいという望みを持つようになりました。気持ちが決まると、早速自分からバプテスマを受けさせてくださいと伝道部のドアをたたき、1996年の9月にバプテスマを受けました。それから1年間待って1997年の11月に神殿で永遠に結び固められました。

結婚してから、毎朝、毎晩夫婦とともに祈り、聖文を学び福音のすばらしさを実感しています。

今こうしてわたしたち夫婦が福音の祝福を受けて生活できるのも多くの宣教師や兄弟姉妹、お互いの両親、そして先祖たちの助けがあったからこそと思っています。特に、結び固めの部屋に入った瞬間、祖父母をはじめとする先祖たちが祝福に来ていると強く感じました。改宗し、結婚するまでに目に見えない先祖の助けがたくさんあったと確信しています。

また、今まで福音とは関係のない生活をし、たくさんの弱点を持ったわたしでも、主は心にかけてくださって望みを持つ備えをさせてくださいました。神様がほんとうに生きておられ、わたしたちの祈りにこたえてくださることを証します。(きょうめん・ひさたか 書記補助)

望みを持つなら、道は備えられる

東京ステーキ三鷹ワード
京面夏枝

わたしは、1994年の7月にバプテスマを受けました。それから、1か月もたたないころ、西原良男兄弟による神殿結婚のファイヤサイドが開かれました。西原兄弟は具体的な目標を立て、必要なら断食し、毎日目標につい

て祈るなら主はその祈りを聞いてくださるといってお話をしてくださいました。わたしは、そのときは「なるほど」と思っただけでしたが、年が明けてから突然ふと思い出して実践してみることにしました。わたしが、京面兄弟に出会ったのはそれから1週間後のことです。そのときは、彼が永遠の伴侶であるとはまったく気づきませんでした。

た。なぜなら、年はわたしと10も離れ、大の酒好きで晩酌を毎晩欠かさないような人だったからです。そんな京面兄弟はわたしが思い描く将来の伴侶とは大きくかけ離れているように見えました。しかし、人知れず研究所のごみを捨てたり、掃除をしたりしている京面兄弟の姿を度々見かけ「この人は、天に宝を蓄える人だ」と感じ、次第に信

頼を置くようになりました。そして、やがていわゆるおつきあいをするようになる、神殿結婚という目標は次第に色あせていきました。もし、神殿結婚を望むなら、彼と別れなければならないと思ったからです。そして、神殿結婚のための断食もいつしかやめてしまいました。

福音を伝えよう

本来の目標から外れていくわたしを見て心配した親友が神権の祝福を受けるように勧めました。わたしは、教会員ではない彼とつきあい将来結婚することは主の御心ではないと思っていました。そのため、神権の祝福を受けたら彼と離れさせられるのは決定的だと恐れ、その勧めを拒みました。しかし、彼女は頑として譲らずわたしは神権者のもとへ連れて行かれました。その神権者は日曜学校の先生で、断食が大の苦手なわたしに断食をすることによって得られる祝福のすばらしさを教えてくれた兄弟でした。わたしは、祝福を受けるのが恐くて大泣きしていましたが、兄弟は、「それでも、御心のとおりになるようにとと思っているでしょう」と言って祝福を授けてくださいました。わたしはこの祝福によって主から力を受けるのを感じ、もっと積極的に彼に福音を伝えようと決心しました。それから、宣教師と彼が友達になるように祈っていました。そんなとき以前わたしのワードで働いていたクリステンセン長老とたまたま行っていた三鷹ワードでばったり会いました。これは導きだと感じました。そして、京面兄弟は彼からレッスンを受けることになりました。半年間レッスンを受けてきましたが彼はバプテスマの勧めを受け入れませんでした。彼が改宗することへの望みは捨てていませんでしたが、神殿結婚はできそうもないともはやあきらめていました。市民結婚をし、改宗するのはそれからでもいいと思いました。わたしは、市民結婚できるように土曜日の夜から断食して祈りました。そして、翌日の日曜日に教会に行くといろいろな人がわたしのところに

来て神殿結婚がどんなにかすばらしいかについて証してくれました。わたしは、主がわたしに市民結婚ではなく神殿結婚をするように望んでおられるのではないかと感じ、家に帰って祈りました。

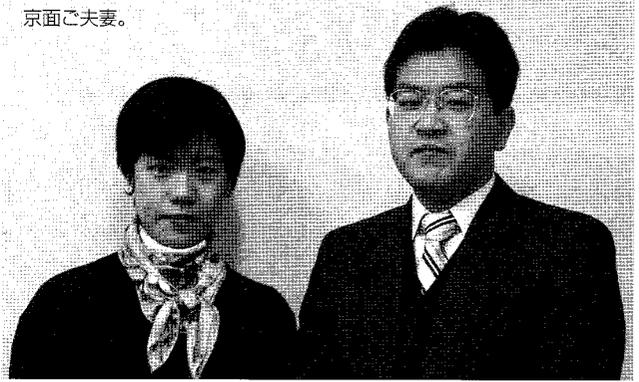
すると、心にはやはり神殿結婚をするべきであるという気持ちがわいてきました。しかし、神殿結婚をするべきだと感じてはいても、彼は絶対にそれを受け入れないだろうと思ったのでとても悲しくなりました。しかし、神殿結婚を望むことによって彼と別れることになってもわたしは主に従うことを選びようと決心しました。後はただ、彼にこのことを伝える勇気が得られるようにと祈るだけでした。

翌日、勇気を出して彼にそのことを切り出すと、彼は「ふうん」と特別驚いた様子もなく平然としていました。思いがけない彼の反応に思わず拍子抜けしてしまいましたが、彼に言わせると、数か月前にわたしの親友の結婚式に二人で神殿に行った際にここで結婚すると直感していたということでした。主が御霊を通じて彼の心に働きかけられたのだと感じました。

やがて兄弟は大好きだったお酒もやめました。教会員のご家族の方々の模範、レッスンをしてくれた宣教師、バプテスマを断ってもフォローし続けてくれた宣教師たち、会員の方々。こうした人々の助けと主の導きによって京面兄弟はバプテスマを受けることができました。そして、その1年2か月後にわたしたちは東京神殿で結婚することができました。ほんとうに神様の導きに感謝しています。

結婚して3か月がたちましたが、その間に試練もありました。でも、そんなときに兄弟が「ジョセフ・スミスは自分の召しを果たそうとしたときに、たくさんの試練に遭ったけど、彼は真理のために死ぬまで主に従って前進し

京面ご夫妻。



たじゃない。ほくたちが置かれている状況は彼が受けた試練に比べれば大したことじゃないと思うんだ。ほくたちにはできるよ」と言ってくれました。わたしは、主に従順で、主への確固たる証を持つ神権者とともに日々歩んでいくことは何てすばらしいことなのでしょうと感じました。神権が細くて狭い昇栄に至る道を歩んでいくためにほんとうに大切なものであると証します。

わたしは、時々自分が弱いためにつらく苦々しい気持ちを味わいましたが、そんなとき先祖の力を感じるために系図を調べました。兄弟のことも助けてもらうために、兄弟の方の先祖も調べることにしました。福音を受け入れた先祖がわたしたちを支え、兄弟が改宗することを助け導いてくださったと確信しています。

わたしはほんとうにたくさんの弱点がある弱い人間です。しかし、そんなわたしが正しい望みを持つようになったのは主の導きでした。主は友達や教会の兄弟姉妹、また宣教師たちを通してわたしに助言を与え、導いてくださいました。また、教会員とは違った生活をしてきた京面兄弟にも、主は豊かに御霊を与え導いてくださいました。人は現在、どんなに自分の望みとかけ離れた状態にあっても、祈りを通して主に求め続けるなら、主は御霊を与え、その望みに近づけるように導いてくださることを証します。わたしたちはただ主を信頼し、忍耐して、望み、そして祈り続けることです。

わたしたちの祈りは必ず主に聞き届けられることを証いたします。(きょうめん・なつえ 初等協会教師)

夏一番の特別な日

主の宮の大切さを改めて知ったオグデン神殿参入

奈良地方部奈良支部

大北千夏

1997年夏、わたしは3週間の日程でユタ州オグデンへ短期留学しました。オグデンのウィーバー・ハイツステーキランドビューワードで大祭司グループリーダーをされているダウニングご夫妻のお宅にホームステイし、その家の娘のように温かく迎えていただきました。わたしはご夫妻をパパ・ママと呼び、すばらしい時間を過ごしました。中でも8月14日はわたしにとってこの夏一番の特別な日となりました。こんな経験をするのはもう二度とないでしょう。

この日、ママさんはわたしが身代わりのバプテスマを受けられるようにオグデン神殿に予約をしてくれました。時間は夕方6時半からでした。2時半に学校から帰って来たわたしは、神殿へ行く準備をいつものとおりしていました。上機嫌できれいなドレスを着て、最後に忘れてはいけないと思って、推薦状を入れてあった封筒を見ました。封筒はありました。ところが推薦状が入っていませんでした。

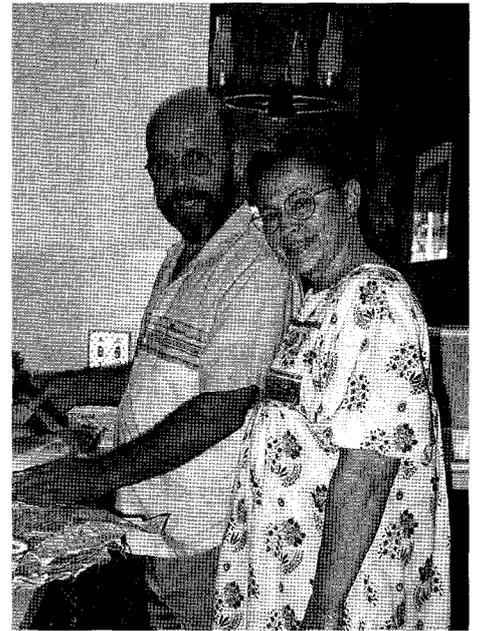
わたしは昨日、推薦状をパパさんとママさんに見せたことを思い出し、きっとその後どこか違う所にしまったのだと思いました。かばんや、聖典や、思いつくところすべてを捜しました。最初は気楽に捜していたのですが、どこにも見当たりません。わたしはだんだん焦ってきて、ママさんに一緒に捜してもらおうほどの騒ぎになってしまいました。わたしは故郷の母のこんな声を聞いたような気がしました。「これはあなたの信仰の表れです。神殿推薦状という大変大切なものをなくすなんて、いつもいい加減にしている結果です。あなたは神様を軽く考えているということです。」

ママさんは、「祈ってみたらどう？」と勧めてくれました。わたしはいつも

物をなくしたときだけ一生懸命に祈る自分が嫌いだったので、もう二度となくした物のためには祈らないと決めていました。だから最初ためらったのですが、わたしにはもうどこも捜す所がなかったので、祈ってみました。わたしは何度もなくした物を祈りによって見つけた経験があったので、必ず見つかるという強い確信がありました。祈っている最中に、とてもベッドの下が気になり、これは間違いないと思ってベッドの下を見ましたが、ありませんでした。そのときわたしは「神様は、わたしが神殿にふさわしくないと考えておられるんだ、行ってはいけないんだ」と感じました。ママさんにそのことを話すと、「それは、絶対に違うわ」と言ってくれました。

そして捜し続けていると、ママさんが見つめました。それは、乾燥機の中で粉々になってしまった紙くずでした。わたしはそれを見て、「これは、昨日ジーンズと一緒に洗ってしまったティッシュだ」と思いました。昨日の昼にそれを見つけて、わたしは「あ、またやっちゃった！」と思いママさんに謝ったばかりだったのです。

ママさんは「残念だけど、これ、あなたの推薦状だと思うの……」と言いましたが、わたしは認めませんでした。というより、認めたくなかったのです。でも、ママさんは一つのかけらをわたしに見せました。それは粉れもなく平仮名の「の」という字でした。わたしは全身の力が抜けていくのが分かりました。「これはわたしの信仰の表れです。わたしは神様と神殿を軽々しく扱った結果、足で踏みつけて粉々にしてしまったのです。もし、わたしがこれらの神聖さをよく理解していたら、こんなことにはならなかったでしょう。」わたしは、自分の愚かさに泣きました。



ホストファミリーのダウニングご夫妻。

しかしママさんは、わたしを大きく抱き締めてくれました。そしてありったけの愛情で慰めてくれました。「わたしだって、よくばかな失敗をしちゃって、いろいろな物を洗ってしまったわ。お金や、クレヨンや……。」

わたしは完全に神殿へ行くことをあきらめていました。だって、どうすることもできないからです。しかしママさんはわたしにこう聞きました。「あなたの支部長さんはファックス持ってる？日本から送ってもらえば神殿に入れてもらえるかもしれない……。神殿に聞いてみるわ。今、日本は何時かしら、支部長さんは起きていると思う？」

すごい！ママさんはあきらめていませんでした。彼女は忙しく電話をかけ始めました。どこへかけているのかまったく分かりません。わたしは電話もできないし、何もすることがないので、ただ右往左往しているだけでした。ママさんに「何をしたらいい？」と聞くと「祈り続けて」とにっこり笑って言われました。また、祈ることを忘れていた！わたしはすっかり祈りの習慣が薄れていたことに改めて気づかされて恥ずかしい気持ちでいっぱいでした。わたしは笑い返す元気もなく祈りました。どう祈ったか、どれだけ祈ったかは思い出せませんが、そうこうし

ているうちにママさんがわたしのところへ来てこう言いました。「この地域の指導者を待ちましょう。1時間で帰って来るそうだから。そして彼らに推薦状を再発行してもらえば、神殿は入れてくれるそうよ。」

わたしたちは待ちました。しかし1時間たっても何の変化もありません。時間だけがどんどん過ぎていきます。ママさんはまた慌ただしく電話をかけ始めました。なかなか神権者に連絡がつかない様子でした。わたしは英語圏での自分の無力さを感じました。

すると突然ママさんが「用意はいい? 行くよ!」と言い、わたしたちはステーキセンターへと向かいました。2分では着きました。前の人の面接が終わるのを待つ間に、ママさんは再度神殿に電話をしました。もう、とても間に合う時間ではなかったからです。電話を切って、ママさんは「大管長会があなたのために神殿に電話してくれたのよ!」と教えてくれました。そしてこう続けました。「もしかしたら、今日の神殿参入は無理かもしれないけど、落ち込まないで……。」わたしは英語で「大管長会」がよく分からなかったので、このときは「何だか大変なことになっているなあ」くらいにしか思っていないでして。しかし、必ず行けるといふ気持ちを感じました。

前の人の面接が終わって、わたしはアレンステーキ会長の面接を受けることになりました。アレン会長の英語はとても難しく、わたしは全神経を集中させて彼が何を言っているのかを理解しようとしていました。質問が終わったとき、不安な思いと同時にものすごくほっとしました。無事に推薦状を再発行してもらい、アレン会長に大きな感謝をしてわたしたちは神殿へ飛んで行きました。

こういうときに限って駐車場はいっぱいなものです。わたしたちは神殿からいちばん遠い所に車を停めて走りまわりました。そしてまさしく、ぎりぎりです

り込んだという感じでした。あんなに時間を気にしていたのに、神殿の中は相変わらず時間が止まっていました。ほんとうにさっきまで急いで走っていたのかなあ、と思いました。とても静かで、愛と平安に満たされた、まさしくそこは神聖な主の宮でした。

ママさんはわたしと一緒にフロントへ入るために、同じ白の衣を着ていただきました。儀式を待つ間、こんな自分でも、神殿に入ることを許されたことに感謝しました。ほんとうに大変なことをしてしまったという悔い改めの気持ちと、赦されたことへの感謝と、ママさん、アレンステーキ会長、そしてこのことにかかわってくださったすべての人々、そして天のお父様への感謝で、胸がいっぱいになり、涙が止まりませんでした。その間、ママさんはずっと肩を抱き締めていてくれました。わたしは300年前の、30人の姉妹の身代わりをしたそうです。このとき、ほんとうに亡くなった方々を思いました。彼女たちは300年の間、どんな気持ちでこの日を待っていたのだろうか……。神殿のパプテスマはとても早く、まるでスポーツのようですが、この日は彼女たちにとってほんとうに特別な日であることを知りました。

わたしたちはゆっくりと帰りました。(後で聞いたのですが、来るとき、信号はほとんど青だったそうです。ここにも神様の、神殿に参入させたいという優しい愛を感じました。)途中、ママさんはお礼を言うためにアレンステーキ会長のところへ立ち寄りしました。彼も、わたしたちが無事に神殿に着いたかどうか心配して、神殿に電話をしてくださっていました。そのとき、神殿の方がこう言われたそうです。

「電話を下さったのは、恐らくトーマス・S・モンソン副管長でしたよ。」このステーキに所属していないわたしがアレン会長の面接で推薦状を再発行していただくには、大管長会の許可が必要だったのです。わたしは、徐々に事の重大さが分かってきました。

今まで、何の障害もなく神殿に参入していたわたしにとって、ほんとうに今回の神殿参入は特別なものでした。この経験を通して、神殿とは何か、神殿に参入するとはどういうことなのか、深く考えました。わたしが考えていたよりも、神殿はほんとうに神聖で大切な所であること、そして神殿は真に主の宮であることの再確認にもなりました。また真の神権が、この末日の世に回復されたこと。神殿に参入することは大管長会までもが気にしてくださるほどの大切な大切な事柄であること。そして何より感謝したのは、この美しい神殿が日本にも与えられているということです。この推薦状は期限が切れても、わたしの大切な宝物になるでしょう。そしてこの経験を通してたくさんの方々から愛と証を頂けたことに感謝しています。

もう一つ、わたしは証を得ました。祈りは必ずこたえられるということです。これからも主を信じて、主に頼って信仰生活を送ることができるように努力したいと思っています。(おおきた・ちなつ 地方部宣教師)



大北姉妹。バプテスマのすぐ後、オグデン神殿の前にて。

専任宣教師

JMTC 220期生11人 海外3人

●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



山本和美
仙台伝道部
静岡ステーキ
静岡ワード



鳥居涼子
東京南伝道部
京都ステーキ
大津ワード



しらすな
白砂久恵
福岡伝道部
東京ステーキ
吉祥寺ワード



のりみち
中西規道
中国香港伝道部
我孫子ステーキ
牛久ワード



さちこ
稲垣幸子
福岡伝道部
三重地方部
四日市支部



小野貴代
福岡伝道部
仙台ステーキ
福島ワード



えのうえ
江上 恵
神戸伝道部
仙台ステーキ
米沢支部



植木敏郎
岡山伝道部
宇都宮地方部
古河支部



たかたえみこ
高田笑子
福岡伝道部
東京北ステーキ
中野ワード



きよし
長谷川 聖
カリフォルニア・
フレズノ伝道部
東京東ステーキ
長生ワード



あきら
中原 亮
カリフォルニア・
サクラメント伝道部
神戸ステーキ
西宮ワード



原野尚文
東京北伝道部
福岡ステーキ
久留米支部

役員の変動

1998年1月7日から2月4日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 札幌ステーキ札幌東ワード
監督:北山智之
- 大阪堺ステーキ橋本支部
監督:光川銀三
- 岡山ステーキ岡山ワード
監督:大森雅夫
- 福岡ステーキ井尻ワード
監督:森元正直
- 秋田地方部秋田支部
支部長:進藤伸之

皆さんの原稿を募集しています

◎「チャーチ・ニュース」では、現在以下のテーマについての記事を募集しています。

●セミナー・インスティテュートを通して得られた証。

1998年4月16日必着で下記までお寄せください。できれば写真を同封してください。

◎その他、一般のご投稿も歓迎いたします。

◎ご投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名を記入し、写真を同封のうえお送りください。採用された原稿は編集の際、要約や手直しをさせていただきます。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師たちを紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕、伝道部名、召された月を明記)

◎あて先:〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会『聖徒の道』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275

おわびと訂正

『聖徒の道』2月号、ローカル8ページの記事「『関西の教会開拓者』ファイヤサイドより」の文中で、事実関係の誤りがありましたので、おわびして訂正します。

1段目17行目
誤「会社側ももうけていたってもうけていないという会計を出してくるのですから、少しくらいのうそをつくのは当たり前かもしれません。しかしわたしにはそれができませんでした。」

↓
正「しかしわたしにはそれができませんでした。わたしたちの側が先にうそをつけば、もしも会社側がほんとうはもうけていたって、もうけていないという会計を出してきてもう文句は言えないと思ったの

です。」
2段目下から5行目
誤「そのころは『モルモン書』もそうたくさんはなかったの

↓
正「そのころはテキストもそうたくさんはなかったの、『信証講義』という本を輪読しました。」

2段目下から1行目
誤「あるテキストに『宝の玉』にはこう書いてある」とありました。」

↓
正「あるテキストに『無価の真珠』にはこう書いてある」とありました。」

3段目8行目
誤「阿倍野の新居支部長」

正「阿倍野の新井支部長」
3段目15行目
誤「新居長老」

↓
正「新井支部長」
3段目17行目
誤「上吉副部長」

↓
正「カネヘレ副伝道部長」

.....
『聖徒の道』3月号、「専任宣教師」「役員の変動」の欄に誤りがありましたので、おわびして訂正します。

誤 齊藤智美
↓
正 佐藤智美
誤 札幌西ステーキ藻岩支部
↓
正 札幌西ステーキ藻岩ワード